

ISSN 2759-6923

大磯町郷土資料館年報 第 37 号

年 報

—令和 6 年度—

2025

大磯町郷土資料館

OISO MUNICIPAL MUSEUM

は　じ　め　に

令和 6 年度大磯町郷土資料館年報を刊行いたします。

令和 6 年度は、令和 5 年度に引き続き、新たに大磯町の魅力を発信するため、町内にアトリエを構えた画家の加山又造を取り上げ、企画展を実施しました。本事業は、前年度に続き、第二弾の企画となり、次年度に第三弾の企画を実施して完了する予定です。美術館ではない博物館で、美術分野を専門とする学芸員がいない中、画家を取り上げる展示を実施することは挑戦とも言えますが、企画を実施することにより、新たに関係者とつながりを持てたことは、当館にとってプラスにはたらく側面もあるように思います。

偶然ではありますが、絵本朝鮮通信使や川端誠氏の絵本原画とタイアップした企画も実施しました。いずれも関係者及び関係機関との連携が欠かせない企画であり、改正された博物館法に規定される連携事業を具現化したものとなりました。

なお、当館は令和 7 年 2 月 25 日に改めて博物館法登録簿に登録しました(神奈川県第 10 号)。改正博物館法による再登録となりますが、改めて申請手続きを進めたのは、当館が今後とも変わらず、地域資料の収集、保管、調査研究を進め、広く地域の情報を発信する機関として運営していくことを表明したいと考えたためです。引き続き、郷土資料館・旧吉田茂邸の活動に御理解・御協力をお願いいたします。

大磯町郷土資料館

目 次

〔事業報告〕

大磯町郷土資料館運営	4
・組織および職員/協議会/予算	4
・観覧者数	5
大磯町郷土資料館施設管理	6
・維持管理	6
・施設使用	7
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理	7
・維持管理/施設使用	7
大磯町郷土資料館学芸活動	7
・常設展示/企画展	7
・ワークショップ	12
・研究活動	15
・博物館資料の整備	16
・刊行物/視察・見学対応/取材対応	17
・レファレンス対応	18
・ホームページを活用した情報発信	19
・博物館資料の収集・整備・利用	19
・文献資料収集状況	22
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）学芸活動	23
・ミニ企画展	23
・講演会	25
・調度品等の整備	25
・博物館資料の整備	25
・刊行物/視察・見学対応	26
・取材対応/レファレンス対応	26
学芸員の調査・研究・普及活動	27

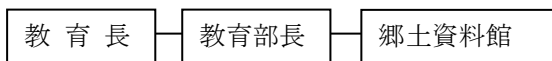
〔研究報告〕

大磯の左義長をめぐる基礎的研究—2024 年度の大北地区の動向を中心に—	
真保 元	32
大隈重信の大磯別荘に関する一考察	
長谷川 明香	54(5)
付表 新聞記事からみる大隈の動向（大磯別荘所有時期）	
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」	
富田 三紗子・荻野 龍子	58(1)
付表 「記憶簿」本編/付図 藩位置図	

事業報告

大磯町郷土資料館運営

■ 組織および職員



府川 陽一 大槻 直行 旧吉田茂邸利活用担当課長
館長 北水 慶一

主査	／学芸員	富田 三紗子
主事	／学芸員	鷹野 真子
主事	補／学芸員	真保 元
主事	補／学芸員	長谷川 明香

会計年度任用職員／学芸員	村田 聡美
会計年度任用職員／司 書	今井 沙穂里
会計年度任用職員	高山 優美、川下 多恵子（-R7. 3. 31）、佐藤 瑞香（-R7. 3. 31）、 西田 裕子（-R7. 3. 31）、花輪 弘枝（-R7. 3. 31）、鈴木 道子（-R6. 11. 30）、 石井 道朗（-R7. 3. 31）、加藤 さおり（-R7. 3. 31）、加藤 廣美 （R6. 4. 1-R7. 3. 31）、飯野 友紀（-R6. 11. 30）、吉野 美江 （R6. 12. 1-R7. 3. 31）、尾登 希実（R6. 12. 1-R7. 3. 31）

■ 協議会

＜委員の構成＞

- ・委員 長／近藤 英夫（学識経験者）
- ・副委員長／西川 武臣（学識経験者）
- ・委員／柴田 紳一（学識経験者）、古川 元也（学識経験者）、堤 智（学校教育関係者）、中島 美江（社会教育関係者）、大倉 祥子（観光関係者）、曾根田 玲子（観光関係者）、上野 広子（社会教育関係者、-R6. 6. 25）

＜協議会の開催＞

- | | | |
|----------------|-----|------------------|
| ・第1回／令和6年8月2日 | 議題1 | 令和5年度事業報告について |
| | 議題2 | 令和6年度事業について |
| | 議題3 | 旧吉田茂邸モデル実証事業について |
| ・第2回／令和6年11月6日 | 議題1 | 令和6年度事業について |
| | 議題2 | 旧吉田茂邸モデル実証事業について |
| ・第3回／令和7年2月14日 | 議題1 | 令和6年度事業について |
| | 議題2 | 令和7年度事業について |
| | 議題3 | 旧吉田茂邸モデル実証事業について |

■ 予算

＜当初予算の推移＞

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
金額	92,462千円	88,987千円	133,457千円	119,677千円	72,460千円	86,989千円

＜令和 6 年度歳入決算額（一部のみ）＞

- | | | | |
|--------------|--------------|-------------------|-----------|
| ・旧吉田茂邸観覧料 | 10,738,890 円 | ・吉田茂関連製品売上代 | 306,900 円 |
| ・旧吉田茂邸刊行物売上代 | 148,970 円 | ・郷土資料館刊行物売上代 | 285,540 円 |
| ・郷土資料館観覧料 | 307,800 円 | ・「わたしたちの大磯の歴史」売上代 | 66,000 円 |

＜吉田茂関連製品販売実績＞ 単位：個

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
バッグ (高マクラ)	1	1	1	0	0	1	0	1	2	1	2	0	10
バッグ (子沢山)	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	6
バッグ (旧吉田茂邸)	3	0	1	0	10	1	5	2	1	0	2	1	26
ファイル	0 (0)	18 (0)	14 (6)	14 (5)	10 (4)	6 (0)	23 (5)	22 (10)	13 (4)	10 (2)	7 (0)	9 (4)	146 (40)
チャーム	5	4	9	2	6	4	3	2	3	1	4	4	47
根付け	4	3	8	3	5	0	12	2	1	1	14	9	62
手拭い	7	4	7	2	16	3	17	7	6	11	6	4	90

※ファイルのうち、括弧書きの数字は郷土資料館販売分。

＜令和6年度歳出決算額＞

事業	郷土資料館 運営事務事業	郷土資料館 維持管理事業	郷土資料館 学芸活動事業	教育普及・ 企画展事業	
金額	1,551,993円	12,993,324円	3,048,684円	837,299円	
事業	旧吉田茂邸 運営事務事業	旧吉田茂邸 維持管理事業	旧吉田茂邸 学芸活動事業	大磯ゆかりの画家による アトリエ文化発信事業	計
金額	9,137,793円	8,037,799円	355,765円	2,938,285円	38,900,942円

□職員給与（5人分） 38,350,622円 ■歳出合計 77,251,564円

■ 観覧者数

＜郷土資料館観覧者数の推移＞ 単位：人、日

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	累計（昭和63年～）
入館者数	11,053	24,091	24,719	22,774	22,093	1,086,899
1日平均／開館日数	64／173	94／257	83／297	78／293	74／298	107／10,190

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度に続き令和2年6月15日まで、令和3年1月9日から3月21日まで臨時休館

※令和3年度は令和3年7月3日を大雨のため、7月6日から11日までは館内燻蒸のため、8月24日から9月30日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

※令和5年度は令和5年7月4日から9日までは館内燻蒸のため、臨時休館

※令和6年度は令和6年8月30日を台風10号に伴う大雨のため、臨時休館

＜郷土資料館の月別観覧者数＞ 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
入館者数	1,492	2,272	1,631	1,420	1,211	1,153	
1日平均	62	87	63	57	48	48	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	2,061	2,674	1,479	1,958	1,962	2,780	22,093
1日平均	79	103	64	85	82	107	74

＜旧吉田茂邸観覧者数の推移＞ 単位：人、日

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	累計（平成29年～）
入館者数	11,270	16,175	23,481	22,051	23,720	302,377
1日平均／開館日数	70／160	62／263	79／297	74／299	80／298	138／2,190

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度に続き令和2年6月15日まで、令和3年1月9日から3月21日まで臨時休館

※令和3年度は令和3年7月3日を大雨のため、8月24日から9月30日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

※令和6年度は令和6年8月30日を台風10号に伴う大雨のため、臨時休館

＜旧吉田茂邸（郷土資料館別館）の月別観覧者数＞ 単位：人

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
観覧者数	大人（個人）	1,411	2,317	1,158	842	679	1,053
	大人（団体）	74	284	375	58	35	403
	中学生・高校生（個人）	31	50	14	14	37	19
	中学生・高校生（団体）	0	0	0	0	0	0
	小学生以下	34	82	24	19	45	47
	障がい者／介護者	57	84	50	29	40	33
	減免対象者	47	38	163	47	37	15
計		1,654	2,855	1,784	1,009	873	1,570
1 日 平 均		69	110	69	40	35	65

		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
観覧者数	大人（個人）	1,565	1,806	1,360	1,205	1,589	1,613	16,598
	大人（団体）	256	554	221	393	1,378	763	4,794
	中学生・高校生（個人）	29	19	21	15	30	48	327
	中学生・高校生（団体）	0	0	0	0	0	0	0
	小学生以下	17	45	78	35	53	62	541
	障がい者／介護者	114	93	72	71	64	76	783
	減免対象者	6	65	66	32	109	52	677
計		1,987	2,582	1,818	1,751	3,223	2,614	23,720
1 日 平 均		76	99	79	76	134	101	80

大磯町郷土資料館施設管理

■ 維持管理

＜委託業務＞

- ・清掃委託／（株）日装
- ・警備委託／（株）全日警 横浜支社
- ・昇降機保守委託／ダイコー（株）横浜営業所
- ・敷地管理委託／（財）神奈川県公園協会
- ・中央監視装置保守点検委託／日本電技（株）横浜支店
- ・空調機器給水設備保守委託／（株）郵生
- ・自家用電気工作物保守委託／荻野電気管理事務所
- ・消防用設備保守委託／（株）足柄防災
- ・自動ドア保守委託／（株）神奈川ナブコ 厚木支店

＜修繕＞

- ・補修工作室漏水修繕工事／（有）岩田土木管工
- ・外部機械室水栓柱修繕／（有）岩田土木管工
- ・消火水槽端子盤交換／（株）足柄防災
- ・常設展示映像プレイヤー修繕／（株）丹青社
- ・中庭庇修繕／（株）大創建設
- ・園内灯修繕／（株）興電社
- ・洗面台排水詰まり修繕／（有）岩田土木管工

■ 施設使用

＜施設使用月別件数＞ 単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修室	0	2	2	3	5	2	2	2	0	1	0	3	22

旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理

■ 維持管理

＜委託業務＞

- ・清掃委託／高橋産業（株）
- ・警備委託／（株）全日警 横浜支社
- ・昇降機保守委託／（株）日立ビルシステム 横浜支社
- ・空調設備保守点検委託／（株）郵生
- ・消防用設備保守委託／モリタ宮田工業（株）
- ・敷地管理委託／（財）神奈川県公園協会

＜修繕＞

- ・障子張替工事／（株）大創建設

■ 施設使用

＜施設使用月別件数＞ 単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修室	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	5
食堂	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
金の間	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
全館	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2

大磯町郷土資料館学芸活動

■ 常設展示

民俗展示「大磯の漁業」、「日々の暮らし」増設

期 日／年間

趣 旨／平成28年（2016）のリニューアル以来、民俗展示は祭礼を紹介する「海に願う祭り・大地に託す祭り」、年中行事や民俗信仰を紹介する「祈りのかたち」の2つをテーマとしてきた。大磯町やその周辺地域の代表的な「ハレ」の習俗を中心に湘南地域の生活を把握できる展示といえる。一方、民俗学的には人々の暮らしは「ケ」つまりは日々の暮らしも重要であり、ハレとケの往還の中で人々は暮らしを営んできたことが明らかにされてきた。リニューアル後の当館の常設展示はハレのみに焦点を当てており、日常生活の様子をうかがうことができないことが課題であった。民俗資料の所蔵数も、信仰や祭礼の道具といったハレのものよりも日常生活で使う衣食住や生業の道具の方が多い。そのため、当館のテーマである「湘南の丘陵と海」にちなみ



「大磯の漁業」のブロック及び衣食住に重点を置いた「日々の暮らし」のブロックを設けた。

内 容／「大磯の漁業」は従来廻廊等に展示されていたハコブネの上に、企画展「川端誠さん絵本原画と民具の世界」で展示した漁具を中心に 20 点を展示した。あわせて大磯で行われてきた漁業である定置網漁や一本釣りの様子などをパネルで紹介し、大磯の漁業を概略的に把握できるようにした。「日々の暮らし」では、いわゆる「昔の道具」展で展示される衣食住の道具を 17 点展示した。従来、昔の道具の民俗展示は囲炉裏を中心とした電気が登場する以前の暮らしを紹介するものがみられるが、来館者によっては電化された暮らしで生活してきた方も多く、電化されていないころの暮らしの道具をそのまま展示しても、日々の暮らしの道具であると直ちに理解することは難しい。そのため、今回の展示替えでは冷蔵庫やテレビ、洗濯機といったいわゆる三種の神器をはじめとする高度経済成長期の道具を中心に展示した。なお、「祈りのかたち」は、従来空白状態となっていた常設展示室中央にある船形の展示台に移設した。

(担 当) 真保

■ 企画展

春季企画展「朝鮮通信使がやって来た！～絵本原画と古文書に見る朝鮮通信使～」

期 間／令和 6 年 4 月 27 日（土）～6 月 16 日（日）

開場日数／43 日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約 80 点

料 金／無料

協 力／「嶋屋」友の会

観覧者数／3,628 人

趣 旨／「嶋屋」友の会発行の『絵本朝鮮通信使』の原画を紹介するとともに、江戸時代の朝鮮通信使が当時の社会にどのような影響をもたらしたのか、主に大磯宿での対応を紹介することによって考察する。大磯町は、江戸時代、東海道の宿場町として賑わったことは知られているが、朝鮮通信使の通行は、その一端を示す事例とも言える。本展では、大磯の宿場町としての役割を、朝鮮通信使という、大磯では今まであまり注目されていなかった歴史事象に着目して紹介する。

内 容／『絵本朝鮮通信使』の原画の他、大磯宿に関する朝鮮通信使関係資料を展示し、大磯宿における朝鮮通信使関係の事柄を紹介した。

(1) 古文書に見る大磯の朝鮮通信使

展示ケース A、B に、明石藩の朝鮮通信使接待に関する資料（兵庫県立明石高等学校所蔵）、明和元年度の接待に関する資料（県立公文書館所蔵）等を展示し、それらの記録からわかる大磯宿における接待の様子を紹介した。合わせて、昇降台に大磯宿の模型を展示し、大磯宿の概要について解説した。

(2) 『絵本朝鮮通信使』原画

壁面 1 及び壁面 2 にて、『絵本朝鮮通信使』の原画を展示した。また、昇降台の周りに設置した可動式展示ケース内に、絵本の下絵を展示し、関連資料として唐人人形も紹介した。

【関連行事】

トークイベント

日 時／令和 6 年 6 月 16 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／大磯町文化財専門委員 細井 守 氏、「嶋屋」友の会 柏山 泰訓 氏、
イラストレーター 綱本 武雄 氏

参加者数／79 人

内 容／細井氏から「大磯宿における朝鮮通信使の接待」と題した講演をいただき、柏山氏及び綱本氏から「絵本が語る朝鮮通信使」と題して絵本の作成過程についてお話をいただいた。

(担 当) 富田



企画展「川端誠さん絵本原画と民具の世界」

期 間／令和6年7月13日（土）～7月31日（水）

開場日数／16日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約50点

料 金／無料

共 催／図書館をサポートする会大きなうち、町立図書館

観覧者数／1,049人

趣 旨／絵本作家川端誠氏の絵本原画とともに、絵本に登場する民具を中心に大磯の民具を展示する。

内 容／川端誠著『お化けの海水浴』の原画及び、原画に登場する民具を展示した。合わせて、大磯の海水浴場や漁業の様子を紹介するため、関係の資料（イタゴやチゲ、ビクなど）を展示した。

〔関連行事〕

絵本作家川端誠さん講演会「資料とともに絵本を描く」×郷土資料館学芸員による展示資料解説

日 時／令和6年7月27日（土）13時00分～15時00分

場 所／郷土資料館 研修室・企画展示室

講 師／絵本作家 川端 誠 氏、当館学芸員 真保 元

参加者数／39人

内 容／川端氏に絵本の制作過程に関するお話をいただき、
展示を担当した当館学芸員が展示解説を行った。

（担 当）真保・長谷川



企画展「加山又造と大磯」

期 間／令和6年10月19日（土）～11月17日（日）

開場日数／25日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約100点

料 金／大人500円、中高生200円

協 力／（有）加山

観覧者数／721人

趣 旨／日本画家の加山又造は、1989（平成元）年に、大磯にアトリエを構えた。このアトリエは、長男で陶芸家の加山哲也の工房でもあり、大磯は家族と共に創作活動を行う場でもあった。本展では家族や大磯での画家との交流に注目し、関連作品や、作品の製作に使われた画材等を紹介する。

内 容／主に大磯で描かれた作品を中心に展示した。また、作品の製作に使用された画材もあわせて紹介した。

（1）加山又造と大磯

大磯にアトリエを構えた経緯などを解説パネルで紹介した。

（2）加山又造と印刷文化「堀文子の導き」

加山又造の師で大磯にアトリエを構えた堀文子は、加山に挿し絵などの仕事を紹介した。加山が挿し絵を描いた絵本などを、実物や原画を展示することによって紹介した。

（3）加山又造の大磯での日々「自然の中での暮らし—親子共作の時間」

大磯で描かれた銅版画作品や、長男で陶芸家の加山哲也と共に製作した作品を展示した。

（4）加山又造のカラス「心象の表現—自画像としての図像」

加山又造が長く題材としたカラスの銅版画作品を紹介した。

その他、愛犬や愛猫を描いたコンピューターグラフィックスの作品も紹介した。

〔関連行事〕

対談

日 時／令和6年11月9日（土）13時30分～15時30分

場 所／郷土資料館 研修室



講師／加山 哲也 氏、安田 由紀夫 氏、元高島屋美術部顧問 中澤 一雄 氏（司会）

参加者数／67 人

内 容／加山又造の御子息・加山哲也氏と安田鞆彦の御令孫・安田由紀夫氏の対談形式で、加山又造の創作活動や大磯に展開した画家との交流、家族から見た画家たちの素顔を紹介した。

〔関連商品の販売〕

（有）加山が販売する関連商品の販売を受託した。クリアファイル、付箋、一筆箋の販売を受託し、総点数 147 点、79,855 円（内町収入分は 15,890 円）の売上げがあった。

（担 当）北水・富田

大磯町教育委員会・公益財団法人かながわ考古学財団普及連携事業

企画展「縄文後期の配石と墓域 -大磯町石神台遺跡を中心に-」

期 間／令和 7 年 1 月 18 日（土）～2 月 2 日（日）

開場日数／14 日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約 130 点

料 金／無料

協 力／公益財団法人かながわ考古学財団

観覧者数／1,147 人

趣 旨／埋蔵文化財の発掘等調査成果をもとにした文化財保護や普及活動を通して、地域文化に寄与することを目的として、大磯町での発掘調査の成果に加え、かながわ考古学財団の調査成果を紹介する。普段みることのできない遺物等の資料を実見できる機会をつくる。

内 容／大磯町の石神台に所在する石神台遺跡の調査成果を中心に、縄文時代後期の配石遺構や土坑墓を写真で紹介し、遺跡から出土した遺物を展示した。かながわ考古学財団が調査した、伊勢原市や秦野市の同様の遺跡も紹介した。

<紹介した遺跡> 石神台遺跡（大磯町）、大磯小学校遺跡（同）、子易・中川原遺跡（伊勢原市）、上粕屋・秋山遺跡（同）、稲荷木遺跡（秦野市）

〔関連行事〕

講演会

日 時／令和 7 年 1 月 26 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／副町長・公益財団法人かながわ考古学財団理事 鈴木 一男 氏、
公益財団法人かながわ考古学財団 野坂 知広 氏

参加者数／70 人

内 容／展示内容に関連して大磯町の石神台遺跡及びかながわ考古学財団が調査した遺跡について、講話した。

（担 当）國見



春季企画展「大磯のひな人形」

期 間／令和 7 年 3 月 1 日（土）～5 月 11 日（日）

開場日数／60 日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約 20 セット

料 金／無料

観覧者数／6,201 人

趣 旨／3 月 3 日は桃の節供とよばれ、ひな祭りが行われ、ひな人形が飾られる。桃の節供が何か、なぜひな人形を飾るのか、大磯ならではのひな祭りのあり方を、郷土資料館が所蔵するひな人形を展示することによって考察する。また、ひな人形だけでなく、大磯で伝わるつるし飾りである御船祭のオサルサンや、現在の住宅事情にあわせた私たちの暮らしの中での等身大のひな祭りのあり方も紹介する。企画展を通して、来館者が、



大磯のさまざまなひな人形や、年中行事に触れることを目的とする。
内 容／当館所蔵のひな人形を中心に、民俗学における年中行事、節供や人形を伴う大磯を含めた近隣地域の習俗を紹介した。

(1) 年中行事と桃の節供

民俗学的には桃の節供は年中行事に分類されるものであり、年中行事および節供という言葉、桃の節供について解説パネルを中心に展示した。

(2) 民俗地図と桃の節供

桃の節供の行事内容を文化庁刊行の『日本民俗地図』や大磯町史、平塚市史、二宮町民俗調査報告書などをもとに、全国（マクロ）・近隣（メゾ）・大磯町内（ミクロ）のレベルでわけて展示した。

(3) ひな人形の諸相

当館所蔵のひな人形を、江戸期から昭和期にかけて親王飾りの形で通史的に展示した。

その他、番外編として町指定民俗資料（無形民俗文化財）である大磯御船祭の船形山車に飾られるつるし飾り、オサルサンを展示した。

〔関連行事〕

展示解説

日 時／①令和7年3月15日（土） ②4月12日（土） ③5月11日（日）

いずれも14時00分～15時00分頃

場 所／郷土資料館 企画展示室

参加者数／①7人 ②20人 ③20人

内 容／展示担当者が展示を解説した。

城山庵におけるひな人形の展示

日 時／令和7年2月21日（金）～3月27日（木）

場 所／県立大磯城山公園 城山庵

内 容／茶室「城山庵」において郷土資料館が所蔵する七段飾りを展示した。

つるし雛の展示

日 時／令和7年3月1日（土）～4月30日（水）

場 所／郷土資料館・旧吉田茂邸

内 容／市民が作成したつるし雛を展示した。

（担 当）真保・長谷川

ミニ企画展「資料と証言に見る大磯と戦争」

期 間／令和6年8月2日（金）～9月29日（日）

開場日数／50日間

会 場／郷土資料館 廻廊

出品点数／約15点

料 金／無料

観覧者数／2,364人

趣 旨／令和3年度の事業としてまとめた「資料と証言に見る大磯と戦争」のポスターを展示し、戦争中の大磯の様子を、特に町民に対して伝える。

内 容／「資料と証言に見る大磯と戦争」ポスター9枚を、郷土資料館廻廊に掲示した。また、関連資料として、郷土資料館が所蔵する戦争関係資料数点を展示ケース内にて展示した。

（担 当）富田・長谷川

ミニ企画展「のぞいてみよう海の中～相模湾の色とりどりの命～」

期 間／令和6年10月2日（水）～令和7年1月5日（日）

開場日数／76日間

会 場／郷土資料館 廻廊

出品点数／9点

料 金／無料

観覧者数／6,332人

趣 旨／相模湾に生息する色とりどりの生物を写真で紹介する。

内 容／「相模湾に生息する「サンゴの仲間」「サンゴに隠れる生物」「魚類」「海藻」「海藻に隠れる生物」「ウミウシ類」「甲殻類」「不思議な生き物」の写真を、ポスターにまとめて掲示した。

(担 当) 高山

明治記念大磯邸園東地区暫定公開記念ミニ企画展「大隈・陸奥・古河と大磯」

期 間／令和7年1月7日(火)～6月29日(日)

開場日数／148日間

会 場／郷土資料館 廻廊

出品点数／9点

料 金／無料

観覧者数／12,557人

趣 旨／令和6年11月23日から明治記念大磯邸園の東地区(旧大隈重信別邸・旧陸奥宗光別邸)の建物公開が始まり、暫定公開となったことをきっかけとして、大隈・陸奥・古河の3人を取り上げ、彼らの事績と大磯の別荘について紹介する。

内 容／大隈・陸奥・古河の人物及び大磯の別邸を紹介するポスターを掲示した。

(担 当) 長谷川

大磯自然発見コーナー

趣 旨／大磯町内で採集できる自然資料などを館内に展示し、自然観察の参考となる情報を提供する。自然環境に関心を高めるきっかけつくりにつなげる。

〔第1回〕「高麗山で咲く花たち ―春―」

期 間／令和6年5月3日(金・祝)～10月17日(木)

出品点数／15点

内 容／タブノキやスダジイを中心に多様な草木が生育し、季節によって色とりどりの花を見ることが出来る町内の高麗山で撮影した花の写真を展示し、実際に見られる花を紹介する。

〔第2回〕「高麗山で咲く花たち ―夏―」

期 間／令和6年10月18日(金)～令和7年1月21日(火)

出品点数／15点

内 容／6～8月の夏に高麗山で見ることのできた花について、写真を展示することによって紹介する。

〔第3回〕「ヘビ ―実はこんなにいるんです―」

期 間／令和7年1月22日(水)～9月9日(火)

出品点数／9点

内 容／大磯町で見られるヘビの標本や写真を紹介する。

(担 当) 高山・村田

■ ワークショップ

＜古文書裏打クラブ＞

期 日／令和6年4月20日(土)、5月18日(土)、6月15日(土)、7月20日(土)、8月17日(土)、9月21日(土)、10月19日(土)、11月16日(土)、12月21日(土)、令和7年1月18日(土)、2月15日(土)、3月15日(土)

場 所／郷土資料館 研修室

会 員 数／15人

活動内容／裏打ちの技術を学びながら、当館で所蔵している古文書の裏打ちを行うワークショップ。博物館資料の整理というボランティア的な性格をもつ活動として位置づけ、平成16年度から継続している。活動内容は、昨年度に引き続き、襖に下張りされていた古文書などの資料化を進める。なお、会員は随時募集し、本年度は2名が退会し、2名が入会した。

参加者数／ 単位：人

開催日	4/20	5/18	6/15	7/20	8/17	9/21	10/19	11/16	12/21	1/18	2/15	3/15	計
参加者数	10	14	9	13	8	11	13	9	12	9	11	12	131

(担 当) 富田・鷹野

＜古文書解読クラブ＞

土曜日の会

期 日／令和6年4月7日（日）、5月4日（土）、6月1日（土）、7月6日（土）、8月3日（土）、9月7日（土）、10月5日（土）、11月2日（土）、12月7日（土）、令和7年1月11日（土）、2月1日（土）、3月1日（土）

場 所／郷土資料館 研修室

会 員 数／11人

活動内容／郷土資料館が所蔵する古文書を会員と共に解読することにより、大磯の歴史を学び、古文書資料の活用を図ることを目的として、平成24年度から毎月第一土曜日を原則として活動を始めた。町指定文化財である大磯宿小島本陣資料の休泊帳を解読し、翻訳文を刊行することを目指している。なお、会員は随時募集し、本年度は2名が退会し、2名が入会した。

参加者数／ 単位：人

開催日	4/7	5/4	6/1	7/6	8/3	9/7	10/5	11/2	12/7	1/11	2/1	3/1	計
参加者数	6	5	6	7	7	5	7	5	4	7	7	7	73

金曜日の会

期 日／毎週金曜日を原則として実施

場 所／郷土資料館 研修室

会 員 数／5人

活動内容／毎月第一土曜日を原則として活動する古文書解読クラブの会員有志によって始まった活動。本年度から金曜日の会として独立した。大正期の大磯町助役が作成した雑書綴りの目録を作成している。

参加者数／ 単位：回、人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実施回数	4	5	3	4	2	3	3	3	4
参加者数	15	17	14	18	10	14	12	10	12
	1月	2月	3月	合計					
実施回数	4	4	3	42					
参加者数	15	20	15	172					

（担 当）富田・鷹野

＜写真整理クラブ＞

期 日／令和6年4月11日（木）・25日（木）、5月9日（木）・23日（木）、6月13日（木）・27日（木）、7月11日（木）・25日（木）、8月8日（木）・22日（木）、9月12日（木）・26日（木）、10月10日（木）・24日（木）、11月14日（木）・28日（木）、12月12日（木）・26日（木）、令和7年1月9日（木）・23日（木）、2月13日（木）・27日（木）、3月13日（木）・27日（木）

場 所／郷土資料館 研修室

会 員 数／4人

活動内容／郷土資料館が所蔵する写真を会員と共に整理し、資料の活用を図ることを目的として、平成28年度から毎月第二、第四日曜日を原則として活動を始めた。今年度も引き続き、町広報担当者が撮影した写真のフィルムをスキャンし、デジタル化する。また、必要に応じてフィルムの清掃を行う。ネガフィルムのアルバム全28冊の内、19冊目（資料番号N19）まで、フィルムをデジタル化した。なお、令和5年度から参加者及び担当者の都合により原則第二、第四木曜日に活動することになった。本年度は会員を募集しなかった。

参加者数／ 単位：人

開催日	4/11	4/25	5/9	5/23	6/13	6/27	7/11	7/25	8/8
参加者数	3	3	3	3	4	4	4	3	3
開催日	8/22	9/12	9/26	10/10	10/24	11/14	11/28	12/12	12/26
参加者数	4	4	4	3	5	3	3	4	3
開催日	1/9	1/23	2/13	2/27	3/13	3/27	計		
参加者数	3	2	4	3	4	4	83		

(担当) 富田

<海の教室>

特定の学問分野にかかわらず「海」をテーマに様々なことを体験し、楽しみながら海岸環境や海産生物についての知識を深めることを目的に平成12年度から実施している。

「海を学ぼう！楽しい海藻おしばづくり」

期 日／令和6年7月24日（水）

場 所／郷土資料館 研修室

参加者数／40人

	大人	子ども
午前	9	13
午後	5	13
計	14	26

内 容／現在全国的に磯焼けなど藻場が減少している。海藻の大切さ、海の森の大切さ、陸の森と海の森のつながりなど、DVD教材を使用し、海の環境保全の大切さを解説する。その後照ヶ崎海岸をはじめ神奈川県県の浜辺で拾った海藻を使った海藻おしばづくりを行う。

(担当) 高山

「海の漂着物で君だけの作品を作ろう！」

期 日／令和6年8月8日（木）

場 所／郷土資料館 研修室

参加者数／17人（大人3人、子ども14人）

内 容／漂着物には自然のもの、人工のもの、海のもの、陸のものなどがある。漂着物を知ることと海の中には陸からでは見ることが出来ない生き物がいることや人の関わった様々なものが流れ着くことを知ることが出来る。人間が出した物が自然界に影響を与えていることを知り、身近な海の環境に目を向けるきっかけとする。また、実際に大磯の海岸で拾うことのできる漂着物を使って作品を作る。

(担当) 村田

<町内施設クイズラリー>

「いそべえとあおみからの挑戦状！～おいそ夏休みクイズラリー～」

期 日／令和6年7月20日（土）～8月31日（土）

場 所／郷土資料館・旧吉田茂邸・県立大磯城山公園・鳴立庵・旧島崎藤村邸

参加者数／9人（上級4人、初級5人）

内 容／子ども及び子育て世代への町に対する興味関心や文化施設の利用を促すことを目的として、町内施設を利用した夏季休業中の子ども向け周遊クイズラリーを実施する。クイズを全て回答した参加者には、景品として缶バッジを郷土資料館にてお渡しする。

(担当) 長谷川・真保

<甲冑ワークショップ>

「甲冑を着てみよう！～日本の甲冑のお話と模擬甲冑の試着～」

期 日／令和6年10月12日（土）

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／神奈川県立歴史博物館 梯 弘人 氏

協力者／北條手作り甲冑隊 荻野 龍子 氏、
駒澤大学大学院修士修了・日本中世史専攻 高垣 元 氏

参加者数／19 人（大人 14 人、子ども 5 人）

内 容／郷土資料館所蔵の伊藤博文から大磯小学校へ贈られたと伝わる甲冑を題材として、日本で
使用された甲冑の仕組みを紹介する講座を行い、実際に模擬甲冑（手作り甲冑）を試着す
ることによって、甲冑に関する理解を深めた。

（担 当）富田・長谷川

■ 研究活動

民俗調査

内 容／コロナ禍を経て、町内各地の祭礼等の民俗行事が再開されつつある。民俗行事は時代ごと
の影響を受けやすく、現在の様態の記録が急務であると考え、当該年度は祭礼などの無形
民俗文化財（未指定を含む）を中心に調査を行った。

調査先	内容	月日
高麗地区	高麗の山神輿	4 月 20 日、21 日
国府地区	相模国府祭	4 月 29 日～5 月 6 日
国府新宿地区	ひな人形	5 月 14 日
大磯南下町地区	大漁旗	6 月 7 日
大磯山王町地区	生活道具	6 月 12 日
国府新宿地区	ひな人形	6 月 14 日
大磯山王町地区	民家	6 月 15 日
大磯北下町・南下町地区	御船祭	6 月 22 日～23 日
国府新宿地区	廻り地蔵・年中行事	6 月 26 日
国府新宿地区	八坂神社祭礼	6 月 29 日～30 日
国府中丸地区	八坂神社祭礼	7 月 6 日～7 日
大磯南下町地区	漁具	7 月 13 日
大磯地区	御船祭	7 月 13 日～14 日
西小磯東地区	七夕行事	7 月 21 日、8 月 1 日・5 日～7 日
西小磯西地区	七夕行事	8 月 2 日～4 日
西小磯西・国府新宿地区	盆行事	8 月 14 日
国府中丸地区	盆行事	8 月 16 日
国府中丸地区	身代り地蔵	8 月 24 日
大磯南下町地区	漁具	9 月 3 日
国府新宿地区	六所神社櫛祭	9 月 8 日
西小磯東地区	宇賀神社祭礼	9 月 8 日
二宮町二宮地区	知足寺数珠繰	10 月 10 日・17 日
西小磯西地区	自然環境	10 月 18 日
国府中丸地区	身代り地蔵	10 月 24 日
大磯山王町地区	生活道具	10 月 30 日
国府中丸地区	身代り地蔵	12 月 3 日
東小磯地区	左義長	12 月 6 日
大磯北下町・南下町地区	左義長	12 月 8 日
小田原市田島地区	年中行事	12 月 10 日
大磯北下町地区	左義長	12 月 15 日
大磯南本町地区	年中行事	12 月 15 日
大磯山王町地区	民俗信仰	12 月 27 日
高麗地区	年中行事	1 月 2 日

調査先	内容	月日
大磯地区	左義長	1月11日～13日・30日
国府中丸地区	身代り地蔵	1月24日、2月4日
西小磯東地区	七夕行事	2月9日
生沢地区	自然環境	2月13日
平塚市岡崎地区	年中行事	2月20日
西小磯地区	白岩神社祭礼	3月1日・2日
虫窪地区	人生儀礼	3月4日
大磯山王町地区	漁具	3月5日
国府新宿地区	年中行事	3月13日
大磯山王町地区	民俗信仰	3月14日
大磯茶屋町地区	西行祭	3月30日

(担 当) 真保

■ 博物館資料の整備

<資料整備委託>

映像フィルムデジタル化委託

業務内容／8ミリフィルム「高麗虫送り行事」のデジタル化

契約期間／令和7年2月21日～3月31日

請 負 者／アスプレス (株)

<所蔵資料の整理>

歴史

文献資料（古文書等）

- ・適宜、文献資料として整理した資料の目録を追加した。

受入番号	資料群名	点数	受入番号	資料群名	点数
2018-1101 他	旧大磯町行政資料	3,441	2021-0902	水産関係資料	5
2019-0105	古新聞	2	2021-1002	安田由紀夫氏旧蔵資料	5
2019-0201	平塚西銀座サービス店 チラシ	1	2021-1204	内田もと子氏旧蔵資料	14
2019-0903	小林良子家旧蔵資料	59	2023-0603	西海誠家旧蔵資料	226
2019-1001	高麗権現由来記	1	2023-0901	大正大震災誌	1
2020-0208	戦争関係資料	26	2024-0101	学童手帳	1
2020-1006	大磯小学校関係資料	67	2024-0803	古新聞	5
2021-0801	内田もと子氏旧蔵資料	17	2024-1201	大正舎関係資料	2
2021-0802	国府小学校関係資料	20	2025-0201	古正政五郎氏旧蔵資料	40

コレクション資料

- ・吉田茂関係資料を新たに71点受け入れ、所蔵点数が4,826点になった。
- ・城山荘関係資料を新たに1点受け入れ、所蔵点数が240点になった。
- ・嶋立庵関係資料を新たに128点受け入れ、所蔵点数が1,964点になった。

民俗

- ・民俗資料の資料情報を、表計算ソフトを活用して新たにまとめ直した。
- ・資料整理の方法を見直し、新たな整理方法で所蔵資料の再整理を行った。
- ・資料受入台帳で確認できる5,829件（22,195点）の内、321件（1,337点）が終了した。
- ・資料受入台帳で確認できる5,829件中、59件が一部散逸・追加処理が必要な未確定状態となっていることが判明した。

(担 当) 富田・鷹野・真保・長谷川

■ 刊行物

<図録・冊子>

・大磯明細全図	B2判	500部（令和6年6月刊）
・企画展「加山又造と大磯」図録	A4判32頁	800部（令和6年10月刊）
・資料館資料23『大磯町助役日誌』（大正九年）	A4判80頁	500部（令和7年3月刊）

<チラシ・パンフレット>

・春季企画展「朝鮮通信使がやって来た！」チラシ	A4判両面	10,000部（令和6年4月刊）
・クイズラリー ラリー用紙	A4判両面	2,000部（令和6年6月刊）
・企画展「加山又造と大磯」チラシ	A4判両面	10,000部（令和6年9月刊）
・企画展「加山又造と大磯」ポスター	B2判片面	300部（令和6年9月刊）
・春季企画展「大磯のひな人形」チラシ	A4判両面	10,000部（令和7年2月刊）
・春季企画展「大磯のひな人形」パンフレット	A4判8頁	2,000部（令和7年3月刊）

■ 視察・見学対応

<視察・見学の月別件数> 単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視 察	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
見 学	0	4	1	3	0	0	1	2	1	0	2	2	16

<見学対応> 館職員が対応した団体のみ記載

- ・国府小学校生沢分校／5月2日／3人
- ・川崎市立日本民家園／5月8日／2人（真保）
- ・国府小学校2年生／5月16日／101人（富田・真保・長谷川）
- ・成城大学大学院／5月26日／4人（真保）
- ・平塚市博物館ほか／6月8日／2人（真保）
- ・町立学校新採用等教職員夏季研修会／7月26日／15人（富田）
- ・川崎市立日本民家園／7月30日／2人（真保）
- ・成城大学大学院／7月30日／1人（真保）
- ・川崎市立日本民家園／10月9日／6人（真保）
- ・個人／11月10日／1人（真保）
- ・湘南大庭公民館サークル連絡会／11月30日／15人（長谷川）
- ・松蔭大学／12月7日／10人（北水）
- ・個人／3月9日／1人（真保）
- ・個人／3月22日／1人（真保）
- ・外務省外交史料館／3月18日／2人（北水）

■ 取材対応

<刊行物>

- ・神奈川新聞 令和6年4月18日対応「相模国府について」（國見）
- ・神奈川新聞 令和6年5月2日掲載「朝鮮通信使ひもとく」（富田）
- ・タウンニュース 令和6年5月17日掲載「朝鮮通信使から見る宿場」（富田）
- ・東京新聞 令和6年6月3日掲載「企画展『朝鮮通信使がやって来た！』（富田）
- ・タウンニュース 令和6年7月5日掲載「大磯町と渋沢栄一について」（富田）
- ・東京新聞 令和6年7月15日掲載「企画展『川端誠さん絵本原画と民具の世界』（真保）
- ・神奈川新聞 令和6年7月16日取材「企画展『川端誠さん絵本原画と民具の世界』（真保）
- ・東京新聞 令和6年8月13日掲載「空襲後の平塚語る資料」（富田）
- ・神奈川新聞 令和6年9月3日掲載「甲冑着付け体験来月イベント」（長谷川）

- ・神奈川新聞 令和6年11月14日掲載「憧れの地で新境地開拓『加山又造と大磯』」(富田)
- ・タウンニュース 令和7年1月1日掲載「『巳』にゆかり 平塚・大磯にも」(真保)
- ・東京新聞 令和7年1月24日対応「企画展『縄文後期の配石と墓域』の紹介」(國見)
- ・タウンニュース 令和7年3月21日掲載「西行祭で遺徳偲ぶ」(富田)

<テレビ・ラジオ>

- ・ケーブルテレビ『情報カフェ！湘南館ワイド(令和6年5月21日初回放送)』『春季企画展『朝鮮通信使がやって来た！』紹介」(富田)
- ・FMしろいし 令和6年5月24日放送「電波で繋ぐ北前船(『朝鮮通信使がやって来た！』の紹介)」(富田)
- ・ケーブルテレビ『情報カフェ！湘南館ワイド(令和6年8月13日初回放送)』『ミニ企画展『資料と証言に見る大磯と戦争』紹介」(富田)
- ・テレビ朝日『スーパーJチャンネル(令和6年8月22日放送)』『Jの追跡『湘南ってどこ？』」(富田)
- ・ケーブルテレビ『情報カフェ！湘南館ワイド(令和6年10月15日初回放送)』『ワークショップ『甲冑を着てみよう！』紹介」(長谷川)
- ・ケーブルテレビ『市民クラブTV(令和7年2月1日初回放送)』『鳴立庵物語」(富田・長谷川)
- ・NHK ラジオ横浜放送局 令和7年2月放送「春季企画展『大磯のひな人形』の紹介」(真保)

<ウェブサイト>

- ・Yahoo!ニュースエキスパート 令和6年11月14日公開「『加山又造と大磯』大磯町郷土資料館で11/17まで開催中」(富田)
- ・(株)パム たびらい編集部 令和6年11月10日対応「郷土資料館・旧吉田茂邸の紹介」(鷹野)

■ レファレンス対応

- ・令和6年4月10日／三岸節子のアトリエについて／個人(真保)
- ・令和6年4月19日／安田善次郎別邸について／個人(長谷川)
- ・令和6年4月20日／大磯で栽培された野菜について／個人(真保)
- ・令和6年5月14日／黒岩城について／個人(長谷川)
- ・令和6年5月18日／海水羊羹と寿堂について／個人(真保)
- ・令和6年5月22日／陸奥宗光別邸周辺にあった宇賀神社について／大磯町観光協会(長谷川)
- ・令和6年5月29日／寺坂で茶を栽培していた杉崎仙吉について／個人(長谷川)
- ・令和6年6月11日／松本順の海水浴場好適地条件10か条について／個人(長谷川)
- ・令和6年6月14日／加舎白雄の句碑について／個人(長谷川)
- ・令和6年6月28日／大磯の大縄釣りに関して／個人(長谷川)
- ・令和6年7月2日／赤星鉄馬の別荘について／個人(長谷川)
- ・令和6年7月26日／町内で昆虫を採集できる場所について／個人(村田)
- ・令和6年7月30日／地名淘綾の意味と由来について／個人(真保)
- ・令和6年8月8日／俳諧資料の解説について／個人(富田・長谷川)
- ・令和6年8月30日／町内の小字「稻荷森」「簾田」について／個人(真保)
- ・令和6年9月1日／高麗温泉の広告について／個人(長谷川)
- ・令和6年9月8日／左義長について／個人(真保)
- ・令和6年9月18日／小磯城について／個人(真保・國見)
- ・令和6年9月19日／アオダイショウの生態について／公益財団法人神奈川県公園協会(村田)
- ・令和6年9月27日／大磯八景音頭と大磯カーニバルについて／個人(長谷川)
- ・令和6年9月29日／清国北洋軍兵士の軍服について／個人(富田)
- ・令和6年10月30日／山本楼の場所や現在の状況について／個人(富田)
- ・令和6年10月31日／町内の横穴墓について／個人(國見)
- ・令和6年12月12日／大磯の在来植物の種類について／個人(村田)
- ・令和6年12月12日／町内の遺跡について／個人(國見)
- ・令和7年1月11日／金目観音について／個人(真保)

- ・令和7年1月11日／「サイトバラヒ」の語源などについて／個人（真保）
- ・令和7年2月14日／生沢・黒岩地区の馬頭観音について／個人（真保）
- ・令和7年2月28日／新島裏が大磯で詠んだ和歌について／個人（鷹野）
- ・令和7年3月6日／大磯の伊達宗陳邸について／個人（長谷川）
- ・令和7年3月11日／白岩神社の歩射について／個人（真保）
- ・令和7年3月19日／庚申講の言われについて／個人（真保）
- ・令和7年3月21日／博物館学芸員の仕事について／個人（富田・真保）

■ ホームページを活用した情報発信

<ホームページの更新>

- ・休館情報を公開した。
- ・「100年前の大磯～小見助役の一日～」を更新した。
- ・「大磯町郷土資料館の学芸員を紹介します」を公開した。

<ブログの更新>

- ・年間を通して、郷土資料館は18回更新した。

<SNSの利用>

- ・X（旧Twitter）は、年間を通して81回投稿し、524件の反応があった。フォロワー数は1,503件。
- ・Facebookは、年間を通して84回投稿し、1,052件の反応があった。フォロワー数は448件。
- ・Instagramは、年間を通して40回投稿し、754件の反応があった。フォロワー数は346件。

※フォロワー数は、令和7年4月4日確認。

<刊行物のオンライン公開>

- ・『年報』及び『Report—大磯町郷土資料館だより—』の書誌データを奈良文化財研究所が管理している「全国文化財総覧」に登録した。
- ・登録を始めた10月以降のアクセス回数は9,890回、ダウンロード件数は3,531件だった。（ただし、PDFデータの登録は12月から。）
- ・全国文化財総覧に書誌データを登録したことにより、国立情報学研究所の論文・雑誌等の学術情報検索データベースであるCinii Researchに『年報』や『資料館だより』の書誌情報が掲載された。

■ 博物館資料の収集・整備・利用

<寄贈資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	寄贈者
2024-0401	R6. 4. 12	陶器小皿	1	甲斐美笛
2024-0502	R6. 5. 16	杯（大磯国府合併記念）ほか	2	鈴木一男
2024-0601	R6. 6. 4	写真（1979年日米首脳会談関係）	一括	齋藤富士夫
2024-0602	R6. 6. 6	貝標本（マメタニシ）ほか	3	福田良昭
2024-0603	R6. 6. 7	大漁旗ほか	6	大磯二宮漁業協同組合
2024-0604	R6. 6. 9	吉田茂書簡（向井忠晴宛）	1	上松恵
2024-0605	R6. 6. 14	雛人形ほか	一括	簗島尚子
2024-0702	R6. 7. 12	勾玉	1	加藤英詞
2024-0703	R6. 7. 19	大漁旗ほか	一括	大磯港 恒丸
2024-0704	R6. 7. 19	写真、羽釜などの生活道具	14	木村純子
2024-0901	R6. 9. 19	野帳ほか	50	佐川伸子
2024-0902	R6. 9. 19	御船祭の写真記録（アルバム）	1	飯田福信
2024-0903	R6. 9. 19	モリザオほか	8	大磯二宮漁業協同組合

No.	受入年月日	資料名	数量	寄贈者
2024-1001	R6. 10. 6	原安民（昔人）資料	一括	森龍朗
2024-1003	R6. 10. 30	ヒバシほか	13	木村純子
2024-1102	R6. 11. 19	吉田茂書簡（佐伯孝宛）	1	佐伯紘
2024-1103	R6. 10. 18	黒曜石ほか	一括	福田良昭
2024-1201	R6. 12. 4	大正舎関係資料	一括	大木牧
2024-1202	R6. 12. 17	テヌグイほか	2	加藤廣美
2024-1203	R6. 12. 24	タイプライター	1	鈴木コウイチ
2025-0201	R7. 2. 16	虫窪絵図、測量道具ほか	一括	服部恵子
2025-0202	R7. 2. 28	原安民（昔人）資料	一括	森龍朗
2025-0205	R7. 2. 14	杉山博久コレクション	一括	杉山博子
2025-0301	R7. 3. 5	ダイカイ（デーケー）	2	服部恵子
2025-0302	R7. 1. 11	ノボリ（ハタ）、道切り	4	福田良昭
2025-0303	R7. 3. 2	的の破片	6	歩射保存会
2025-0304	R7. 3. 14	大磯長興結社道具	一式	渡邊航也

<移管資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	移管元
2024-0503	R6. 5. 31	写真（化粧坂）	14	都市計画課
2024-0701	R6. 7. 2	航空写真ほか	8	都市計画課
2025-0101	R7. 1. 31	旧大磯町役場行政資料	3, 307	図書館

<購入資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	購入先
2025-0203	R7. 2. 17	大隈重信関係文書	4	みすず書房
2025-0204	R7. 2. 20	日本民俗大辞典	2	吉川弘文館
2025-0305	R7. 3. 26	伊藤博文関係文書	9	塙書房

<寄託資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	寄託者
2	S63. 6. 1	山高帽	一括	西小磯東区長
5	S63. 9. 2	四季耕作図 他	11	個人
17	H1. 8. 8	菊池重三郎関係資料	1, 510	個人
22	H4. 4. 1	稻荷講資料	一括	個人
23	H4. 4. 1	雛人形	一括	個人
30	H6. 4. 12	掛軸 他	一括	西小磯東区長・西小磯西区長
32	H7. 9. 12	獅子頭	2（1 対）	裡道区長
35	H13. 7. 17	屏風 他	一括	南本町区長
37	H15. 4. 1	木造神像群	12	高来神社
40	H21. 12. 24	伊藤博文書幅	1	個人
41	H22. 2. 1	大久保家資料	一括	個人
43	H23. 6. 29	掛軸	1	個人
44	H26. 8. 12	脇差	1	個人
45	H27. 3. 6	鈴木芳如関係資料	156	個人
46	H27. 4. 16	画幅「七福神」 他	2	個人
48	H27. 8. 4	わきざし 他	8	個人
49	H27. 8. 4	わきざし	1	個人
50	H28. 6. 29	袖がらみ 他	2	個人
51	H28. 4. 5	杉戸絵 他	10	国土交通省関東地方整備局 国営昭和記念公園事務所

No.	受入年月日	資料名	数量	寄託者
52	H28. 10. 13	国府祭 鷺舞資料	一式	六所神社
53	H29. 7. 13	城山荘関係資料	57	個人
54	H29. 10. 26	招仙閣関係資料	26	東光院
55	H29. 1. 5	日本国憲法草案	2	個人
56	H30. 9. 9	生沢二宮家資料	一括	個人
57	R2. 1. 7	安田鞆彦宛吉田茂書簡	一括	個人
58	R2. 3. 31	七賢堂関連資料	17	平塚土木事務所
59	R3. 9. 30	中島湘煙書簡	1	個人
60	R6. 5. 11	子ども会旗・七夕資料	一括	西小磯西区
61	R6. 8. 8	御船祭船山車部材（北下町）	一括	北下御船祭保存会

※寄託期間は最長2年とし、2年以降は更新を行う。現在の寄託期間は、令和8年3月31日まで。

<資料の館外貸出>

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
「薬性論」ほか	23	特別展	R6. 6. 6 ～R6. 10 中旬	茅ヶ崎市博物館
サーフボード	1	サーフセレモニー展示	R6. 7. 6	個人
随神、屏風、掛け軸	4	高来神社夏季例大祭	R6. 7. 11 ～R6. 7. 17	南本町区
獅子頭	2	高来神社夏季例大祭	R6. 7. 13 ～R6. 7. 14	裡道区
堂後下横穴墓群 2号墓 鉄鏃等	7	資料保存委託及び資料確認	R6. 9. 12 ～R7. 3. 8	(株) 東都文化財保存研究所
シガーケース、マッチ箱	3	旧吉田茂邸調度品製作	R7. 1. 8 ～R7. 3. 21	杉山アート
DVD「吉田茂 大磯を愛した宰相」	1	町の観光推進	R7. 1. 30 ～R7. 2. 6	都市計画課
伊藤博文掛軸 ほか	7	白岩神社三月例大祭	R7. 3. 1 ～R7. 3. 2	個人

<資料の特別利用>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
研究・学術	9	1	1	3	2	0	
刊行物掲載	1	0	1	1	1	0	
放映・動画配信	2	0	1	2	1	1	
ウェブ掲載	0	0	0	0	0	0	
展示	0	0	1	0	0	0	
その他	0	1	0	0	1	1	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研究・学術	2	1	2	2	0	3	26
刊行物掲載	0	2	2	2	4	3	17
放映・動画配信	2	1	0	0	1	0	11
ウェブ掲載	0	0	0	0	0	0	0
展示	0	0	1	1	0	0	3
その他	0	0	0	0	0	0	3

■ 文献資料収集状況

<寄贈機関・関係団体一覧>

[大磯町]	エリザベス・サンダース・ホーム、NPO 法人大磯ガイド協会、大磯町教育委員会教育部生涯学習課、大磯町災害救援ボランティアの会、大磯町政策総務部政策課、大磯町青少年指導員連絡協議会
[茅ヶ崎市]	神奈川県衛生研究所、茅ヶ崎市教育委員会、茅ヶ崎市文化振興財団、茅ヶ崎市博物館
[二宮町]	二宮町教育委員会
[秦野市]	野生動物救護の会、秦野市教育委員会
[藤沢市]	湘南考古学同好会、新江ノ島水族館、(続) 藤沢市史編さん委員会、日本大学生物資源科学部博物館、藤沢遠藤生態系保全の会、藤沢市教育委員会、藤沢市藤澤浮世絵館
[平塚市]	猪俣弥八研究会、浜岳郷土史会、平岡学園平岡幼稚園、平塚市教育委員会、平塚市博物館
[伊勢原市]	公益財団法人雨岳文庫
[寒川町]	寒川町
[小田原市]	小田原市郷土文化館、小田原市教育委員会、小田原市立中央図書館地域コーナー、小田原城天守閣、神奈川県立生命の星・地球博物館、神奈川県植物誌調査会、林美禰子
[中井町]	中井町役場
[箱根町]	箱根町立郷土資料館
[山北町]	山北町教育委員会、山北町地方史研究会
[横浜市]	岩崎博物館、神奈川県教育委員会教育局行政部行政課人権教育グループ、神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課中村町駐在事務所、神奈川県町村会、神奈川県博物館協会、神奈川県文化財課、神奈川県民俗芸能保存協会、神奈川県立金沢文庫、神奈川県立公文書館、神奈川県立図書館、神奈川県立歴史博物館、かながわ考古学財団、神奈川県文学振興会、金子征史、県土整備局総務室、シルク博物館、JICA 横浜海外移住資料館、玉川文化財研究所、鶴見大学博物館学芸員課程、鶴見大学文化財学会、馬事文化財団、睦合文化財株式会社、横浜開港資料館、横浜市教育委員会、横浜市技能文化会館、横浜植物会、横浜市歴史博物館、横浜都市発展記念館、横浜みなと博物館、有隣堂
[川崎市]	川崎市市民ミュージアム、川崎市立日本民家園
[鎌倉市]	鎌倉考古学研究所、斉藤建設、鶴岡八幡宮社務所
[横須賀市]	観音崎自然博物館、横須賀市教育委員会、横須賀市自然・人文博物館、横須賀建築探偵団
[葉山町]	葉山しおさい博物館、葉山町教育委員会
[厚木市]	あつぎ郷土博物館、厚木市教育委員会文化財保護課、野の花出版社
[相模原市]	相模原市教育委員会、大成エンジニアリング株式会社
[逗子市]	逗子市教育委員会
[真鶴町]	真鶴町立中川一政美術館
[清川村]	丹沢自然保護協会
《県外》	
[茨城県]	稲敷市立歴史民俗資料館、土浦市立博物館
[栃木県]	宇都宮共和大学都市経済研究センター、小山市立博物館
[埼玉県]	川越市立博物館、高麗 1300（日本高麗浪漫学会）事務局、高麗文康、埼玉県立川の博物館、飯能市立博物館、立正大学博物館
[千葉県]	伊能忠敬記念館、国立歴史民俗博物館、市立市川考古博物館、市立市川自然博物館、市立市川歴史博物館、袖ヶ浦市郷土博物館、千葉県立中央博物館、飛ノ台史跡公園博物館、船橋市郷土資料館、松戸市立博物館、茂原市教育委員会
[東京都]	吾妻考古学研究所、板橋区立郷土資料館、イビソク東京本社、ウェッジ、大田区教育委員会、大田区立郷土博物館、お札と切手の博物館、KADOKAWA、外務省外交史料

	館、学習院大学学芸員課程委員会、学校法人明治学院、クマヒラ・ホールディングス、国際文化財、四門、衆議院憲政記念館、昭和館、成城大学常民文化研究会、宝島社、玉川大学教育博物館、多摩美術大学アートアーカイヴセンター、多摩美術大学美術館、中央区教育委員会、調布市郷土博物館、千代田区立日比谷図書文化館、東京家政学院生活文化博物館、東京家政大学博物館、東京都江戸東京博物館、トキオ文化財株式会社、豊島区立郷土資料館、豊島区立鈴木信太郎記念館、豊島区立雑司が谷旧宣教師館、中川俊宏、日本博物館協会、パスコ、PHP 研究所、府中市郷土の森博物館、不二出版、文京ふるさと歴史館、堀文子記念館「堀文子ホルトノキの会」、町田市立自由民権資料館、明治大学学芸員養成課程、明星大学考古学研究部、森ビル株式会社、靖国神社社務所、郵政博物館、右文書院、立正大学ロータスギャラリー特別展示室、ロクリン社、早稲田システム開発株式会社、ワック株式会社
[静岡県]	伊豆の国市、伊豆の国市教育委員会、静岡県立美術館、沼津市歴史民俗資料館、浜松市博物館、三島市郷土資料館
[愛知県]	安城市歴史博物館、一宮市博物館、一宮市三岸節子記念美術館、とこなめ陶の森、豊橋市美術館友の会
[山梨県]	甲斐市教育委員会、南アルプス市教育委員会
[群馬県]	技研コンサル株式会社、渋川市教育委員会
[長野県]	茅野市教育委員会、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市神長官守矢史料館
[福島県]	只見町史編さん委員会、ただみ・モノとくらしのミュージアム
[新潟県]	十日町市博物館
[三重県]	鈴鹿市考古博物館
[和歌山県]	和歌山県立自然博物館、和歌山県立文書館
[大阪府]	大阪市立自然史博物館、創元社、富田林市教育委員会
[兵庫県]	人と防災未来センター、むろのつ編集部
[奈良県]	奈良文化財研究所企画調整部文化財情報研究室
[京都府]	向日市文化資料館
[広島県]	広島県市町公文書等保存活用連絡協議会
[高知県]	高知県牧野記念財団
[岩手県]	奥州市牛の博物館
[青森県]	青森県立郷土館
[北海道]	帯広百年記念館、沙流川歴史館、美幌博物館、平取町教育委員会文化財課
[熊本県]	熊本博物館、熊本市現代美術館
[佐賀県]	有田町歴史民俗資料館

旧吉田茂邸（郷土資料館別館）学芸活動

■ ミニ企画展

ミニパネル展「吉田茂と“バカヤロー解散”」

期 間／令和6年4月2日（火）～9月29日（日）

開場日数／151日間

会 場／旧吉田茂邸 展示・休憩室

観覧者数／9,745人

趣 旨／首相・吉田茂のエピソードとしてあまりにも有名な昭和28年(1953)の“バカヤロー解散”。「バカヤロー」発言に至る経緯や様子、そのほかの特徴的な衆議院解散などについて紹介する。

内 容／

(1) 「バカヤロー」発言に至る経緯

昭和28年(1953)2月28日衆院予算委員会における吉田の「バカヤロー」発言に至った経緯を、第4次吉田内閣の動向や問題などを併せて紹介する。

(2) 各紙の取り上げた「バカヤロー」発言

新聞各紙が取り上げた「バカヤロー」発言を紹介。併せて、麻生和子が自著『父 吉田茂』

で回想するエピソードなどについても取り上げる。

(3) “バカヤロー解散”へ

「バカヤロー」発言を受けての野党の動向、解散の様子を新聞などから取り上げる。併せて、第5次吉田内閣へ向けた吉田の動向などを紹介する。

(4) まだまだあった、〇〇解散

バカヤロー解散以外の特徴的な俗称がつけられた解散について取り上げる。(なれ合い解散、抜き打ち解散など)

(担当) 鷹野

ミニパネル展「吉田茂の書」

期 間／令和6年10月2日(水)～令和7年3月30日(日)

開場日数／147日間

会 場／旧吉田茂邸 展示・休憩室

観覧者数／13,975人

趣 旨／吉田茂の揮毫は、当館所蔵の吉田茂関連資料にとどまらず、大磯町内外に数多く現存する。

吉田の字はどんな形をしているのか、どんなことを書いているのか、どんな経緯で書いたのか。本展示では、そうした吉田茂の揮毫を紹介することで、案外身近にある吉田の書に親しむ機会を提供する。

内 容／

(1) 吉田茂の字

導入として、吉田茂がどのような字を書いていたのか、吉田の書簡を通じて紹介する。また、吉田の字が達筆であったため、手紙を受け取った人が読めなかったといったエピソードなども併せて取り上げる。

(2) 漢学と吉田茂

吉田茂揮毫の色紙などには、漢籍由来の内容が多い。吉田茂の漢学の知識を養った耕余塾について紹介するほか、耕余塾在籍時の吉田の作文なども併せて取り上げる。

(3) 大磯で見られる吉田の書

吉田の字は、大磯町内でも様々確認することができる。ここでは、大磯小学校や大磯中学校の表札、大磯警察署へ贈られた揮毫、「五賢堂」の額などを紹介し、吉田の字を身近に感じてもらう。また、大磯中学校の表札の「大磯」の字が、町内のマンホールや「議会だより」の表紙に使用されていることも紹介する。

(4) こんなところにも吉田の書

吉田の字が大磯のみならず全国で確認できることを紹介する。関門隧道の表札や、伯爵牧野伸顕夫妻の墓碑、高知市立大津小学校に残る吉田の扁額とそれを依頼したことが分かる書簡(当館蔵・吉田茂宛野村茂久馬書簡)などを取り上げる。

〔関連行事〕

講演会「吉田茂が学んだ耕余義塾の教育」

日 時／令和7年3月16日(日) 13時30分～15時00分

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／大磯町文化財専門委員 細井 守 氏

参加者数／33人

内 容／吉田茂が幼少期に在籍し、漢籍を学んだ耕余義塾について、その教育内容や吉田茂と塾生との交流などをお話しいただいた。

(担当) 鷹野



■ 講演会

七賢堂特別開扉講演会「手紙から見る吉田茂」

日 時／令和 7 年 2 月 9 日（日）13 時 30 分～15 時 00 分
場 所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟
講 師／國學院大學文学部史学科准教授 柴田 紳一 氏
参加者数／42 人
内 容／吉田茂の書簡を主軸に、吉田茂と彼の周辺の政治家とのやりとりなどを御講演いただいた。
（担 当）鷹野



旧吉田茂邸建築講演会・見学会「吉田茂邸を手掛けた建築家

木村得三郎と吉田五十八」

日 時／令和 7 年 2 月 23 日（日・祝日）13 時 30 分～15 時 00 分
場 所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟・旧吉田茂邸
講 師／建築史家・東海大学教授 小沢 朝江 氏、NPO 法人大磯ガイド協会
共 催／県立大磯城山公園、NPO 法人大磯ガイド協会
参加者数／60 人
内 容／旧吉田茂邸の設計に関わった二人の建築家、木村得三郎と吉田五十八のそれぞれの建築の特徴等に関する講演を行い、講演終了後、旧吉田茂邸の見学を実施した。
（担 当）鷹野



■ 調度品等の整備

<調度品製作委託>

旧吉田茂邸調度品製作委託

業務内容／旧吉田茂邸の銀の間に展示するシガーケース等を製作した。
契約期間／令和 6 年 11 月 12 日 ～令和 7 年 3 月 21 日
請 負 者／杉山アート

■ 博物館資料の整備

<収蔵資料整備>

刀剣点検

業務内容／吉田家旧蔵資料のうち、刀剣「兼定」について点検を行った。
契約期間／令和 6 年 11 月 26 日
請 負 者／小野敬博

<館外資料調査>

国立国会図書館所蔵吉田茂関係資料の複写撮影

業務内容／国立国会図書館憲政資料室所蔵の安斎正助関係文書のうち、日記 1 点を複写した。
実 施 日／令和 7 年 2 月 26 日

■ 刊行物

<チラシ・パンフレット>

- ・旧吉田茂邸案内パンフレット A4 判両面 三つ折 10,000 部（令和 6 年 6 月刊）
- ・七賢堂特別開扉講演会チラシ A4 判片面 900 部（令和 7 年 1 月刊）
- ・建築講演会・見学会チラシ A4 判片面 900 部（令和 7 年 1 月刊）
- ・学芸講演会チラシ A4 判片面 900 部（令和 7 年 1 月刊）

■ 視察・見学対応

<視察・見学の月別件数> 単位：団体

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
視 察	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
見 学	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	1	0	6

<見学対応> 館職員が対応した団体のみ記載

- ・町立学校新採用等教職員夏季研修会／7 月 26 日／15 人（富田）
- ・河野太郎大臣と 4 か国大使見学／8 月 18 日／30 人（長谷川）
- ・県県土整備局／11 月 9 日／25 人（鷹野）
- ・松蔭大学／12 月 7 日／10 人（北水）
- ・県立大磯高等学校 2 年生／12 月 24 日／4 人（鷹野）

■ 取材対応

<刊行物>

- ・日本経済新聞 令和 6 年 4 月 11 日対応「旧吉田茂邸の紹介」（鷹野）
- ・建通新聞 令和 6 年 7 月 17 日取材「旧吉田茂邸のモデル実証事業について」（富田）
- ・東京新聞 令和 7 年 2 月 22 日掲載「旧吉田茂邸建築講演会・見学会」（真保）

<ウェブサイト>

- ・大磯・平塚のタウンメディア「西湘 Lover」 令和 6 年 5 月 2 日対応「旧吉田茂邸の紹介」（鷹野）
- ・(株) パム たびらい編集部 令和 6 年 11 月 10 日対応「郷土資料館・旧吉田茂邸の紹介」（鷹野）
- ・(株) craft. 令和 7 年 1 月公開「オリックス（株）提供インスタグラムコンテンツ『Smile On』における旧吉田茂邸の紹介」（富田）

■ レファレンス対応

- ・令和 6 年 4 月 17 日／旧吉田茂邸内展示中の掛軸の解説について／個人（鷹野）
- ・令和 6 年 4 月 18 日／吉田茂の愛犬ケアーン・テリアについて／個人（鷹野）
- ・令和 6 年 5 月 9 日／旧吉田茂邸内展示中の掛軸の意味について／個人（鷹野）
- ・令和 6 年 6 月 9 日／向井忠晴宛吉田茂書簡の解説／個人（鷹野）
- ・令和 6 年 7 月 23 日／吉田茂と生家竹内家について／個人（長谷川・鷹野）
- ・令和 6 年 12 月 6 日／「戦争に負けて外交に勝った歴史がある」という言葉などについて／個人（鷹野）
- ・令和 6 年 12 月 7 日／吉田茂が GHQ を Go home, quickly. と揶揄したと言われる根拠について／個人（鷹野）

学芸員の調査・研究・普及活動

<通年の活動>

- ・神奈川県博物館協会理事／年間（北水）
- ・東海地区博物館連絡協議会監事／年間（北水）
- ・たばこと塩の博物館主催「村井勉強会」メンバー／年間（富田・長谷川）

<庁内事業への協力>

- ・鳴立庵展示ケースの展示／令和6年7月19日、12月19日（富田・長谷川）
- ・「大磯めぐり」特別研修／令和6年7月16日（富田）
- ・大磯町青少年指導員連絡協議会自主事業「ナイトハイク&ナイトミュージアム」／令和6年7月27日（北水）
- ・「大磯まつり」におけるクイズパネル展示／令和6年11月9日（長谷川）

<学校教育との連携>

郷土資料館の見学・学習指導

講義名	人数	月日	場所	担当
国府小学校3年生校外学習	89	4月18日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
こいそ幼稚園	23	4月23日	県立大磯城山公園 (ひかりの広場)	—
国府小学校生沢分校見学	3	5月2日	郷土資料館	—
こいそ幼稚園	66	5月14日	県立大磯城山公園 (ふれあいの広場)	—
国府小学校2年生遠足	101	5月16日	郷土資料館	富田・ 真保・ 長谷川
国府中学校	92	6月7日	郷土資料館・旧吉田 茂邸	—
こいそ幼稚園	22	6月25日	県立大磯城山公園 (ふれあいの広場)	—
町立学校新採用等教職員夏季研修会	15	7月26日	郷土資料館・旧吉田 茂邸	富田
県立大磯高等学校1年生地域探訪	約270	10月22日	郷土資料館・旧吉田 茂邸	—
湘南桜ヶ丘幼稚園	50	10月24日	県立大磯城山公園 (ふれあいの広場)	—
国府中学校1年生総合学習	約45	11月6日	郷土資料館・旧吉田 茂邸	鷹野・真 保・長谷 川・村田
大磯中学校1年生総合学習	47	11月15日	郷土資料館	—
二宮めぐみ幼稚園	37	11月28日	県立大磯城山公園 (ふれあいの広場)	—
松蔭大学「地域文化論Ⅱ」	約10	12月7日	郷土資料館・旧吉田 茂邸	北水
県立大磯高等学校2年生「歴史総合」	4	12月24日	旧吉田茂邸	鷹野
大磯小学校3年生社会科「かわる道具と くらし」見学・体験学習	—	1月15日・ 16日	郷土資料館	鷹野・ 真保・ 長谷川

講義名	人数	月日	場所	担当
こいそ幼稚園	42	1月17日	県立大磯城山公園 (ふれあいの広場)	—
浜竹幼稚園	54	2月7日	県立大磯城山公園 (ふれあいの広場)	—
国府保育園	69	2月28日	県立大磯城山公園 (ふれあいの広場)	—

学校等への講師派遣

講義名	人数	月日	場所	担当
国府小学校・中学校生沢分校総合学習	18	6月7日	国府中学校生沢分校	村田
成城大学「文化史概論Ⅱb」ゲストスピーカー	100	11月5日	成城大学	真保
成城大学「人文地理学b」ゲストスピーカー	82	12月19日	成城大学	真保

<各種団体との連携・協力>

各種団体への講師派遣

名称	月日	場所	担当
令和6年度青少年おもしろ講座 「さがせ！ちりめんモンスター」	8月7日	生涯学習館	高山
県立大磯城山公園 「あつまれ！アメリカザリガニ一斉捕獲大作戦」	8月21日	県立大磯城山公園 (不動池)	村田
日本民家園ボランティア炉端の会学習会	9月4日	かわさき宙と緑の科学館	真保
文化財調査「塩海山花月院知足寺所蔵百万遍念仏大数珠調査」	10月2日	塩海山花月院知足寺	富田
明治記念大磯邸園秋のイベント 「政界の奥座敷 大磯～大隈重信と陸奥宗光の歴史探訪～」	10月5日	明治記念大磯邸園	長谷川
大磯コミュニティカレッジ「大磯の左義長について」	1月30日	町立図書館	真保
一宮市尾西歴史民俗資料館文化財講座1「歴史文書を学ぶ」	2月23日	一宮市尾西歴史民俗資料館	富田
二宮町民大学講座「隣の町を歩いてみよう」	3月7日	旧吉田茂邸ほか	鷹野
大磯コミュニティカレッジ「西小磯の七夕について」	3月27日	町立図書館	真保

<学会・研究会との連携>

研修会・会議出席等

名称	月日	場所	担当
令和6年度神奈川県博物館協会 第1回役員会・総会	5月10日	県立歴史博物館	北水
令和6年度神奈川県博物館協会 第1回研修会	5月10日	県立歴史博物館	北水・ 真保・ 長谷川
令和6年度全国博物館長会議	7月3日	文部科学省	北水

名称	月日	場所	担当
全国歴史民俗系博物館協議会 令和6年度年次集会	7月4日	国立歴史民俗博物館	鷹野
令和6年度神奈川県博物館協会 第2回役員会	11月1日	県立歴史博物館	北水
令和6、7年度歴史民俗系博物館専門職研修会	11月11日 ～15日	国立歴史民俗博物館	真保
令和6年度神奈川県博物館協会 第4回研修会	12月13日	よこはま動物園ズー ラシア	真保
県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会日本 史研究推進委員会例会	1月15日	県立大磯高等学校	富田・ 鷹野
全史料協関東部会第325回定例研究会	1月21日	神奈川大学	真保

<執筆>

北水 慶一

2024. 9. 「《新収蔵資料》鯨ひげ」『Report－大磯町郷土資料館だより』44 大磯町郷土資料館

富田 三紗子

2024. 9. 「関東大震災から100年－大磯町外の記録から見る大磯の被害－」
『Report－大磯町郷土資料館だより』44 大磯町郷土資料館
2024. 10. 『加山又造と大磯』 大磯町郷土資料館
2025. 3. 資料館資料23『大磯町助役日誌（大正九年一月～一二月）』 大磯町郷土資料館

鷹野 真子

2024. 9. 「吉田茂の妻・雪子 平和への思い」
『大磯町郷土資料館年報』第36号 大磯町郷土資料館

真保 元

2024. 7. 「多摩川の砂利採取場を語る－高津地域における遊び場を視座に－」
『山と川の暮らし』川崎市立日本民家園
2024. 8. 「野外博物館における小学校の体験学習：第163回 日本民具学会研究会」
『民具研究』第166号 日本民具学会
2024. 9. 「神奈川県中郡大磯町の御船祭をめぐる予備的考察：船形山車を取りまく現状を事例に」
『現在学研究会』第14号 現在学研究会
2025. 1. 「古民家野外博物館における常設展示の変遷
－川崎市立日本民家園の年中行事展示を事例に－」
『民具マンスリー』第57巻10号 神奈川大学日本常民文化研究所
2025. 3. 「現代における銭湯の利用への一考察－サードプレイスを視座に－」
『常民文化』第48号 成城大学常民文化研究会
2025. 3. 「川崎市立日本民家園所蔵伊藤家文書「農作物日記」－翻刻と解説－」
『常民文化』第48号 成城大学常民文化研究会
2025. 3. 「府中大國魂神社くらやみ祭における露店風景の一考察－世相を読み解く資料として－」
『武蔵府中を考える：新府中市史研究』第6号 府中市史編集委員会
2025. 3. 「大磯町郷土資料館春季企画展「大磯のひな人形」を開催して－展示紹介にかえて－」
『現在学研究』第15号 現在学研究会
2025. 3. 『大磯のひな人形：春季企画展』 大磯町郷土資料館

長谷川 明香

2024. 5. 「明治初期における浅草公園と見世物興行」
『駒澤大学大学院史学論集』第54号 駒澤大学大学院日本史学学生研究室

研 究 報 告

大磯の左義長をめぐる基礎的研究

—2024年度の大北地区の動向を中心に—

真保 元(当館学芸員)

はじめに

大磯町大磯の海沿いは北下町や南下町といった下町地区といわれ、以前は漁師町としてにぎわっていたという。夏には御船祭、冬には小正月行事である大磯の左義長(以下左義長)が行われている。大磯町大磯の北浜海岸にサイトが9つ立ち、夜になると着火されるのである。この大磯の左義長は国の重要無形民俗文化財に指定されている。

本稿は左義長の現在をめぐるものである。周知の通り、2020年に新型コロナウイルスによるコロナ禍が全世界を襲ったことは記憶に新しい。左義長も記録を確認していくと休止・縮小等を行っていることがわかる。左義長は無形民俗文化財に指定されていることもあってか、現在ではパンフレットなどが作成されツアーなども行われており、無形民俗文化財としての活用が意識されていることがうかがえる。

そこで、本稿はコロナ禍を踏まえた大磯の左義長の現在を記述したうえで、現在の左義長をとりまく様相をとりあげる。

1.大磯の左義長をめぐる研究小史

本稿では大磯の左義長をめぐるものであるが、本章では大磯の左義長ひいてはそれを包括する神奈川県の小正月行事研究の動向を整理しておきたい。なお、神奈川県内の道祖神研究については浜野達也が丹念な整理を行っている[浜野 2020:1(112)-2(111)]。本章での整理は浜野による整理をアウトラインとしていることをお断りしておく。

神奈川県の小正月行事研究は、相模民俗学会会員をはじめとして神奈川県内の博物館学芸員など数多くの研究者により行われてきた。全体的な調査には神奈川県が刊行した道祖神調査報告書である『神奈川県の道祖神調査報告書』がある。各自治体に担当を振り分け、神奈川県内の道祖神の様相を明らかにした[神奈川県教育庁文化財保護課 1981]。同報告書では鈴木一男と飯田善雄が大磯町の担当であり、下町地区以外の大磯地区および国府地区の道祖神や小正月行事を報告している[鈴木・飯田 1981]。

同報告書が多量な情報量を持っていることから報

告書自体がテキストとして用いられることもあり、平野文明や倉石忠彦によって神奈川県内全体を通しての分析が行われている[平野 1985、平野 1986、倉石 2014]。こうした流れをうけつつ、浜野は足柄平野をはじめとしたオンベの形態論的分析や[浜野 2005]、旧相模国を範囲とした道祖神行事の意味論的分析を行っている[浜野 2020]。

このように、神奈川県全体をとらえる道祖神研究は幾度となく行われてきた。それでは、本稿で対象とする大磯の左義長そのものをめぐる研究成果にはどのようなものがあるか。まず、早い時期の報告としては『大磯町文化史』における記述があげられる[大磯町文化史編纂委員会編 1956]。

左義長をめぐるまとまった報告としては、神奈川県民俗シリーズとして1962年に刊行された『大磯の道祖神祭』がある。当該報告書は1960年と1961年に神奈川県教育委員会の依頼により相模民俗学会会員である中村亮雄と小島櫻礼が行ったものであり、当時の左義長の様子やその当時古老的ポジションの人の話を聞き取っている。坂下から長者町まで9つの地区すべての様子を報告しており、まとまった貴重な成果である[神奈川県教育委員会編 1962]。

また、左義長は数多くの報告が寄せられている。例えば、福田八郎は1960年代の行事の様子を報告している[福田 1968]。同時期には永田衡吉が1960年代の左義長の様子や古老の語りを報告し、他地域との事例を通じて考察を行っている[永田 1987]。その後、1970年代には和田正洲が県内の他地域の小正月行事とあわせて左義長の一通りの流れを紹介しており、「県下では一番盛大なものである」とした[和田 1974:240]。神奈川県史の民俗編でも田中宣一が坂下地区を中心に行事の様子を紹介している[田中 1977]。1980年代には、日守高造が報告を行っているほか[日守 1986a,日守 1986b,日守 1986c]、関野秀雄を含む北下町の住民が中心となって記した『郷土誌北下町』でも、宮世話人である宮代伊佐雄によって報告が行われている[宮代 1980]⁽¹⁾。

1990年代に入ると大磯町史編纂事業が行われ、左義長は長田平によって年中行事の項目で、鈴木通大によって信仰の項目で報告されており[長田 1998、鈴木 1998]、先述の『大磯の道祖神祭』報告書や『大

磯町文化史』などに依拠しつつ各行事の様子および各地区の特徴が報告がされている〔鈴木 1998〕。このほか、杉井純一が年齢集団の箇所が一番息子などの子どもが行う行事や、若者によるハダカマイリについてふれている〔杉井 1998〕。

町史編纂にあたって刊行された町史研究では、杉井が境界性に注目して大磯町内の各種行事を検討している。国府祭などと並行して左義長も扱っており、ヤンナゴッコなどをとりあげて陸へ豊漁を引き上げるといった意味論的分析を行っている〔杉井 2002〕。同時期に小川直之は大磯町郷土資料館で講演会を行っており、講演記録が書き起こされている。小川は大磯の左義長の特徴について「この地域の小正月の典型的なスタイルをもっている」と述べており〔小川 1998 : 10〕、左義長を小正月行事の全体の中で位置づける際には指標となる。平塚市博物館の展示図録『相模の道祖神』でも相模地域の小正月行事を扱っており、1990 年代当時の大北地区を中心とした左義長の様子が記述されている〔平塚市博物館 1999〕。

また、1990 年代の成果において、佐川和裕による成果は注目すべきであろう。佐川は島崎藤村の晩年に書き残した雑記帳に注目し、そこから当時の大磯における民俗行事を読み取っている。例えば、1941 年に記された雑記帳には左義長が記されており、現在では行われていない山車などの行事の様子を知ることができる資料だとして、1990 年代の左義長との比較を行っている〔佐川 1991〕。小川も大磯の左義長を含む神奈川県内の道祖神祭祀の分布や特徴を分析しており、左義長の際に行われるヤンナゴッコは分布や行事の特徴から伊豆半島北部の事例との類似性を指摘している〔小川 1993 : 316〕。

2000 年代に入ると、先述の浜野によるオンベの形態論が展開される。論考前半では足柄上郡の、後半では相模地域として大磯の左義長のオンベがとりあげられる。大磯のオンベは坂下、浜之町、長者町には弓のような部位があったとした〔浜野 2005 : 20〕。

近年の成果も振り返っておきたい。神奈川県立歴史博物館の 2020 年刊行の展示図録『特別展「かながわの正月一よい年になりますように一」』では、大磯町の小正月行事が数多く紹介されている。国府本郷地区の様子も紹介しつつ、大磯の左義長も丹念に紹介されている〔神奈川県立歴史博物館編 2020〕。

浜野も道祖神行事の意味論的分析を行っており、県内の事例を紹介するなかで大磯の左義長にふれている〔浜野 2020〕。左義長も含む相模の国の小正月行事を幅広く比較しており、浜野の議論は前述の小川の議論とあわせて左義長を相模地域の行事のなかで考えるうえで、大変貴重な成果といえよう。

ここまで、既往の研究成果を整理してきた。神奈川県内全体で道祖神研究が盛んに行われつつ、大磯

の左義長も比較研究の対象として検討されてきた。

左義長については、個別事例的な報告も多く寄せられている。これらの成果は時間が経過し、様態が変化していることが想定される。この間、新型コロナウイルスによるコロナ禍もあった。各地で民俗行事の縮小・中止が相次いだが左義長も例外ではない。そのため、現在の様態を把握することが急務でもあるといえる。今後、左義長を詳細に検討していく際の基礎的なデータの蓄積が求められている。

後述のように、左義長の主な担い手である下町地区では、現在の漁業人口は少なくなっている。生業が大きく変化した現在の左義長の様相を考えていくためには、現状を把握することが必要であろう。全国各地の無形民俗文化財において、継承が危ぶまれている。その中で従来の担い手にかかわらず様々なアクターが協働することにより、持続されていく事例も存在する。このような世相の中で、大磯の左義長は現状どのような状況であるか。

そこで、本稿では 2025 年 1 月に行われた左義長の様子を報告し、既刊の報告と照らし合わせて変化を考え、現状を把握していきたい。左義長は 9 つの地区で行われるが、本稿では大北地区の事例を中心としてとりあげていく。

2. 対象の概要

（1）地域概要

本章では大磯の左義長の概要をまとめていく。まずは地域概要をおさえよう。左義長は大磯町のうち大磯の北下町・南下町という下町地区を中心に、山王町、長者町を加えて行われる。参加する地区は、いずれも住所上は大磯町大磯である。

下町地区は、大磯町全体では東側にあたる大磯地区の海沿いに位置する。海沿いを見てみれば、北下町は北浜海岸、南下町は照ヶ崎海岸があることから、夏は多くのレジャー客により海沿いがにぎわう。東海道からは一段下ったところに位置し、地区内を下町通りといわれる通りが縦断している。下町通りは家々が密接に並び、細い路地が間を這う作りとなっており、漁師町の町割りの面影を残す景観である。

当該通りは高来神社夏季大祭である御船祭の際には船形山車が巡行するように、下町地区の中心的な空間である。南下町には大磯港があることから、下町地区はかつて漁師町としてにぎわいをみせていた。その後、西湘バイパスの開通などの環境変化により漁業従事者は減少し、現在では遊漁船が中心となっている。現状、拙稿でもふれたが地付きの漁師は北下町には存在せず、南下町に数軒残っているのみである〔真保 2024 : 73〕。なお、左義長の際には北下町は大北・浅間町・中宿の 3 つ、南下町は大泊・



図1 山王町および長者町の位置関係
(杉井 1998 : 14)

子の神・浜之町・坂下の4つの地区に細分される。これについては次節で詳述する。

山王町は、北下町よりも北側に位置する。地区割自体は縦長となっており、高麗山から北浜海岸まで位置している(図1)。長者町は山王町よりさらに東側に位置している。歴史的背景を見てみれば、1890年に大磯の町で大火があり、それにより南下町の住民を長者町に移すこととなった。山王町、長者町いずれも国道1号線が地区内を走り、住宅が立ち並ぶ市街地となっている。

北下町は南北に約300m、東西に約200mで、面積は約0.05k㎡である。南下町は南北に約300m、東西に約350mで、面積は約0.04k㎡である。山王町は南北に約1km、東西に約400m、面積は0.37k㎡である。長者町は南北に約500m、東西に約500mで、面積は約0.18k㎡である⁽²⁾。

対象地域の世帯数・戸数についてもふれておく。それにあたり、北下町、南下町、山王町、長者町をふくむ大磯町大磯の統計データを参考にしたい。大磯町大磯全体の数値としては、2025年1月1日時点で2565世帯があり、人口は5773人(男性が2795人、女性が2978人)である⁽³⁾。このうち、北下町は1990年代時点での詳細がわかっているため、参考までに提示しておく。「大北は150戸、浅間町は60戸、中宿は22~44戸である」[杉井 1998 : 9]。南下町は「全体では200戸程度であり、このうち子の神が63戸ほどである」という[杉井 1998 : 11]。本稿で対象とする大北は、1955年生まれのA氏によれば2025年現在、150戸程度である。

(2) 祭礼概要

ここでは左義長の概要を整理する。大磯の左義長は小正月行事のことを指し、12月8日のコトヨウカ行事である一番息子から、1月半ばのサイトバライまでを指している。いくつもの行事が折り重なるように行われる、複合的な行事であるといえよう。

文化財的側面としては、現在は国の重要無形民俗文化財に指定されている。国の指定を受けたのは1997年で、それまでは神奈川県指定無形民俗文化財であった(1978年県指定)。

左義長全体としては、9つの地区で行われる。順に述べれば、南下町は坂下・浜之町・大泊・子の神の4地区、北下町は中宿・浅間町・大北の3地区(図2)、これら7つの地区に山王町と長者町の2地区が合わさり、合計9地区となっている。大北では氏神である道祖神社(塞神社)の祭祀として行われるが、南下町の4地区では氏神と対応しているわけではないように、それぞれの地区によって祭祀形態に細かな差異がある(表)。

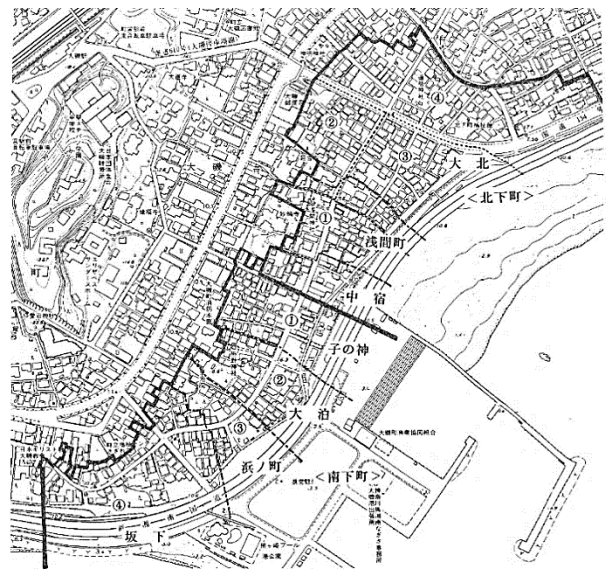


図2 北下町および南下町の道祖神祭祀組織
(杉井 1998 : 10)

祭礼を行う担い手は基本的に各地区の宮世話人(大北では宮役員という)であり、各地区の宮世話人の代表が集い、大磯町左義長保存会が結成されている。宮世話人は大北の場合は宮役員というが、全体で12人おり4年任期で6人ずつ交代することで引き継ぎをしている。

歴史的な経緯として、山王町は後から加わったとされる[永田 1978 : 60]。先述した通り、長者町も1890年の火災により南下町から移住した人々によって作られた地区であることから、後から加わった地区と考えられよう。

表 各地区の特徴および行事開催状況（鈴木 2003：617 より筆者作成）

地区名	氏神	宮元	宮世話人	若者組の 関与	ゴロ石	神体	オカリヤ	オンベ	ナナトコ マイリ	綱引き	屋台
坂下	熊野神社	○	○	○	○	白木造りの お宮	○	○	○	○	×
浜の町	熊野神社	○	○	○	○	双体道祖神	○	○	○	×	○
大泊	熊野神社	○	○	○	○	双体道祖神	○	○	○	×	○
子の神	熊野神社	○	○	○	○	双体道祖神	○	○	○	○	○
中宿	稻荷社	○	○	×	×	幣束	○	○	○	×	×
浅間町	浅間神社	○	○	○	×	庚申塔の 破片	○	○	○	○	×
大北	道祖神社	×	○	○	×	白木造りの お宮	○	○	○	○	×
山王町	日枝神社	×	○	×	×	青面金剛像	○	×	○	×	×
長者町	×	○	○	○	○	双体道祖神	○	○	○	×	○

左義長全体の大まかな流れを、2025 年現在の様子をもとに提示する。コトヨウカ行事である 12 月 8 日の一番息子から始まり、12 月中はサイトにつけるわら飾り（ナイカザリ）や、紙飾りなどの準備が行われる。1 月に入ると、5 日にサイトに用いる竹や松を調達する竹買いや松買いがある。9 日には道祖神付近にオカリヤが立ち、夜になるとオカリコが行われる。この期間にオカリヤを回るのがナナトコマイリという。12 日にはサイトの作成およびサイトバライ、ヤンナゴッコが北浜海岸（以下浜という）で行われる。もともとは 1 月 14 日をサイトバライの日としていたが、2009 年実施時より第三土曜日をサイトバライの日に変更した。

さて、9 つの地区で多様な行事が行われるため、ともすればどの地区でどの行事が行われているのか混乱を招くこととなるため、表 1 を参照されたい。なお、表 1 は鈴木が『大磯の道祖神祭』（1962）を参考に作った表が元となっており〔鈴木 2003：617〕、現在では行われていない行事もある。

ここまで、対象の概要として地区および行事全体の流れや情報を整理した。左義長は漁師町であった下町地区が中心となっていく複合的な祭礼行事だが、現在は生業構造が変化していることがうかがえる。それでは、左義長の実際の様子を提示していくこととしたい。

3. 左義長の現在—2024 年度の様子—

（1）調査概要

本稿で提示するのは、2024 年度に実施された大磯の左義長の調査データである。12 月 8 日の一番息子から順番に提示を行うが、筆者は大北地区を中心に調査したため、基本的には大北地区の内容となる。

本来であれば、それぞれの地区の詳細をおさえるべきであるが、基本的には筆者一人で行った調査の都合、記録しきれていない個所があることをお断りしておく。なお、1 月 5 日～9 日については、都合により調査ができなかった。記述にあたって閲覧性を考慮し、筆者が適宜見出しをつけている。また、本稿で掲載する写真は、特段の注記が無い限り筆者が撮影したものである。

（2）左義長の様子

① 2024 年 12 月 8 日（一番息子）

一番息子 この日は一番息子である。坂下地区では 8 時 30 分に集まり、ガイダンスのうえでスタートがはじまった。今回は東町と台町から子どもが来た。9 時 30 分まで約 1 時間をかけて 50 軒ほどを回る。9 時 30 分まで約 1 時間をかけて 50 軒ほどを回る。流れとしては家々でドアチャイムを鳴らし、家の人が出てくると祈願内容を伝えてくるので、それ通りに子どもが唱える。唱え終わると、家人が子どもたちへ祝儀を渡す。例えば、「家内安全でお願いします」と家の人に言われると、「家内安全、一番息子」



図3 一番息子（2024年12月8日撮影）



図5 ナイカザリ作り（2024年12月15日撮影）



図4 サイト飾り付け作成(2024年12月8日撮影)

と子ども（年長者）が言ってゴロ石を地面に落とす（図3）。次の子どもが「二番息子」、さらにその次の子どもが「三番息子」というように、続けて唱えて落としていく。今年の場合は9人で回っていたため、「九番息子」まで参加していた。

祈願内容は「家内安全」「一年間健康でいられますように」といった、家内安全を願うものが多かったが、商売繁盛を願う家も中にはみられた。

サイト飾り付け作成 一番息子と並行して行われていたのが、サイトにつける飾りの作成であった。筆者の確認の限りでは大北がこの日に行っていた⁽⁴⁾。9時に北下町福祉館に10人ほどが集まり、吹き流しや巾着などを作成する（図4）。

男性陣は黄・紫・青・赤・緑の5色の短冊で輪を作り、吹き流しを作成する。色の順番は黄・紫・青・赤・緑であり、これを10組組み合わせ、計50個の輪で1つの吹き流しとなる。これをいくつか作成していた。女性陣は紙で巾着を作成していた。11時には各自撤収し、11時に解散となった。

② 2024年12月15日 サイトのナイカザリ作り
ナイカザリ作り この日は9時に北下町の道祖神社に集合し、サイトに巻き付けるナイカザリを作る。鳥居から脚立などに縄を張り、二人一組でナイカザリを作っていく（図5）。

作る際には水桶に水を入れ、わらをつける。これはわらの穂を湿らせて編みやすくするためである。そのわらを縄にかけ、ナイカザリを作っていく。編むのに一人、わらを水桶から渡すのに一人で二人一組となる。1946年生まれのB氏によれば、このようなやり方は簡易的なナイカザリの作り方、20年ほど前から行っている。本来は手と足を使って編むという。現在、手と足で編む本来のやり方は、1955年生まれのC氏しかできない。B氏より一回り上の世代の人たちは、手と足を使って編んでいた。B氏によれば、簡易的なやり方は、南下町で行われたものを参考にしてしている。

ナイカザリに使うわらは、かつては買っていたが、現在は大磯町内の西小磯地区の農家から融通してもらっている⁽⁵⁾。

仮宮受取 11時ごろになると、仮宮を取りに行く。現在、仮宮は町内の方をお願いして作ってもらっている。これは7～8年くらい前からのことで、それ以前は大工などをお願いしていた。なお、材料のベニヤなどは近所のロイヤルホームセンター湘南大磯店で購入しているようである。受け取った仮宮は道祖神社の本殿に収める。

仮宮の大きさは、いずれも最長部での計測で横幅が41.0cm、縦が42.5cm、奥行きは厳密には計測できなかったものの、おおよそ45cmであった。

この日は11時半ごろになると片づけを行い、12時に解散となった。

③ 2025年1月11日 ナナトコマイリなど

ナナトコマイリ 下町通りや長者町では各地区がオカリヤを建てており、子の神や長者町では子どもが籠っていた。長者町では17時から20時にかけて、オカリヤ前で太鼓を叩いている。長者町では20人ほどの子どもたちがオカリヤの周囲に集まっており、特に賑わっていた。筆者は19時30分ごろ下町通りを歩いていたが、参拝者もみられた。

オカリコ 大北では同時刻にオカリコを行っている。今年は9日（木）～11日（土）まで行ったようである。時間帯としては、18時から21時前まで行う。一番息子などと同じく家々をめぐり、唱え事をして祝儀をもらう。

子どもだけでまわり、もらった祝儀は子どもたちで山分けをするという。この日は3人の子どもが行っていた。唱え事は以下の言葉を2回唱える。

オカリコメデテエ オイエハゴハンジョウ
ゴハンジョウ ゴハンジョウ
フクノカミガ マイコンダ
マイコンダ マイコンダ

一人が太鼓を叩きながら、ほかの者が唱え事を唱えながら、腕を組み合わせる舞う動作をする。回るルートは大まかに決まっていますが、ヒがある家は回らないが、ピンポンをするまでわからないこともあり、ヒがあると断られるという。

筆者は19時50分ごろ道祖神社前でオカリコのグループに遭遇した（図6）。この日は早めに切り上げるためか、20時に終了であった。

④ 2025年1月12日 サイトバライ当日

この日は午前中にオンベの解体およびサイトの組み立て、午後はサイトへの着火やヤンナゴッコなどが行われた。準備作業はある程度同時並行して行われるため、それぞれを往復しながらの記述である。

ソリの作成・オンベとオカリヤの解体 朝6時ごろから5名ほどが集まり、道祖神社でソリの作成とオカリヤの解体が行われた。オカリヤから仮宮を外し、ソリの台座に載せる。ソリに載せたあと、わら縄をの字編みで編みこんでいく（図7）。大体6時47分ごろから編み始める。この後、7時ごろには参加者が増えてきて、オカリヤの撤去が進んでいく。7時10分、オカリヤの撤去が終わる。オカリヤの撤去が終わると、オンベの解体が始まる。7時20分ごろオンベを倒す。倒したオンベは浜にもっていく。

10時15分ごろ、の字編みが終わる（図8）。ソリに綱引きなどで用いる綱をつけていくが、綱の巻き方を確認するためにスマートフォンで過去に行った際の写真を確認しつつ進めていた。



図6 オカリコ（2025年1月11日撮影）

図7 ヤンナゴッコのソリへの編み込み
（2025年1月12日撮影）

図8 ヤンナゴッコのソリ（2025年1月12日撮影）

サイト作り 7時35分ごろ、オンベは浜にもっていく。スコップで穴を掘りつつ、オンベに飾りをつけていく。8時20分ごろ、大北のオンベが立つ。同じころ、山王町のオンベもたつ。坂下と長者町は8時15分の時点で立っていた。この付近で大磯中学校の中学生たちが手伝いとして集まる。この付近で大磯中学校の中学生たちが手伝いとして集まる。中学生の手伝いの詳細は4章で触れたい。



図9 オンベに松をつける（2025年1月12日撮影）

オンベを立てたあとはオンベにオカリヤの前に立てていた門松をオンベに巻き付け、その周りにアンコとよばれる木材を三角錐状に立てる。その後、周松をつけていく（図9）。松をつける際、葉が下を向くようにつける。これはブロッコリーのようにこんもりとしないためである。

10時ごろ、中学生は解散となる。その後、正月飾りなどのお飾りを出してサイトにつける準備をする。ダルマは底にヒモをつける。お札類も展開されていたが、簡単に確認した限りでは高来神社のものが多い。白岩神社のものもいくつか混ざっていた。大雄山（南足柄市）や寒川神社（寒川町）のものもあり、中には下溝八幡（相模原市）のお札も確認できた。

11時20分ごろ筆者が確認した際、サイトにナイカザリを巻いていた（図10）。巻いていく際は時計回りに巻いていく。サイトの構造としては、内側からオンベ→竹（門松）→アンコ→松→お飾り→ナイカザリ→ダルマの順である。

12時に完成となる（図11）。潮水を水桶一杯分汲み、サイトにかけて終わる。12時15分になると豆腐を食べて終了である。

ソリの御祓い 12時55分になると道祖神社に高来神社の神主が来て、ソリのお祓いを行う（図12）。宮役員と子どもたちが参加し、行事の無事が祈願される。13時30分ごろ、お祓いが終わったソリを浜に持っていく。A氏によれば持って行くルートは決まっており、基本的にヤンナゴッコの際に浜から道祖神社に持ってくるルートの逆順であるため、図18のルートの逆順となる。

13時38分、浜へ到着しソリをサイトのそばに置き、一度解散となった。この後、地域内のコンビニエンスストアでは左義長用の団子の粉が販売されており、15時から左義長用の団子セットを販売する旨が告知されていた。大磯駅前でも、団子をつける用の竹が販売用のためか並べられていた。



図10 ナイカザリを巻く（2025年1月12日撮影）



図11 完成した大北のサイト
（2025年1月12日筆者撮影）



図 12 道祖神社でのお祓い(2025 年 1 月 12 日撮影)

サイト着火前 17 時、北下町旧公民館に三社会と宮役員が集まる。中で豚汁などが振る舞われ、食事を取る事となる。浜の様子としては、18 時を過ぎると 18 時 30 分の点火に向けて続々と人が集まる。暗くなっている浜では発電機を使って電気がつけられていた。会場内には人が続々と押し寄せており、海外からの観光客と思われる人も多数みられた。

サイト着火 18 時 30 分になると、サイトに火を入れる。点火する際は恵方の方角から行う。すぐにサイト中に火が回り、団子を火に入れて焼く人がみられる。サイトの周辺は火の粉が舞い上がる(図 13)。

サイトに火が周って倒れるとヤンナゴッコが始まるが、地区によって倒れる時間は前後する。暗い中で一斉に点火作業が行われ、大勢の人が集まることから俯瞰的に確認することはできないが、筆者が確認できた限りでは浅間町は 18 時 36 分であり、18 時 38 分ごろになると山王町のサイトが立つ方角からメガホンで何かを言う音が聞こえた。恐らく山王町はこの時間に倒れていたのであろう。大北の場合は 18 時 41 分に倒れた。

ヤンナゴッコ サイトが倒れると、大北ではヤンナゴッコが行われる。18 時 42 分になると三社会の裸衆が登場する(図 14)。裸衆は褌を着けているのみで寒いように思われるが、サイトの近くにいる場合は「火の粉がかかり、寒いより熱い」との声が聞こえた。

18 時 47 分ごろになるとヤンナゴッコが始まる。裸衆は海に入って陸と海で綱引きを行う(図 15)。見物人が多かったが「引くのを手伝ってほしい」旨の声がかかり、見物人たちも綱を引くこととなる。3 回駆け引きを行い、18 時 53 分頃綱引きは終わる。

18 時 54 分、ソリを逆さにして叩きつけた後に仮宮を踏みつけて破壊する(図 16)。19 時前になるとサイトの中にソリを転がしていた。19 時頃、酒を飲み町内のほうへソリを曳き始める(図 17)。曳く際



図 13 点火されたサイト (2025 年 1 月 12 日撮影)



図 14 裸衆の登場 (2025 年 1 月 12 日撮影)



図 15 綱引きの様子 (2025 年 1 月 12 日撮影)



図16 ソリを壊す（2025年1月12日筆者撮影）

には伊勢音頭を歌い、歌った後に引っ張ることを繰り返し、道祖神社へ向かう。ルートとそれぞれの歌う時刻は図18の通りである⁶⁾。

19時46分、道祖神社に到着したため年男を探し、胴上げを行う。胴上げが終わると宮役員代表であるA氏が挨拶をして行事自体が終了、各自解散となる。

後片付け 裸衆たちは、バスに乗ってさざんか荘の風呂に入りに行く。見物人たちは帰っていくが、A氏・B氏・C氏ら宮役員は後片付けを行う。20時14分、ソリから仮宮を外し、縄を取る。仮宮は浜へ持っていく、サイトに入れて燃やす。21時ごろの段階では浜から道祖神社へリアカーで発電機などを戻していた。提灯の部材なども道祖神社の倉庫へ戻し、21時40分に最終的に解散となった。



図17 ソリで町内をめぐる（2025年1月12日撮影）

⑤ 2025年1月13日

後片付け この日は前日12日の後片付けの残りをを行う。なお、昼の12時すぎに浜に行った際には、大北や坂下のサイト部分には火がついていた。

道祖神社に13時になるとA氏ら5人ほどが集まり、用具類の片付けを行った（図19）。前日のヤンナゴッコの際にソリやロープなどに砂がついているため、これを落とす。ソリは箒を使い、ロープはホースで散水する。ブルーシート類も砂がついているため、ホースで散水して乾かす。浜でサイト用アンコの保管用（放火や盗難防止用のカバー）として使用したブルーシートもあり、これらは大磯町の生涯学習課から借りている。14時ごろに大磯町立図書館の生涯学習課まで返却して解散となった。

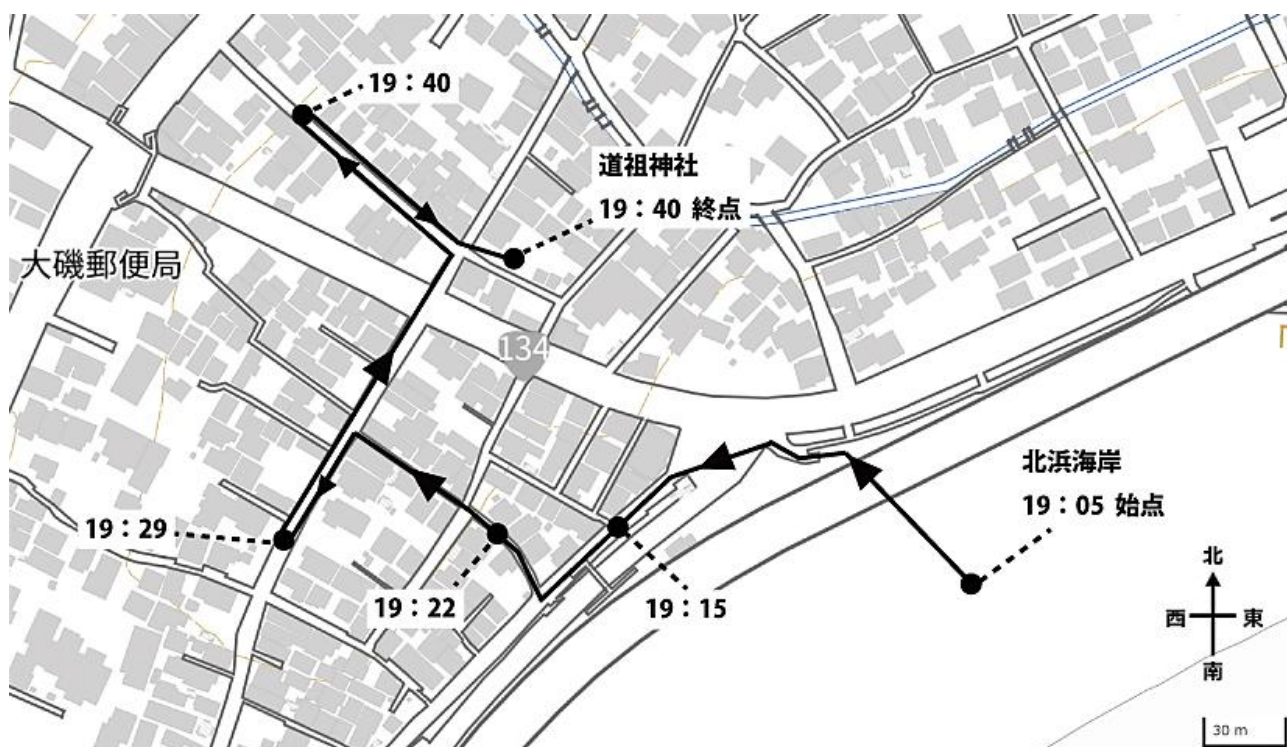


図18 ヤンナゴッコのソリのルート（国土地理院地図 Vector より筆者作成）



図 19 片付け（2025 年 1 月 13 日撮影）

ここまで、本章では 2024 年度の大磯の左義長の様子を、大北を中心に見てきた。次章ではこれまでの報告と既刊の報告との比較を行うことで、現在の左義長のありようを描き出していく。

4. 考察

（1）過去との比較

本章ではこれまで提示してきた調査データと既刊報告類との比較により、現在の左義長の位相を確認するとともに、いくつかの検討を示していく。

最初に、各行事開催の有無を見ていきたい。『大磯の道祖神祭』を見てみれば、オカリコはおおよその地区でも行われており、一番息子も南下町ではどの地区でも行われていた〔神奈川県教育委員会編 1962〕。一方、現在ではオカリコは北下町のみ、一番息子は南下町の坂下地区でのみ行われる⁽⁷⁾。綱引き行事も、浅間町ではソリを置くのみとなっており、綱引き自体は行っていないようである。坂下ではソリこそ用いないものの、綱を引くようである。そのため、ヤンナゴッコは現在、子の神、大北、長者町の 3 つで行われている。

このほか、1960 年頃の記録では町内によっては人形が乗っている屋台（山車）を引くところがあったが〔神奈川県教育委員会編 1962〕、現在では行われていない⁽⁸⁾。しかし、佐川によれば屋台は浜之町、大泊、子の神で出るが、山車に藁人形を載せているのは戦前までで、早い地区では大正末～昭和初期には廃絶したという。藁人形も昭和 30 年頃の写真には確認できず、藁人形を作らなくなったあとも山車だけは組み立てられていたのではないかと考察している〔佐川 1991：7〕。神奈川県報告書では少なくとも浜之町の記述において、藁人形をつくって乗せることが現在形で記述していることから、報告書と佐川の記述に矛盾がみられる。今後改めて聞き取り

調査を行っていくことで補完していくこととしたい。

一番息子やオカリコは家や生業の繁栄を願う行事である。そのような現世利益の内容にも変化が生じている。報告書によれば、一番息子は「〇〇さんに、よい嫁が来るように、一番息子」、「〇〇さんに、よい婿が来るように」、「よい赤ちゃんができるように」などと唱えていたようである〔神奈川県教育委員会編 1962：3-4〕。一方、今回調査した限りでは、一番息子では報告されているような願いは無く、家内安全を願うものが大半であった。浜之町の 1962 年生まれの D 氏によれば、地域の高齢化が背景にある。このことを如実に表すものとして、例えば大北地区の宮世話人は同地区の民俗調査報告書では 3 年任期であるが〔杉井 1998：12〕、A 氏によれば現在は 4 年任期であり、宮役員の担い手が少ないこともあり、現在同じ人が 3 期目として繰り返し担当している状況である。

各種作り物の形態の変化も見ていこう。オカリヤは、かつては現在のように木組ではなく、門松などで作られていたようである。しかし、1950 年代時点で「近頃は門松が少ないので、木材で組立小屋にと変った所が多い」とされ〔大磯町文化史編纂委員会編 1956〕、1950 年代を境に藁等のものから現在の木製の組み立て式に切り替わった可能性がある。

サイトにも変化がある。山王町のサイトは、1960 年調査時では、現在のように円錐形ではなかったようである〔神奈川県教育委員会編 1962：57〕。円錐形の現在のようなサイトの形になったのは、1978 年からであるという⁽⁹⁾。

サイトの中身であるアンコの部分も、A 氏が子どものころは家々の門松が使われていた。門松は平塚などの町外までリアカー引っ張っていき、回収をしていた。今は門松が立たなくなったり、立っても小さいものが多かったりして、門松ではアンコをまかないきれないという。そのため、藤沢の土木管理を行っている伐採業者から間伐材を融通してもらい、アンコとして活用している。この点は次節で詳述する。

また、近年では新型コロナウイルス感染症によるコロナ禍があったことは周知の事実であろう。多くの無形民俗文化財が中止・縮小に追い込まれ、左義長も例外ではないことは既に述べたが、コロナ禍の際にはどのような開催状況であったか、A 氏によれば次のような状況であった。

【事例 1】

コロナ時は各道祖神に集まった門松と正月飾りをゴミとして処理するのは抵抗があるとして、海岸に一カ所に纏めて火をつけた。他の町内からも「お飾り等どうしたらいいの？」など問い

合わせがあった為、各地区の神社等の集積場所に持って来てくれれば役員のみでまとめて処理した。例えば、北下町の地区では七草（1月7日）後にお飾り・ダルマ等を道祖神社に個人的に持って来ているという。

縮小しながらも、お焚き上げのように実施するなどして継続させていたようである。続けて、コロナ禍が明けた際の状況について、次のように語る。

【事例2】

コロナ禍明けの左義長準備については大きく困った事はなかったが、海岸でのサイト作りに必要な備品を忘れ何度もあれが無い、あれはどうしたなどは結構あった。協力者がいないとかの問題はなかった。

コロナ禍による祭礼のコミュニティへの影響は軽微だったといえる。それでは、前述の各行事開催の有無も含め、何がこの地域の中で変わってきているのだろうか。

過去との大きな違いとしては、地域の生業構造の変化であろう。大磯の下町地区は特に漁師町としてかつてはにぎわいを見せていた。一方、現在の下町地区での漁業従事者の人口は、南下町の坂下にわずかに残るばかりで、北下町には漁師が一人もいないという⁽¹⁰⁾。そうだとすれば、漁師が減少した現在において、主な担い手として考えられる左義長も影響を受けざるを得ない。このことについては、改めて次節でとりあげてみたい。

以上、本節では既刊報告書との対比により、左義長の現在の様子を浮き彫りにしてきた。過去から変容していく中で、コロナ禍よりも地域の生業構造の変化が行事に影響を与えていることがわかる。このことを踏まえ、次節では現在の左義長の様相をより一層確かにするためにも、現時点での左義長の課題と、各種の実践を浮き彫りにしていく。

（2）関係性の中で形作られていく左義長

ここまで現在の左義長の状況を確認してきた。ここでは現時点で地区が抱えている課題を提示し、そのうえで地区がどのように克服しようとしているのかを確認しよう。その際、左義長が無形民俗文化財となっていることが鍵となる。さて、再びA氏への聞き取り調査の記録から見ていきたい。

【事例3】

現在の課題として、アンコの確保をどうするのかという課題がある。通年は藤沢の海岸防風林の間伐材を利用させて貰っていたが、将来的

に仮にそれができなくなった際の方策も練らねばならない。

また、子どもが少なくなっていることも課題である。特に地域の子どもの少ないのは下町と呼ばれる南下町と北下町である。左義長は子どもが担う行事もあり、例えば南下は一番息子の子どもがいない、北下はオカリコの子どもが少ないといった悩みがある。下町地区では役員の高齢化も課題である。

事例3の前半部分では左義長のサイトの材料であるアンコ（間伐材）の確保が課題となっているが、これは約20年前から藤沢市の松林などを管理している伐採業者に調達をお願いしていることによる。その際、大磯町生涯学習課が保存会と事務所や業者との仲介をはかることもある⁽¹²⁾。

後半部分では、子どもの減少が課題になっているという。一番息子やオカリコ、ナナトコマイリの際のオカリヤのように、左義長において子どもが担う行事は多い。しかし、地域の高齢化が進む中で地域内に子どもがおらず、行事が遂行できなくなる可能性もある。そこで、一番息子を実施する際には下町地区にある寺院の東光院が仲介となり、地域外の子どもを行事の参加者として呼び込んでいるという。これが功を奏し、3章で確認したように2024年12月実施の一番息子では9人もの参加があった。

上記の件とは別に、A氏によればオカリコは地区の低学年の子が新たに参加してくれたという。そのため、従来は開始時間が19時だったが、帰りが遅くならないよう今年は18時開始としており、地域内部での継承が行われていることも付記しておく。

行政としては小中学校での出張授業も行っている。左義長保存会のメンバーが出向き、解説やサイトの組み立ての実演などを行っている。筆者は2024年12月6日（金）の大磯中学校および12月10日（火）の国府小学校での出張授業を見学したが、大磯中学校では左義長の映像を見ながら全体の流れを確認した。また、国府小学校では体育館内でサイトを組み立てたほか、一番息子の体験を行っていた。このうち、大磯中学校ではサイトバライ当日の12日に、中学生が各地区に手伝いとして派遣されていた。これは授業の一環として実施しているもので、8時に生徒が集合したうえで各サイトに散らばり、8時～10時までの時間でサイト作りに参加している⁽¹¹⁾。ここまで行政での取り組みを紹介してきた。次に行政以外の企業・団体いわば、各種アクターのとりくみをみていく。

大磯町観光協会では左義長にあわせてA4サイズ4ページのパンフレットを毎回作成し、配布している。このパンフレットは2015年より刊行されてお

り、左義長のあらましや一番息子、道切り、セエトバレエやヤンナゴッコといった各行事の解説が記載されている。ここで注目したいのが、パンフレットの裏側である。試みに 2025 年 1 月に配布されていたパンフレットを見てみれば、裏表紙には「国指定重要無形民俗文化財「左義長を訪ねる」～左義長ゆかりの道祖神を巡る～ガイドツアー」、「左義長保存支援募金」、「清酒「大磯左義長」販売」、「左義長立ち寄り処」、SNS の Instagram を用いた「おおいそまち観光フォトコンテスト」などの文言が確認できる。ガイドツアーは NPO 法人大磯ガイド協会が、立ち寄り処と保存支援募金は NPO 大磯だいすき倶楽部が主催している。

このような支援が立ち上がる背景には、運営費という課題があった。2015 年 12 月 18 日更新の地域情報紙『湘南ジャーナル』に当時の状況がわかりやすく整理されているため、引用したい。

衰退の要因は 1 つ、言わずもがなの「運営費」だ。大磯の左義長はサイト制作などで費用が結構かかるのである。

元は漁師町の、漁師中心に開催されてきた祭りであり、実際に数十年前までは漁師が沢山いたという。そして漁師らの持ち出しに加え、さらに地域からの「花代」といった祝い金の寄付も多く、運営には支障がなかったそう。だが高齢化、人口減少社会の時代を迎え、漁師は激減、花代も減少。地域でつくる保存会だけではまかないきれず、だんだん先細ってきていよいよ窮地に陥った、という実情だ。

昨年 4 月、保存会の会長に就任した芦川さん（53）は「就任時点で保存会の通帳には 0 円。もう地域だけでやっていくのは限界で、地域の人たちは万歳（お手上げ）しかけていたんです」と言う。⁽¹³⁾

かつては漁師が主な担い手であったことから、運営費も漁師の持ち出しによっても賄われていたが、先述しているように現在は漁師の数も減少し、地域の保存会だけでは支えきれないところもあった。そのため、前述の清酒「大磯左義長」やだいすき倶楽部の事業がスタートしたという。このほか、「左義長応援団」というボランティアを募集し「大磯町役場政策課編 2024:3」、保存会だけでなく様々なアクターを伴って継承にできるような体制を作り上げようとしている。

左義長も含め、全国各地の無形民俗文化財全体の動向として担い手当事者以外の関与が増えているのも事実であろう。小川直之は「企業・団体等による多面的支援制度」として宮崎県や長野県の民俗芸能

における行政の支援を具体例としてあげているが〔小川 2022〕、左義長も観光協会やガイド協会などの担い手以外の存在による支援の関係性によっても形作られている⁽¹⁴⁾。

このような無数の関係性により、祭礼は私たちの目の前で行われている。俵木悟は民俗芸能について次のように述べるが、同じことが祭礼でもいえよう。

現実に、現在も数え切れないほど多くの民俗芸能が、地域の祭礼や生活のサイクルのなかで行われていることは言うまでもない。しかしそれらは、当然のごとく「今まで通り」行われているのではない。それこそ 1 度ごとの上演の度に、外部からの見えない力によって、また参加する者個々の日常生活から得られる情報や経験によって、変化の圧力を加えられている。しかし一方で、少なくとも自分たちがそれを担う以前から、近しい先輩たちによって伝えられてきたものを容易に変えてはならないというある種の規範意識や、わざわざ新しい試みをする必要も感じないという慣性の力によって、変化は抑制される。そのような様々な要因が絡みあった拮抗状態の結果として、1 度ごとの上演は現出するのである。たとえそれが様式的に、外から見てあまり変化していないとしても、そこに働いている諸要因の力学は一様ではない。〔俵木 2009:84〕

祭礼は毎回繰り返して行われていく。同じように繰り返されている祭礼であっても、当事者たちの実践や様々なアクターによる支援も含め、諸要因によって細かな違いは出てくるであろう。

左義長は、以前は漁師が祭礼の中で大きな役割を担っていた。現在では地域内の生業構造も変化し、勤め人が多くなっている。地域の祭礼を中心に担う存在が変化すれば、祭礼も変わる事となる。その際、無形民俗文化財である左義長は観光協会やガイド協会、NPO 団体などが支援に加わる事となる。そして、SNS などのインターネットメディアが発達している 2025 年現在、フォトコンテストなどのインターネットなどを用いて発信することによって、さらに外部にも左義長は認識される。そのように多重に結びついた流れの中で、左義長は継承されていくのである。

むすびに

本稿では 2025 年時点での大磯の左義長開催状況を事例とし、既刊報告類との比較を試みることで、現時点での左義長のありようを浮かび上がらせるこ

とを目的としてきた。4章で述べた通り、無形民俗文化財に指定されている左義長は外部の人々も行うことができる募金など、保存会などの旧来行事を維持してきた人々以外のかかわりが生まれている。

今回筆者が報告した左義長は、あくまでも長い時間の中での変容の一過程を映したに過ぎないのであることから、踏み込んだ考察にまでは及ばなかった。大北地区の準備の一部の様子を報告できていないことに加え、大北以外の地区がどのような様子であるか、記録していくことも今後の課題であろう。左義長が様々なアクターと結びついていくことでいかなる様相を呈していくか、引き続き調査を進めていくこととしたい。

謝辞

本稿執筆にあたり、大磯町左義長保存会の二梶木政義氏をはじめ、保存会の皆様および大北地区の皆様には大変お世話になりました。記してお礼申し上げます。

注

- (1) 本稿では詳しく触れられないが、神奈川県その他地域の事例としては綾瀬市での道祖神の検討を行った小川の成果や[小川 2002]、伊藤重信による神奈川県下の小正月で石を焼く習俗の比較研究などがある[伊藤 1986]。大磯町教育委員会によっても、大磯町内の道祖神の悉皆調査が行われている[大磯町教育委員会編 1982]。大磯の左義長に関しては、国の重要無形民俗文化財に指定された際、田中が神奈川県史民俗編の記述を引用しつつ左義長を紹介している[田中 1998]。浜野は五輪石を使う習俗を分析する際に一番息子の事例を紹介しているほか[浜野 1997:5]、入江英弥は小正月行事の由来伝説として語られる、一つ目小僧と道祖神の話の分析の中で、子の神地区の事例を紹介している[入江 2002:10(7946)]。地域内でも高橋光によって、1980年ごろの左義長の様子が報告されている[高橋 1982]。このほか、日本民俗地図でも大泊や長者町の様子が記されている[文化庁 1971:226]。
- (2) 北下町には北浜海岸が、南下町には大磯港が、山王町には高麗山がある。提示にあたって距離や面積に関しては人家が密集している箇所での計測とした。距離は東西での最大幅を目安として計測している。あくまでも参考

値として考えていただければ幸いである。

- (3) 大磯町政策課調べによる。
https://www.town.oiso.kanagawa.jp/gyosei/toukei/toukei_jyohou/zinkou/jinko2024_1/22501.html(2025年8月25日閲覧)
大磯町大磯には、北本町、南本町などの他の地区も含まれているため、あくまでも参考程度の数値となる。
- (4) 芦川酒店付近でも準備作業が行われていた。浜之町か坂下の準備だと考えられる。そして、ここからの記述は1月13日の片づけまで、特段の注記がない限りは大北地区のものである。
- (5) A氏によれば、2025年現在西小磯地区で3軒の農家が左義長の8つの地区にわらを融通している。例えば、農家Aは大北・浅間町・山王町を、農家Bは坂下・浜之町を、農家Cは子の神・中宿・長者町といった割合とのことである。
- (6) 浜之町や大泊でも現在は行われておらず、判明している限りだと子の神では2000年前後まで行われていたようである。ちなみに、茶屋町でも一番息子と同様の行事を行っていたことがあるという。下町以外の小正月行事の様子については再検討の必要がある。そのほか、東町では習字やオカザリを長者町のサイトで燃やしている
- (7) 作図に国土地理院地図Vectorを使用した。
国土地理院地図Vector(2025年9月11日閲覧)
<https://maps.gsi.go.jp/vector>
- (8) 長田によればオカリコは1938年に廃止されているというが[長田 1998:199]、1960年時点では行われている[神奈川県教育委員会編 1962]。今後聞き取りや既刊報告による一層の検討により、各行事の実施状況を把握する必要がある。
- (9) 大磯町郷土資料館所蔵の調査記録による。
- (10) 下町地区で聞き取りすると、西湘バイパス開通時期に多くの漁師が陸に上がって国鉄などに勤めることとなったという話を聞くことができる。
- (11) A氏によれば、3代ほど前の会長のころからこの方法でのアンコの調達を試みられた。伐採業者側は管理の際にでてくる間伐材を文化財の実施のために活用でき、左義長保存会側もアンコとして使えるため、両者にとって互助的な関係であるという。
- (12) このほか、大磯小学校では小学校の校庭にサイトを作り、実演を行ったという。

- (13) 湘南ジャーナル 2015 年 12 月 18 日「存続危機に瀕する伝統大磯で広がる左義長の支援活動」(2025 年 9 月 9 日閲覧)
<https://shonan-journal.com/magazine/15317/>
- (14) もっとも、A 氏のアンコ調達の語りや日守の記述にみられるように〔日守 1986a:3〕、それ以前から地域外部とのかかわりがあることによって、左義長は存在していた。

参考文献

- 伊藤重信 1986「一つ目小僧とサイノカミの石—神奈川県における石を焼く習俗をめぐって—」『日本の石仏』37
- 入江英弥 2002「行事由来伝説「一つ目小僧と道祖神」の形成—目籠・事八日・斎日—」『民具マンスリー』34 (10)
- 大磯町教育委員会編 1982『道祖神調査報告書』（大磯町文化財調査報告書 第 22 集）大磯町教育委員会
- 大磯町文化史編纂委員会編 1956『大磯町文化史』大磯町教育委員会
- 大磯町役場政策課編 2024『広報おいそ』2024 年 1 月号
- 小川直之 1993『地域民俗論の展開』岩田書院
- 小川直之 1998「神奈川県の道祖神祭」『Report—大磯町郷土資料館だより—』17
- 小川直之 2002「道祖神とセエトバライ」『綾瀬市史研究』8
- 小川直之 2022「祭り・芸能の継承への取り組み—地域社会と行政・企業との連携—」石垣悟編『まつりは守れるか—無形民俗文化財の保護をめぐって』八千代出版
- 長田平 1998「年中行事」大磯町編『大磯の民俗 (2) —大磯・東町・高麗地区—』（大磯町史民俗調査報告書 5）大磯町
- 神奈川県教育委員会編 1962『大磯の道祖神祭』（神奈川県民俗シリーズ 2）神奈川県教育委員会
- 神奈川県教育庁文化財保護課 1981『神奈川県の道祖神調査報告書』神奈川県教育庁文化財保護課
- 神奈川県立歴史博物館編 2020『特別展「かながわの正月—よい年になりますように—」』神奈川県立歴史博物館
- 倉石忠彦 2014「神奈川県の道祖神信仰」『縁』7
- 佐川和裕 1991「藤村の見た左義長—雑記帳をめぐる 2、3 の私見—」『Report—大磯町郷土資料館だより—』2
- 真保元 2024「神奈川県中郡大磯町の御船祭における予備的考察—船形山車をめぐる現状を事例に—」『現在学研究』14
- 杉井純一 1998「村制」大磯町編『大磯の民俗 (2) —大磯・東町・高麗地区—』（大磯町史民俗調査報告書 5）大磯町
- 杉井純一 2002「境界の民俗」『大磯町史研究』9
- 鈴木一男・飯田善雄 1981「大磯町の道祖神」神奈川県教育庁文化財保護課『神奈川県の道祖神調査報告書』神奈川県教育庁文化財保護課
- 鈴木通大 1998「信仰」大磯町編『大磯の民俗 (2) —大磯・東町・高麗地区—』（大磯町史民俗調査報告書 5）大磯町
- 鈴木通大 2003「大磯の左義長」大磯町編『大磯町史 8 別編民俗』大磯町
- 高橋光 1982『ふるさと伝承記』郷土史研究会
- 田中宣一 1977「年中行事」神奈川県企画調査部県史編集室編『神奈川県史 各論編 5 (民俗)』神奈川県企画調査部県史編集室
- 田中宣一 1998「新・国指定重要無形民俗文化財「大磯の左義長」について」『かながわの民俗芸能』62
- 永田衛吉 1987『神奈川県民俗芸能誌 増補改訂版』錦正社
- 浜野達也 1997「セエノカミの五輪石」『自然と文化 平塚市博物館研究報告』20
- 浜野達也 2005「セエトバライのオンベ」『民具マンスリー』38 (2)
- 浜野達也 2020「小正月の火祭りにおける道祖神の再生と復活」『自然と文化 平塚市博物館研究報告』44
- 日守高造 1986a「大磯（下町）の左義長— (1) —」『資料室だより』1 (6)
- 日守高造 1986b「大磯（下町）の左義長— (2) —」『資料室だより』2 (7)
- 日守高造 1986c「大磯（下町）の左義長— (3) —」『資料室だより』2 (8)
- 平塚市博物館 1999『相模の道祖神』平塚市博物館
- 平野文明 1985「蘇る石塊—『神奈川県の道祖神調査報告書』(1981) をテキストにして、県内の道祖神祭を分析する—」『日本の石仏』36
- 平野文明 1986「蘇る石塊 (2) —『神奈川県の道祖神調査報告書』(1981) をテキストにして、県内の道祖神祭を分析する—」『日本の石仏』37
- 俵木悟 2009「民俗芸能の「現在」から何を学ぶか」『現代民俗学研究』1
- 福田八郎 1968『相模民俗史 卷三 年中行事 人の一生 運搬具』私家版
- 文化庁 1971『日本民俗地図Ⅱ (年中行事 2)』文化庁
- 宮代伊佐雄 1980「左義長（大北の道祖神）」関野秀雄編『郷土誌北下町』私家版
- 和田正洲 1974『日本の民俗 14 神奈川』第一法規

明治33年 (1900)	4月22日	大隈の大磯別荘に滞在中の常宮・周宮内親王が、帰京予定だったが雨のため延期する	『東京朝日新聞』 明治33年4月23日	
	11月7日	各大臣らを早稲田邸に招待し、観菊会を催す予定	『読売新聞』 明治33年10月30日	
	11月19日	同盟記者を早稲田邸に招待し、園遊会を催す予定	『読売新聞』 明治33年11月16日	
	12月29日	大磯に赴かず早稲田邸にて年越しをする予定	『東京朝日新聞』 明治33年12月29日	
明治34年 (1901)	3月14日	早稲田邸が焼失する	『読売新聞』 明治34年3月15日	
	6月	大磯別荘を古河市兵衛に売却する	『東京朝日新聞』 明治34年6月15日 『読売新聞』 明治34年6月15日	

- * 1 大隈の大磯別荘を表では「大磯別荘」とする
- * 2 官邸は大隈の外相兼農商務相官邸のこと
- * 3 早稲田邸のことか

明治31年 (1898)	3月27日	夫人他数名と共に大磯別荘へ赴く	『読売新聞』 明治31年3月28日	1週間ほどの滞在
	4月27日	チャーンズ英国海峡植民地大守やアーネスト・サトウ英国公使らを早稲田邸に招待し、饗応及び談話する	『読売新聞』 明治31年5月1日	
	6月10日～22日	6月23日に皇太子が早稲田邸を行啓する予	『読売新聞』 明治31年6月10日・17日	
	6月22日	皇太子の早稲田邸行啓が見合わせとなる	『読売新聞』 明治31年6月22日	
	7月25日	伊藤を訪ねるため大磯へ赴く	『東京朝日新聞』 明治31年7月26日	
	7月26日	松田正久（大蔵大臣）が大隈首相邸＊3を訪問する	『東京朝日新聞』 明治31年7月27日	
	7月26日	大隈首相邸にて板垣退助（内相）ら各大臣と密議を交わす	『東京朝日新聞』 明治31年7月27日	
	8月6日	夫人及び大石（秘書官）らと共に大磯別荘へ赴く	『東京朝日新聞』 明治31年8月6日・7日 『読売新聞』 明治31年8月6日・7日	
	8月7日	矢野文雄が大磯別荘を訪問する	『読売新聞』 明治31年8月9日	
	8月8日	沼津に御滞在の皇太子を訪問する	『読売新聞』 明治31年8月9日	
	8月20日～23日	夫人及び大石・吉田両秘書官と共に大磯別荘に滞在する	『東京読売新聞』 明治31年8月21日・24日 『読売新聞』 明治31年8月21日・24日	
	10月1日	ご機嫌伺いのため、大磯の鍋島家別荘に滞在中の皇太子を訪問する	『東京朝日新聞』 明治31年10月2日 『読売新聞』 明治31年10月2日	
	10月8日～不明	リウマチの疑いのため早稲田邸で療養する	『読売新聞』 明治31年10月11日・17日	
	10月18日	早稲田邸に官民200名ほどを招待し、園遊会を催す予定	『読売新聞』 明治31年10月15日	
	12月6日	12月4日に大磯で伊藤と会談予定だったが皇太子行啓により延期する	『東京朝日新聞』 明治31年12月6日	
	12月7日	夫人らと共に大磯別荘へ赴く	『東京朝日新聞』 明治31年12月7日～9日 『読売新聞』 明治31年12月7日・8日	
	12月12日	大磯別荘にて伊藤と一時間ほど会談した後、帰京する	『東京朝日新聞』 明治31年12月13日 『読売新聞』 明治31年12月12日・13日	
	12月31日	大磯別荘へ赴く	『読売新聞』 明治31年12月31日	1月10日頃まで滞在予定
明治32年 (1899)	3月11日	谷干城など300名ほどを早稲田邸に招待し、園遊会を催す	『読売新聞』 明治32年3月12日	
	3月31日	大石熊吉らと共に大磯別荘へ赴く	『東京朝日新聞』 明治32年4月1日	
	4月2日	滄浪閣にて伊藤と会談する	『東京朝日新聞』 明治32年4月5日	
	4月3日	大磯別荘にて伊藤と会談する	『東京朝日新聞』 明治32年4月5日	
	4月8日	伊藤から早稲田邸の招待を断られる	『東京朝日新聞』 明治32年4月8日	
	7月9日	大磯から帰京する	『読売新聞』 明治32年7月9日	
	7月8日	家族と共に大磯別荘へ赴く	『読売新聞』 明治32年8月9日	
	11月7日	早稲田邸にて園遊会を催し、小松宮彰仁親王や閑院宮載仁親王らが参列する	『読売新聞』 明治32年11月9日	
	11月21日	早稲田邸にて園遊会を催し演説する	『読売新聞』 明治32年11月22日	
	12月31日	武富時敏及び大石熊吉らと共に大磯別荘へ赴く	『東京朝日新聞』 明治32年12月24日・明治33年1月1日 『読売新聞』 明治32年12月24日	1月7日～8日頃まで滞在予定
明治33年 (1900)	1月6日	伊藤が大磯別荘を訪問する	『読売新聞』 明治33年1月8日	
	2月5日	常宮・周宮内親王が大隈の大磯別荘及び古河家別荘へ滞在する	『東京朝日新聞』 明治33年2月2日・6日	
	2月7日	皇太子が大隈の大磯別荘に滞在中の周宮・常宮内親王を訪問する	『東京朝日新聞』 明治33年2月8日 『読売新聞』 明治33年2月8日	
	2月17日	大隈の大磯別荘に滞在中の常宮・周宮内親王が町の小学校運動会を御覧になる	『東京朝日新聞』 明治33年2月17日・19日	
	3月23日	大隈の大磯別荘に滞在中の常宮・周宮内親王が長者林の後藤象二郎邸を訪問する	『東京朝日新聞』 明治33年3月25日	
	3月26日	大隈の大磯別荘滞在中の常宮・周宮内親王が町の尋常高等小学校の卒業式に参列される	『東京朝日新聞』 明治33年3月28日	
	4月8日	皇太子が大隈の大磯別荘に滞在中の周宮・常宮内親王を訪問する	『東京朝日新聞』 明治33年4月9日	

明治30年 (1897)	8月25日	大磯別荘へ赴く	『読売新聞』 明治30年8月25日 『報知新聞』 明治30年8月25日	
	8月30日	一度帰京も再び大磯別荘へ赴く	『報知新聞』 明治30年8月31日	
	9月1日	肥塚龍（鉱山局長）と箕浦勝人（商務局長）が大磯別荘を訪問する	『東京朝日新聞』 明治30年9月3日	
		大磯別荘にて園遊会を催す	『東京朝日新聞』 明治30年9月3日	
	9月5日	伊藤を迎えるため一時横浜へ向かうもすぐに大磯別荘へ戻る	『東京朝日新聞』 明治30年9月7日	
	9月6日	大磯別荘から帰京する	『東京朝日新聞』 明治30年9月3日・7日 『読売新聞』 明治30年9月7日 『報知新聞』 明治30年9月5日・7日	
		外務省にて徳大寺実則（侍従長）と会談する	『東京朝日新聞』 明治30年9月7日	
	9月7日	ローゼン露公使と外務省にて会談する	『報知新聞』 明治30年9月9日	
	9月11日	大磯別荘へ赴き、滄浪閣にて伊藤と面談する	『東京朝日新聞』 明治30年9月11日・14日 『読売新聞』 明治30年9月11日・12日 『報知新聞』 明治30年9月11日	9月13日まで滞在予定だったが、伊藤との面談を終え11日のうちに帰京している
	9月16日	伊藤の芝伊皿子邸を訪問する	『東京朝日新聞』 明治30年9月17日・21日	
	9月26日	磯部正春と本野英吉郎（農商務省特許局審判官）が早稲田邸を訪問する	『読売新聞』 明治30年9月27日	
	10月2日～4日	大磯別荘に滞在する	『読売新聞』 明治30年10月3日 『報知新聞』 明治30年10月3日	
	10月6日	台湾鉄道の会合に参列し演説を行う	『報知新聞』 明治30年10月8日	
	10月9日	新宿御料植物園を拝観後、早稲田中学校の開校式に参列する	『報知新聞』 明治30年10月10日	
	10月15日	帝国ホテルにて伊藤・桂太郎と会談する	『読売新聞』 明治30年10月16日	
	10月18日	早稲田邸にて大隈遭難記念園遊会を催す	『東京朝日新聞』 明治30年10月20日 『読売新聞』 明治30年10月14日	
	10月30日	樺山資紀（内相）の官邸を訪問する	『東京朝日新聞』 明治30年10月31日	
	11月5日	早稲田邸にて園遊会（観菊会）を催す	『読売新聞』 明治30年10月28日・11月6日 『報知新聞』 明治30年11月6日	雨天により6日に延期するも、天候回復せず中止する
	11月7日	辞表を提出する（松隈内閣の外相兼農商務相）	『東京朝日新聞』 明治30年11月7日 『読売新聞』 明治30年11月6日 『報知新聞』 明治30年11月5日	
	11月24日～12月1日	大磯別荘に滞在する	『読売新聞』 明治30年11月24日・25日・12月3日 『報知新聞』 明治30年12月25日	
	12月28日	大磯別荘へ家族と共に赴く予定が、足の痛みと伊藤の入京のため明日に延期する	『東京朝日新聞』 明治30年12月30日 『読売新聞』 明治30年12月16日・29日 『報知新聞』 明治30年12月29日	
	12月30日	伊東巳代治と談話する	『読売新聞』 明治30年12月31日	
	12月30日	帝国ホテルにて伊藤と会談及び夕食を共にし、深夜大磯別荘へ赴く	『東京朝日新聞』 明治30年12月31日 『読売新聞』 明治30年12月31日 『報知新聞』 明治30年12月30日・1月2日	
明治31年 (1898)	1月2日	大磯にて伊藤と会談する	『東京朝日新聞』 明治31年1月5日 『読売新聞』 明治31年1月5日	2日～4日にかけての政治家同士の会談やその動向については、各新聞記事に取り上げられている
		伊藤が大磯別荘を訪問するも、来客中（武富時敏ら）のため断る	『読売新聞』 明治31年1月4日	
	1月3日	滄浪閣にて伊藤と会談する	『東京朝日新聞』 明治31年1月5日・7日 『読売新聞』 明治31年1月4日	
	1月4日	滄浪閣にて伊藤と会談する	『東京朝日新聞』 明治31年1月5日	
	1月12日	夫人らと共に大磯別荘から帰京する	『読売新聞』 明治31年1月5日・13日	
	2月7日	日本銀行や横浜正金銀行、三井、三菱などの関係者を早稲田邸に招待し饗応する	『読売新聞』 明治31年2月7日	
	3月8日	伊藤や井上馨（大蔵大臣）らを早稲田邸に招待し饗応する	『東京朝日新聞』 明治31年3月10日 『読売新聞』 明治31年3月10日	
	3月23日	小村他5名を早稲田邸に招待し午餐会を催す	『読売新聞』 明治31年3月24日	

付表 新聞記事からみる大隈の動向（大磯別荘所有時期）＊大磯に関連する内容は**赤字**

年	日付	大隈の動向	出典	備考
明治30年 (1897)	4月21日	農商務省の官僚を早稲田邸に招き、園遊会を実施予定	『東京朝日新聞』 明治30年4月20日	
	不明	大磯別荘＊1の消毒を行う	『東京朝日新聞』 明治30年4月27日	
	5月3日	伊藤博文が官邸＊2を訪問する	『報知新聞』 明治30年5月4日	
	5月8日	大磯別荘へ赴く	『読売新聞』 明治30年5月9日 『報知新聞』 明治30年5月9日	
	5月23日～31日	英照皇太后御大祭への参列など、国務のため京都・大阪へ出張する	『報知新聞』 明治30年5月21日～23日・26日・30日・6月1日・2日 『東京朝日新聞』 明治30年5月27日～30日	
	6月3日	持病の歯痛に悩まされ治療する	『報知新聞』 明治30年6月5日	
	6月12日～20日	足の痛みに襲われ早稲田邸にて療養する	『東京朝日新聞』 明治30年6月16日・18日・20日 『読売新聞』 明治30年6月18日・20日 『報知新聞』 明治30年6月16日・19日	
	6月21日	病状回復し官邸に入る	『東京朝日新聞』 明治30年6月22日 『読売新聞』 明治30年6月22日 『報知新聞』 明治30年6月22日	
	6月22日	官邸にて米布（ハワイ）合併問題について閣議を行う	『東京朝日新聞』 明治30年6月23日	
	6月28日	実業家を官邸に招待し万国博覧会への出品を勧誘する	『報知新聞』 明治30年6月30日	
	7月2日	風邪のため官邸にて療養する	『読売新聞』 明治30年7月3日 『報知新聞』 明治30年7月3日	
	7月3日	大石正巳・早川秘書官・馬匹の調査委員幹事らを官邸に招待し饗応する	『報知新聞』 明治30年7月2日・4日	
	7月6日	発熱のため官邸にて療養する	『報知新聞』 明治30年7月8日	この頃の大隈は、風邪と足の痛みに悩まされていた
	7月8日	病気回復により新旧米国公使らを官邸に招待し饗応する	『報知新聞』 明治30年7月9日	
	7月17日～19日	夫人と共に大磯別荘に滞在する	『東京朝日新聞』 明治30年7月17日 『報知新聞』 明治30年7月17日・20日	
	7月22日	各大臣・乃木希典（台湾総督）・曾根静夫（台湾民政局長）を官邸に招待し晩餐会を開く	『報知新聞』 明治30年7月21日・23日	
	7月24日	山県有朋が官邸を訪問し会談する	『読売新聞』 明治30年7月25日	
	7月25日	官邸から早稲田邸へ移る	『東京朝日新聞』 明治30年7月25日 『読売新聞』 明治30年7月25日	
	7月31日	多忙のため大磯行きを見合わせる	『読売新聞』 明治30年7月31日 『報知新聞』 明治30年7月30日	
	不明	咽喉の病気のため早稲田邸にて療養する	『報知新聞』 明治30年8月8日	
	8月9日	病状回復し外務省へ出頭し政務を行う	『東京朝日新聞』 明治30年8月10日 『読売新聞』 明治30年8月10日 『報知新聞』 明治30年8月10日	
	8月10日	避暑のため夫人と共に大磯別荘へ赴く	『東京朝日新聞』 明治30年8月10日 『読売新聞』 明治30年8月10日・11日 『報知新聞』 明治30年8月10日・11日	小村寿太郎（外務次官）や大石正巳（農商務次官）らが新橋まで見送る
	8月14日	安場保和が大磯別荘を訪問し、台湾鉄道について協議する	『読売新聞』 明治30年8月15日	
	8月15日	小村寿太郎が大磯別荘を訪問し会談する	『東京朝日新聞』 明治30年8月16日	
	8月16日	有栖川宮帰朝のため一時帰京する	『東京朝日新聞』 明治30年8月18日 『読売新聞』 明治30年8月17日	汽車内で朴泳孝と面会
	8月19日	大磯から帰京し、西ヶ原の自邸で療養中の陸奥宗光を見舞う	『読売新聞』 明治30年8月20日・21日 『報知新聞』 明治30年8月20日	
	8月20日	外務省にて松方正義（首相）と高島鞆之助（拓殖務大臣）と会談する	『東京朝日新聞』 明治30年8月23日 『報知新聞』 明治30年8月21日	
	8月21日	ローゼン露公使とスペール駐日露代理公使を早稲田邸に招待し饗応する	『報知新聞』 明治30年8月21日・22日	西郷従道（海軍大臣）も参列する

料館所蔵)。*以下、所蔵先省略。

- (9) 水沼淑子『近代日本の別荘建築―湘南大磯の邸園文化』、一〇四頁。
- (10) 『東京朝日新聞』明治三二年一〇月一五日、『読売新聞』明治三二年一〇月一四日。
- (11) 『報知新聞』明治三〇年五月一二日。
- (12) 佐々木雄一『陸奥宗光―「日本外交の祖」の生涯』(中央公論新社、二〇一八年)七二、二七七―二七八頁。当時、大隈は参議として明治政府で働き、陸奥は大蔵省に出仕していた。井上馨らが陸奥省を辞めたため大隈が管轄することになり、陸奥は大隈のもとで働くこととなったが、大隈のもとで働くことに不満を抱き、大隈への批判や攻撃的姿勢を強めていった。
- (13) 「家屋新設」明治三〇年三月二九日(「旧大磯町役場行政資料」)。
- (14) 真辺将之『大隈重信―民意と統治の相克』(中央公論新社、二〇一七)一四九頁。
- (15) 伊藤之雄『大隈重信―「巨人」が夢見たもの』上巻(中央公論新社、二〇一九年)三四九―三五七頁。
- (16) 『東京朝日新聞』明治三〇年四月二七日。
- (17) 『読売新聞』明治三〇年五月九日、『報知新聞』明治三〇年五月九日。
- (18) 『東京朝日新聞』明治三〇年六月一六日・一八日・二〇日・二二日、『読売新聞』明治三〇年六月一八日・二〇日・二二日・七月三日、『報知新聞』明治三〇年六月一六日・一九日・二二日・七月三日・八日。
- (19) 『読売新聞』明治三〇年八月一五日。
- (20) 『東京朝日新聞』明治三〇年八月一六日。
- (21) 『東京朝日新聞』明治三〇年八月一八日。
- (22) 『東京朝日新聞』明治三〇年九月三日。
- (23) 『読売新聞』明治三一年一月四日。
- (24) 『読売新聞』明治三一年一月五日。
- (25) 『東京朝日新聞』明治三一年九月二九日、『読売新聞』明治三一年九月二七日・二八日。
- (26) 『東京朝日新聞』明治三一年一〇月二日、『読売新聞』明治三一年一〇月二日。
- (27) 『東京朝日新聞』明治三三年二月六日。
- (28) 「建物遺産相続ニ付御届」明治三〇年一〇月(「旧大磯町役場行政資料」)。*傍線は筆者による。
- (29) 「土地建物売買届」明治三七年一二月二九日(「旧大磯町役場行政資料」)。
- (30) 「常宮周宮大磯滞在通知」明治三三年二月一日、早稲田大学図書館所蔵。
- (31) 前掲注(14)、一一二・一一三頁。
- (32) 『読売新聞』明治三一年六月一七日。この行啓は梅雨の時期による天候の不安定さにより見合わせとなった(『読売新聞』明治三一年六月二二日)。
- (33) 『東京朝日新聞』明治三三年二月一九日。
- (34) 『東京朝日新聞』明治三三年三月二八日。
- (35) 『読売新聞』明治三四年三月一五日。
- (36) (明治三四年)六月一五日付大隈重信宛岡崎邦輔書簡(「大隈重信関係文書」三、みずず書房、二〇〇六年、九二―九三頁)。
- (37) 『読売新聞』明治三二年一〇月一四日。

は、政党政治の樹立を目指し勢いをつけていた大隈にとって、政治の動向を確かめることのできる機会を得たといえる。

また、皇族の別荘利用は大隈の大磯別荘の地位を高めると同時に、大隈自身にとっても名誉なことであった。

別荘の売却については、早稲田邸の火災が大きな要因の一つと考えられる。本邸の火災は大隈の住処が失われたことを意味し、早稲田という場所への思い入れからも再建は必須案件であり、大磯別荘の売却は致し方ないことであった。売却前にはすでに利用頻度が落ちていたことも売却の決断につながったと考えられる。

大隈はわずか四年という短い期間の別荘所有であり、家族とのプライベート利用という機能から実態を明らかにする史料が非常に少ない。早稲田邸や国府津の別荘などの写真はあるものの、大磯に関してはほとんど残されていない。しかし、本稿ではわずかな史料を一つ一つ丁寧にみることで大磯での動向の一端を明らかにできた。

また、松隈内閣の倒閣後、新内閣の組織に関する協議が伊藤と大隈間で活発に行われた。その場所が大磯であり、それは伊藤の本邸があったことに加え、大隈がちょうどその時期に大磯別荘を購入した背景がある。政治家交流が、伊藤や山縣を中心としたものであったことは間違いないが、大隈の存在により、犬養毅や大石正巳など進歩党派、つまり、政党政治を主張する政治家が大磯に来るようになった。このことから大隈の大磯別荘は大磯に集う政治家の幅を広げ、より一層大磯の政治家交流を活性化させたという点で非常に意義深いことであった。

本稿では大磯の別荘地という歴史の一部を分析したに過ぎない。大隈の大磯別荘についても細かい人物同士のやり取りや、古河家に所有が移った後の状況を分析することができなかった。この点は今後の課題としたい。

注

- (1) 越沢明「湘南の旧別荘の保存問題―特に池田成彬と陸奥宗光邸について―」（『日本歴史』五一号、一九九〇年）。
- (2) 水沼淑子「大磯における初期別荘建築の様相について―旧大磯町行政資料による検討―」（『大磯町史研究』一五号、二〇〇八年）、「明治期家屋台帳による大磯の初期別荘建築の実態―近代大磯における別荘建築に関する研究―」（『日本建築学会計画系論文集』第八一巻七二〇号、二〇一六年）、『近代日本の別荘建築―湘南大磯の邸園文化』（創元社、二〇二四年）など。
- (3) 小山七海・荒井歩「神奈川大磯における別荘居住者間の関係性と別荘地の立地特性の変遷」（『東京農業大学農学集報』六五巻三号、二〇二〇年）。
- (4) 佐藤信『近代日本の統治と空間』（東京大学出版会、二〇二〇年）。
- (5) 奈良岡聰智「近代日本政治と「別荘」」（筒井清忠編『政治的リーダーと文化』（千倉書房、二〇一一年）、「政界の奥座敷」大磯の形成に関する一考察―山縣有朋、陸奥宗光、伊藤博文の別荘を中心として―」（京都大学法学会『法学論叢』一九四巻、三号、二〇二三年）など。
- (6) 池田さなえ「明治期日本における政治家ネットワーク形成―品川弥二郎・京都尊攘堂人脈の分析から」（国際日本文化研究センター『日本研究』六六巻、二〇二三年）。
- (7) 大日方純夫「大隈重信早稲田転居後の雉子橋邸―フランス公使館となった経緯の解明―」（『早稲田大学史紀要』五五巻、二〇二四年）。
- (8) 「御届」明治三〇五月三日（『旧大磯町役場行政資料』大磯町郷土資

史料によると売却の件を岡崎が市兵衛へ伝え、市兵衛はそれに承諾し、三万円で譲り受けることが決定したことが分かる。手続きのために派遣された昆田文次郎とは、弁護士で法律顧問として古河財閥に入り、鉅毒事件などの処理にあたった人物である。また、岡崎の陳書もあり、そこには大隈から相談を受けたお倉という人物への挨拶について、仲介を断る内容が書かれている。

このお倉という人物だが、横浜にあった料亭・富貴楼の経営者と考えられる。富貴楼は政財界の人物が交流の場として多く利用した料亭で、大磯にはその別館的な役割を持った群鶴楼が存在した。群鶴楼は陸奥の別荘の東隣にあった旅館で、大隈の大磯別荘とも近かった。大隈が群鶴楼に滞在した記録は現時点で確認できないが、明治二十二年一月一二日に富貴楼にて伊藤と密談を行っていることから⁽³⁷⁾、お倉との接触があった可能性は十分にある。

大磯別荘を市兵衛に売却した理由だが、大隈は松隈内閣の時に外相と兼務する形で農商務相を勤めており、前任の榎本に代わり足尾銅山鉅毒事件の処理にあたった。足尾銅山は市兵衛が興した古河財閥が経営する銅山だった。この事件で両者は関係を持つようになったと考えられる。そして、前章で述べた通り、隣接する陸奥の別荘が陸奥亮子へと相続され、その相続に市兵衛が関与していたことから市兵衛への売却を検討したのではないかと考えられる。また、陸奥の別荘が古河家の所有となる可能性を含んだ状態で、大隈の大磯別荘も購入すれば敷地が広がり、古河家としてもデメリットではなかったのだろう。

おわりに

本稿では、大隈の大磯別荘の利用実態について明らかにした。

大隈が大磯別荘を購入した頃、周辺は山縣や伊藤ら政治の中心人物が別荘あるいは本邸を構えており、大磯は政界人の交流場所として定着しつつあった。しかし、大隈にとっては政治上対立関係のあった人物らが周辺におり、特に東隣には政敵であった陸奥の別荘がすでにある状況だった。新聞記事から、陸奥も大隈が隣に住むことに対して決して前向きな考えをもっていないことが分かった。そのような場所を選んだ理由としては、西隣にあった鍋島家の別荘の存在が大きかったと考えられる。

大隈の別荘利用の実態を新聞記事から分析したところ、明治三〇年から三二年までの利用が活発で、売却前は利用頻度が下がっていた。避暑避寒のための利用で、年越しを大磯で過ごしていたことが明らかとなった。饗応好きで知られる大隈だが、大磯で実施した園遊会是一度のみで、ほとんどが早稲田邸での実施だった。また、療養に関しても基本的に官邸もしくは早稲田邸を利用しており、大磯別荘はあくまで家族や周辺の人物とゆくり過ごするための場所で、早稲田邸とのすみわけがあったと考えられる。

別荘所有時期の四年間において、大隈にとって大きな出来事といえるのが、松隈内閣倒閣後の政局にかかわる伊藤との会談と皇族の別荘利用であった。松隈内閣の倒閣は大隈が大磯別荘を購入して約半年後のことだったが、この時期に大磯に別荘を構えたことで、次期首相となる伊藤との会談が大磯で行われた。

大磯での政治家の交流は大きく分けて二つの時期に活発化し、一つは第一次山縣内閣組閣前後(明治二一〜二三年)で、もう一つが松隈内閣倒閣後であったと考えられる。後者の時期に、大隈が大磯別荘を購入したこと

御滞在被為遊候間、此段御承知迄ニ及御通牒候也、

明治三十三年二月一日

常宮 周宮 御養育主任伯爵佐々木高行
伯爵大隈重信殿

大隈にとって両内親王の滞在は光栄なことであり、迎え入れる前に畳の張替えなどを行っていたことが明らかとなっている⁽³¹⁾。両内親王が滞在所に大隈の大磯別荘を選んだ理由は判然としないが、明治三十一年六月二三日に皇太子（大正天皇）が早稲田邸を行啓することを伝えており⁽³²⁾、両内親王が大隈の大磯別荘滞在前に、皇族との何らかの接触があったことは明らかである。また、以前皇太子が滞在した鍋島邸が何らかの理由で使えなかった可能性も考えられるだろう。

また、両内親王は町の小学校の運動会を見学したり⁽³³⁾、卒業式に参列したりと⁽³⁴⁾、町の行事へ参加しており、大隈自身だけでなく町にとって大きな出来事であった。

三 大磯別荘の売却

すでに述べたように、大隈は明治三四年六月に古河市兵衛へ大磯別荘を売却した。売却理由の一つとして考えられるのが早稲田邸の火災である。同年三月一四日に早稲田邸の応接間のストーブから出火し半焼した⁽³⁵⁾。約百坪の邸宅と庭園の樹木が焼失するほどの大火事であった。大隈は庭園にいて来客のため邸内に入ろうとした時だったため即座に避難ができたようである。また、大隈が創設した東京専門学校の生徒らが駆け付け邸内の家具や調度品などを持ち出すも、所蔵品や書類類は全焼してしまった。住む場所を失った大隈は、一時的に市ヶ谷砂土原町にあった岩崎邸に滞在す

ることになった。

当時、大隈は所持していた株が下落し始め、早稲田邸の建築のために借りていたお金の年賦返済に困るほど資金繰りに悩まされており、この火災は大隈にとって大打撃だった。早稲田邸を再建するには大磯別荘を売却せざるを得なかったと考えられる。実際には、大磯別荘を売却しただけでは足りず、持ち株を売り、鍋島家や渋沢栄一からの援助を受けるなどして何とか再建ができた。

売却は古河家と関係のある岡崎邦輔を仲介して行われた。岡崎は自由党や立憲政友会などの政党に所属し、加藤高明内閣の農林大臣や貴族院議員などを歴任した政治家で、陸奥の配下として活躍した。陸奥とは従兄弟関係にあり、古河家とも縁があったため、大隈は岡崎に仲介を頼んだと考えられる。大磯別荘の売却に関して岡崎から大隈へ宛てた書簡が残されている。

【史料七】⁽³⁶⁾

謹啓 過日参堂之節御内意拝承候大磯御別荘之件、早速古河へ相伝へ其掛之もの等へ協議候処、何分外ならず閣下之御内意相背候も不本意に付、則御下命之如く現形之儘金参万円に御譲受申上候事に決定仕候間、左様思召被成下度候、就而は右受渡之手続相伺度、昆田文二（次）郎参上為致候間、可然御指図奉願候、其内拝芝万縷可申上候得とも、不取敢、右貴意如此御座候、頓首

（明治三十四）六月五日

邦輔

大隈伯爵閣下

二陳 お倉へ之挨拶云々御内意も候処、右は平に御免相蒙度、此之義は閣下より可然御取計被成下度候、右御断り旁申上置候、

(三)皇族の大磯滞在と大隈
二つ目の大きな出来事は皇族が大隈の大磯別荘を利用したことである。
明治三十一年九月二七日に皇太子（のちの大正天皇）が沼津から大磯に汽車
で訪れ、鍋島家の別荘に滞在した⁽²⁵⁾。当主の鍋島直大は元老院議員や宮
中顧問官等を歴任し、明治天皇や大正天皇からの信頼も厚かったことから
滞在場所に鍋島家の別荘を選んだものと考えられる。すでに述べたよう

【表】 松隈内閣倒閣後の大磯

年	日付	記事見出し・内容
明治30年 (1897)	12月26日	添田壽一が滄浪閣へ赴く * 添田は明治大正期の実業家
	12月27日・28日	井上馨が滄浪閣にて伊藤博文と会談し、 群鶴楼に宿泊する
	12月28日	黒田清隆が滄浪閣へ赴く
	12月30日	大隈重信が伊藤との会談のため自らの大 磯別荘へ赴く * すでに、犬養毅・伊東巳代治・大石正 巳・林有造・岩崎彌之助・大岡育造が大 磯に滞在
	12月31日	大磯にて伊藤・山縣有朋・芳川顕正らが 会談する
明治31年 (1898)	1月2日・4日	伊藤と大隈が滄浪閣にて会談する
	1月4日	伊藤が大磯滞在の山縣を訪問する
	1月5日	滄浪閣にて山縣・芳川・桂太郎らが会談 し、芳川・桂は群鶴楼に宿泊する
	1月6日	小湊庵にて山縣・芳川・桂が会談する

出典：『東京朝日新聞』、『読売新聞』、『報知新聞』

に、鍋島家と大隈の大磯別荘は隣接しており、大隈は、同年一〇月一日に
皇太子のご機嫌伺いのため鍋島家の別荘を訪問している⁽²⁶⁾。
明治三十三年二月五日に明治天皇の皇女である常宮昌子内親王と周宮房子
内親王が、避暑のため大隈の大磯別荘を訪れた。

【史料五】⁽²⁷⁾

●内親王大磯御成 常宮周宮内親王殿下ハ昨日午前九時廿分高輪御
殿御出門十時十分品川御発車、御教育主任佐々木伯夫妻并に御付婦人
数名を従へさせられ大磯に成られたり、大磯ハ大隈伯・古河市兵衛氏
別荘を御旅館と定めさせられ、多分来る三月頃迄御滞在相成る筈なり
「古河市兵衛氏別荘」とは、大隈の大磯別荘の東隣にあった陸奥の別荘
のことを指していると思われるが、土地台帳をみるとこの時点では、陸奥
の妻亮子が所有していることになっている⁽²⁸⁾。しかし、台帳には親戚と
して市兵衛の印鑑があり、陸奥の死後、土地と建物の相続において少なく
とも古河家の関与があったことは間違いないだろう。ちなみに、完全に古
河家の所有となるのは明治三十七年に、陸奥の長男廣吉から次男の古河潤吉
へと所有権が移った時である⁽²⁹⁾。大隈が市兵衛に売却した理由の一つに
はこのような背景があったことも考えられる。
また、史料五には同行者に佐々木伯夫妻と記されているが、これは佐々
木高行夫妻のことである。佐々木は明治二年から亡くなるまで枢密顧問
官として、常宮・周宮内親王の主任養育係を務めた。その佐々木から別荘
滞在について大隈へ通知が出されている。

【史料六】⁽³⁰⁾

常宮
周宮両殿下来ル五日午前十時十分新橋発汽車ニテ神奈川県下大磯へ被
為成、同所其御別邸ニ於テ

つたと考えられる。

利用記録の全体を分析すると、八月及び一二月に大磯別荘で過ごしていることが多く、確実に避暑避寒のためである。また、明治三三（一九〇

〇）年に入ると、大磯別荘の利用が減少する。同年二月から四月の間で皇族が大隈の大磯別荘を利用しており、個人での利用ができなくなっているが、前年や購入した年と比べると利用頻度が落ちていたことが分かる。

（二）松隈内閣倒閣後の大隈と大隈

ここでは、もう少し詳細に利用実態を明らかにする。大隈の大磯別荘所有時期において重要な出来事は大きく分けて二つある。一つは松隈内閣倒閣後の伊藤との会談である。

大隈が別荘を購入したのは、松隈内閣の外相兼農商務相を務めている時期で、松方率いる薩摩派との分裂が始まっていた。明治三〇年一月二十九日に松方が辞表を提出し松隈内閣は倒閣し、伊藤は自由党及び進歩党との提携を目論み大隈や板垣らと新内閣の組織について議論を重ねることになった。大隈は明治三十一年一月二日から四日にかけて伊藤と協議をした。

【史料三】（23）

電報

○伊藤侯大隈伯の会見（三日午後三時五十分） 大磯特派員発

伊藤侯ハ愈昨夜を以て、大隈伯の別業に人を派し親しく伯と面談せんことを申込たるも、大隈伯邸にハ当夜来客あり塾議中なりしを以て、侯との面談を謝絶し、本日午前九時伯より伊藤侯を滄浪閣に訪ひ午前十一時まで会見密談せり、

【史料四】（24）

◎伊藤大隈二老の会見

伊藤侯ハ強固なる新内閣を組織するにハ大隈伯と提携するに若くハなしとて、旧臘来頻りに伯の入閣を望み居るとなるが、去る二日大磯に於て二老会見の際も伊藤侯より大隈伯に向ひ、此国家内外多事の際強固なる内閣を組織して、少なくとも三・四年間継続せしめ以て、上御一人の叡慮を安んじ奉り、下万民の希望に適はしめざるべからず、就てハ是非共足下入閣を希望するとの主意を以て、百方泣き付きたるよしされど、大隈伯ハ聯立内閣の困難なるを説き伊藤侯の一手にて新内閣を組織せよと勧め、最後に余ハ閣外に在るも充分援助せんと述べたるに侯ハ其志辱けなしと雖も、閣内に有力者なさハ何より困難なりと再三再四入閣せんと哀請したりと云う、右にて多分大隈伯ハ入閣するにとなかるべしと信ずれども、伊藤侯ハ昨日午前大隈伯を訪問して一時三十分間程懇談する所あり、侯の辞して帰へらんとするや伯ハ玄関迄見送りたる際、侯ハ伯の手を把りて導きつゝ元氣能く別れたりと云へば、尚ほ其間に一種の事情継続せざるやと云ふものあり、暫らく一説として報ず、（大磯特派員報）

史料三と四で内容の食い違いが見られるが、滄浪閣及び大隈の大磯別荘で会談が行われたことは事実である。史料四によると、伊藤が大隈への入閣を懇願したものの、松隈内閣で経験した連立内閣の難しさから大隈が、拒否したことが分かる。

新聞記事のためどこまでが真偽か分からないが、少なくとも新しい内閣について伊藤と大隈間で議論が交わされ、それが大磯で行われたことは明らかである。実際、この時期に伊藤や山縣と会談を行うため、多くの政界人が大磯に來ていることが明らかとなっている（表）。また、当然ながら大隈の周辺の人物らも大磯に集っており、これまでの大磯の政治家交流には見られなかった人物が確認できる。

土地投機や鉄道建設事業、三菱からの支援（特に、改進黨・進歩党の活動）など様々であった⁽¹⁵⁾が、鍋島家からも援助を受けていたのである。

大隈にとって鍋島家は非常に重要な存在であり、その別荘が大磯に建てられたことは、大隈が隣に別荘を購入したことに起因するといえる。

大隈が大磯に別荘を購入した理由は、大隈が政治的交流の場として定着しつつあったことに加え、資金援助を受けていた鍋島家の別荘が存在したことが大きな要因と考えられる。また、購入した五月は松隈内閣に分裂の兆しが見え始めている時期で、自由にゆつくりとプライベートを過ごす場所を求めている可能性がある。

二 大磯別荘の利用実態

実際に、大隈は大磯別荘をどの程度、どのように利用していたのだろうか。本章では、主に新聞記事からその様子を見てみたい。なお、大磯別荘所有時期の大隈の動向については付表もあわせて参照されたい。

(一) 大磯別荘の利用記録

別荘の購入にあたって、前所有者の吉川泰次郎が結核を患っており、その療養のために過ごした別荘であったことから消毒を行った⁽¹⁶⁾のち、早速五月八日に大磯の別荘へ赴いている⁽¹⁷⁾。その後は、多忙による疲労からか体調を崩しており、早稲田の本邸（以下、早稲田邸とする）や官邸にて療養していた⁽¹⁸⁾。大隈は、第一伊藤内閣及び黒田内閣の外相として条約改正交渉にあたっていた際、外相官邸前で襲われ右脚を切断する大怪我を負った。以来足の痛みに襲われることがしばしばあり、政務が行えず療養を必要としていた。足の痛みに襲われた時は、大磯までの移動が困難の

ため、早稲田邸と官邸を利用することが多かった。また、病気になった際には大磯行きを延期していることがほとんどで、療養には主に早稲田邸を使っていたことが分かる。

大隈が大磯別荘に滞在中、複数の人間が大隈を訪問している。例えば、明治三〇年八月一四日には政治家・華族である安場保和が大磯の別荘を訪れ、台湾鉄道について大隈と協議している⁽¹⁹⁾。また、翌二五日には外務次官の小村寿太郎が大隈と何らかの打ち合わせを行うため、大磯別荘を訪問している⁽²⁰⁾。途中一六日には、有栖川宮が帰朝したため一度東京に帰り、再び大磯に戻る際、汽車内で韓国の政治家である朴泳孝と交流している⁽²¹⁾。

また、九月一日には、大磯別荘で初めて園遊会を開催している。

【史料二】⁽²²⁾

●大隈伯と大磯　大隈伯は一昨日、大磯の別荘に同地官民の重立ちたる人々を招待して園遊会を開き、道路を改良し清潔法の施行に一層の注意を加へ且つ旅客に便利を与へ以て其繁栄を増加することに就て懇篤なる注意的演説を為し、了りて松林の間に立食の饗応を為せり、史料によると大磯の官民の有力者を招き、大磯の発展のための演説をしたことが分かる。

大隈は饗応を良く行い外国人や政界人、実業家まで幅広い人物を招待して園遊会を行っていたが、大磯別荘の園遊会はいくまで大磯町への貢献から生まれたものだったと考えられる。しかし、現時点で確認できる大磯別荘での園遊会の記録はこの一回のみで、その間、早稲田邸では度々園遊会や観菊会が行われていることから、本邸の機能と別荘の機能を使い分けていた可能性が高い。本邸は病氣療養もしくは賓客をもてなす場所として利用し、大磯別荘は政務から少し離れて家族とゆっくり過ごすための場所だ

大隈が別荘を建てた東小磯の土地は海岸に面しており、大磯停車場からも比較的近く好立地であった。東隣には、陸奥の別荘があったが、大隈が別荘を購入した際、陸奥が抱いた感情について興味深い新聞記事がある。

●陸奥伯逃出さんとす
今回、大隈伯は大磯なる故吉川泰次郎氏の

あくまで新聞記事のためその真偽は分らないが、隣に大隈が別荘を構えることに對して好印象は持つていなかったことが分かる。事実、大隈と陸奥は対立關係にあり、明治六年以降にその關係が悪化し、陸奥が亡くなるまで続いた⁽¹²⁾。しかし、陸奥自身も完全に大隈を嫌つていたわけではなく、互いに評価をした上でライバル視していたと考えられる。新聞記事から完全な拒絶ではなく、少し皮肉が込められているようにみえる。しかし、決して喜ばしいことではなかったと考えられる。陸奥は大磯の別荘を自らの病氣療養のために建てており、プライベート利用を強く意識していた。その隣に政敵である大隈が来ることは、良い気分ではなかったのだらう。

陸奥の別荘がすぐ隣にあることは当然大隈も分かっていたはずである。では、なぜ大隈はその場所を選んだのだろうか。その理由として考えられ



国土地理院地図を元に作成。

明治二九年に、佐賀藩第十一代藩主の鍋島直大が西小磯の土地を購入した。購入した土地は大隈が後に別荘を購入する場所のすぐ東隣で、西隣には伊藤の滄浪閣があった(図)。鍋島家は翌年の三月二九日付で、大磯町に家屋新築届を提出している⁽¹³⁾。大隈は佐賀藩出身であり、鍋島家から資金援助を受けるなど深いつながりを持っていた⁽¹⁴⁾。大隈の資金源は、

大隈重信の大磯別荘に関する一考察

長谷川 明香（当館学芸員）

はじめに

相模湾沿いに面する大磯町は、年間を通して温暖な気候から明治時代以降、別荘地として発展し、なかでも、八人の内閣総理大臣が邸宅を構え、「政界の奥座敷」と呼ばれている。

これまで、別荘に関する研究は、建築学の視点から別荘建築の様相や立地及び景観などの分析がなされている。とりわけ、湘南地域の別荘に関する研究は、越沢明氏⁽¹⁾や水沼淑子氏⁽²⁾、小山七海氏、荒井歩氏⁽³⁾などの研究成果があげられる。一方、近年歴史学においても注目され始めており、佐藤信氏⁽⁴⁾や奈良岡聡智氏⁽⁵⁾、池田さなえ氏⁽⁶⁾などの成果があげられている。

本稿で取り上げる大隈重信の大磯別荘は、山縣有朋や伊藤博文、陸奥宗光らの別荘と近接した場所であり、その一部は現在、明治記念大磯邸園として整備が進められている（令和六年一月二三日をもって東地区の旧大隈重信別邸・旧古河別邸と陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸が一般公開）。

大隈は明治三〇（一八九七）年に、日本郵船二代目社長を務めた吉川泰次郎の長男吉川慎一郎から東小磯の土地と建物を購入し、その後増改築を施しながら、明治三四年に実業家の古河市兵衛に売却するまでの四年間、大磯別荘を利用した。大隈の大磯別荘に関する研究はほとんどなく、それ以外の大隈が所有した邸宅の研究も少ない⁽⁷⁾。大磯の別荘の分析をしている佐藤氏や奈良岡氏も、伊藤や山縣の別荘が中心となっている。現状、大隈の大磯別荘については、水沼氏の建築史における研究成果のみといっ

ても過言ではない。

以上の課題から本稿では、大隈の大磯別荘の利用実態などを明らかにし、大隈が大磯に別荘を構えた意義を考えたい。なお、建物の概要や特徴などは、水沼氏が詳細な分析を行っているため、本稿では触れない。

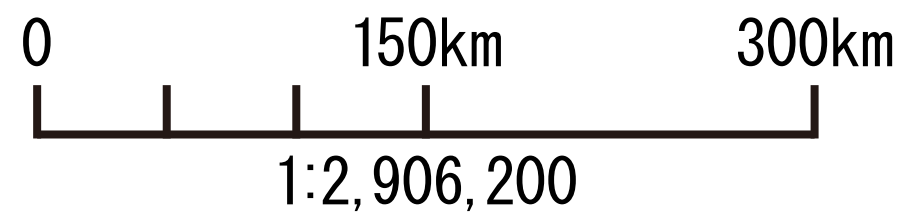
一 大磯別荘購入の理由

大隈の大磯別荘は山縣や伊藤、陸奥らの別荘と近接していた。大隈は彼らと政治的信条の違いから対立することが度々あったなかで、なぜ彼らと非常に近い距離に別荘を構えたのだろうか。本章では、大隈が大磯別荘を購入した経緯とその政治的背景について取り上げ、その理由を探る。

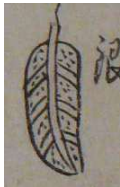
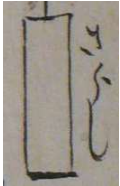
大隈は明治三〇年五月に、吉川慎一郎から土地と建物を購入しており、五月三日付で土地と建物の売買届が町に出されている⁽⁸⁾。慎一郎は、日本郵船の二代目社長を務めた吉川泰次郎の長男である。売買届には後見人の名前が記載されていることから、大隈が購入した際、慎一郎は幼かったとみられる。ちなみに、大隈と泰次郎・慎一郎親子の関係については不明である。

大隈が大磯に別荘を構えた頃には、すでに山縣や伊藤らが邸宅を構えており、政界人の別荘地として大磯は認知されていた。水沼氏は、大磯に別荘を持つことが政治家のバロメーターの役割を果たしているという世評から、大隈が大磯に別荘を構えたと述べている⁽⁹⁾。確かに、大磯に別荘を持つことがいわばステータスのような観念があった可能性はある。大隈は、明治二年一〇月に、山縣を訪ね大磯に来ており⁽¹⁰⁾、政治家の交流場所としての大磯を認識したと考えられる。しかし、大隈が大磯を選んだ理由を示す直接的な史料はなく、これはあくまで推測にすぎない。そこで

〈参考〉藩位置図



【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	高木主水正	1万	河内	丹南/タンナン	フ 御定府	虎ノ御門内	-	あさふかうか いはし〔麻布 筭橋〕	銀 	-	正剛/まさかた
ヲ	森川兵部少輔	1万	下総	生實／ 〔虫 損・潰 れ〕イ ミ	フ	麻布日ヶ窪	あさふ〔麻 布〕廣尾	四谷塩まち 〔町〕	さらし 	-	俊知/としとも
イ	建部内匠頭	1万	播州	林田	ト	神田明神下	-	染井 まわり黒、紋 金 	こん〔紺〕地二白ク 	政賢/まさかた	

【参考文献】

木村礎・藤野保・村上直編『藩史大事典』雄山閣/竹内理三編『角川日本地名大辞典』13東京都、角川書店/藩主人名事典編纂委員会編『三百藩藩主人名事典』新人物往来社

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	大田原飛驒守	1万1400余	下野	大田原	ト	麻布長坂	-	芝二本松〔榎〕	赤 	-	庸清/つねきよ
ヲ	片桐主膳正	1万1100余	和州	小泉	ト	あたこ〔愛宕〕 下	本所しゆ木は し〔橋〕	あさふ〔麻 布〕とりい坂	金なめしか わ、きりぬき 	白もん〔紋〕 	貞彰/さだあき
イ	米津播磨守	1万1千	武州	久喜	フ	あたこ〔愛宕〕 下	あさふりうと 〔麻布龍土〕	ふか〔深〕 川・よ、 〔代々〕木	金紙 	あさきじ〔浅黄地〕 ニ 	通政/みちまさ
●	遠山左吉	1万	美濃	苗木	ト ■	芝新堀端・西應 寺通	-	あさふ〔麻 生〕三軒屋	もめん〔木 綿〕三筋赤 	-	友寿/ともひさ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	五嶋近江守	1万2600	肥前	五嶋	ト	麻布六〔本〕木	-	白銀〔金〕臺	せうせうひ 〔猩々緋〕と 黒、上少し茶 色 	こん〔紺〕地ニ白ク 大 	盛運/もりゆき
●	土方大和守	1万千余	勢州	薦野/こ もの	ト	芝・愛宕下	-	あさふ〔麻 布〕一本松	金紙中少し黒 	こんじ〔紺地〕ニ白 巴 	義苗/よしたね
●	三宅備前守	1万2千余	参州	田原	フ ■	半蔵御門外	てつほうず 〔鉄砲洲〕	大つか 〔塚〕・小石 川	もめん〔木 綿〕 	同 	康友/やすとも
イ	米倉長門守	1万2千	武州	金沢	フ	牛込御門内	かるこ〔軽 子〕坂	市谷谷丁	もへきらしや 〔萌黄羅 紗〕、すじ 〔筋〕金 	-	昌賢/まさかた

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	加納遠江守	1万3千	勢州	八田	フ	西御丸下	-	本所梅堀・し ふや〔渋谷〕	金赤 	-	久周/ひさのり
●	田沼左衛門佐	1万	奥州	下村	フ	こひき〔木挽〕 丁原	-	青山五十人 丁・こま 〔駒〕込苗木 なハて〔縄 手〕	白木綿足袋ひ も〔紐〕紋筋 	あさぎ〔浅黄〕地ニ 	意壺/おきかず
●	松前若狭守	無高	蝦夷	松前一 圓 先祖 代々領 之	ト ■	市谷新寺丁	-	-	たんさく〔短 冊〕金 	-	章広/あきひろ
ヲ	久留嶋出雲守	1万2500	豊後	森	ト	芝元札ノ辻	-	白銀〔金〕さ る〔猿〕丁	金紙きりヌキ 	こんじ〔紺地〕ニ白 キ 	通同/みちとも

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	一柳土佐守	1万	播州	小野	ト	あたこ〔愛宕〕 下・佐久間小路	-	白かね〔金〕	金 	-	末英/すえふさ
●	一柳兵庫	1万	伊豫	小松	ト	佐久間小路	三田寺丁	九品佛	金紙 	-	頼親/よりちか
ヲ	柳生但馬守	1万	和州	柳生	フ 御定府	木挽丁五丁目	-	芝新堀端・大 さき〔崎〕	ニツ引黒 	-	俊則/としのり
イ	遠藤備前守	1万	江州	三上	フ 御定府	神田橋外	-	-	せうせうひ 〔猩々緋〕、 上少し茶、丸 金 	こん〔紺〕地ニ白ク 	胤富/たねとみ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	北條相模守	1万	河内	狭山	ト	外さくら〔桜〕 田	-	あさぶ〔麻 布〕三軒屋	金かわ 	-	氏昉/うじあきら
ヲ	青木甲斐守	1万余	摂津	麻田	ト	土器町	-	-	丸、金、文字 黒 	こん〔紺〕地ニ白ク 	一貞/かずさだ
●	谷播磨守	1万0082余	丹波	山家	ト	麻布龍土	赤坂今井	ほんてん〔本 田〕屋敷	赤らしや〔羅 紗〕一枚 	木綿、赤し〔地〕、 中丸白 	衛量/もりかず
イ	新庄駿河守	1万	常州	麻生	ト	濱丁	-	深川・小名木 川	青キらしや 〔羅紗〕、ふ ち茶 	白もめん〔木綿〕、 紋黒 	直規/なおのり

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	六郷伊賀守	2万0021余	羽州	本庄	■	浅草くわん 〔観〕音後	-	浅草田中	黒赤 	-	政速/まさちか
ヲ	森右兵衛佐	2万	播州	赤穂/あ かう	ト ■	芝神明海手	あさぶひろを 〔麻布広尾〕	中麻布広尾	金紙キリスキ 	こん〔紺〕地、白十 	忠賛/ただすけ
ヲ	森下野守	1万	播州	三日月	ト	目黒行人坂上	同断〔麻布広 尾〕	-	白くろまさり 〔黒混ざり〕 毛 		快温/はやあつ
イ	山口仲之進	1万	常州	牛久	フ	赤坂溜池之端	-	かうかいばし 〔筭橋〕	赤黒 	-	弘致/ひろむね

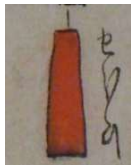
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	木下主計頭	2万5千	豊後	日出/ひじ	ト ■	あたこ〔愛宕〕 下藪小路	あさふ〔麻布〕一本松	芝・白銀台丁	白キ毛中 	こん〔紺〕地ニ白キ 	俊懋/としまさ
イ	三浦志摩守	2万3千	美作	勝山	フ	虎御門内	本所小梅村	谷中三崎	金かわ 	こん〔紺〕地ニ白ク 	前次/ちかつぐ
●	増山河内守	2万3千	勢州	長嶋	フ ■	外さくら〔桜〕 田	-	亀戸千間川通	金紙、山黒 	こん〔紺〕地ニ下江 自分紋 	正賢/まさかた
●	相良彦岐守	2万2100	肥後	人吉/ヨシ	ト ■	愛宕下藪小路	-	赤坂田丁西角	銀紙中、極銀 紙遣しむ 	白もめん〔木綿〕、 下ニツ引黒 	長寛/ながひろ

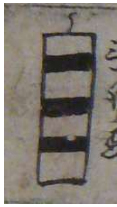
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	小出信濃守	2万6711余	丹波	園部/ソノベ	ト	きじはし〔雉子橋〕外	-	-	白キ毛少シ 	白もめん〔木綿〕 	英筠/ふさたけ
●	大村信濃守	2万7970余	肥前	大村	ト ■	永田丁	-	芝・白金・一〔市〕谷薬王寺前	白あさ〔麻〕 	-	純鎮/すみやす
●	植村駿河守	2万5千	和州	高取	フ ■	あたご〔愛宕〕下	-	三田古川丁	金一枚赤らしや〔羅紗〕一枚 	こん〔紺〕地ニ白キ大 	家長/いえなが
●	木下定太郎	2万5千	備中	足守/アシモリ	ト	上麻布市兵衛町之処寛政十一年取上ケニ相成御下屋敷上屋敷ニ成候	-	麻布廣尾	上あい下白 	こん〔紺〕地ニ白キ 	利徹/としよし

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	市橋下総守	1万8千	江州	仁正寺	ト	元誓願寺前	-	本所五ツメ 〔目〕	せふせふひ 〔狸々緋〕 	-	長昭/ながあき
●	内田伊勢守	1万	下総	小見川/ ヲミカ ワ	フ	麻布日ヶ窪	-	青山	金かわ 	-	正純/まさずみ
ヲ	渡辺大学頭	1万3520余	勢 〔泉〕 州	伯太/ハ カタ	フ	永田丁	-	しぶや〔渋谷〕	金 	-	春綱/はるつな
●	秋月山城守	2万7千	日向	高鍋	ト ■	麻布百姓丁	-	長者ヶ丸	青毛 	紺〔こん〕地ニ白ク 	種徳/たねのり

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	分部左京亮	2万余	江州	大溝/ヲ ウミン	ト	愛宕下二葉町	-	芝白金	三ツ引黒 	こん〔紺〕地ニ白 	光實/みつざね
-	大岡千太郎	1万	三州	西大平	ト 御定府	外さくら〔桜〕 田	-	西のくほ〔西 久保〕・吹上	金かわ 	-	忠移/ただより
-	大岡主膳正	2万	武州	岩槻/イ ハツキ	ト	ときわはし〔常 盤橋〕の内	-	はま〔浜〕丁	せうせうひ 〔猩々緋〕 	-	忠正/ただまさ
イ	大関伊豫守	1万8千	下野	黒羽/ク ロハね	ト	ゆしま〔湯島〕 天神下	-	みのわ〔三ノ 輪〕	猩々ひ〔緋〕 	こん〔紺〕地ニ或ハ 下ニ、手前紋ニ付左 にも有 	増輔/ますすけ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	織田左近将監	2万	羽州	高畠/タカハタ	ト	八代洲海岸	-	ためいけ〔溜池〕	白毛熊 	-	信浮/のぶちか
ヲ	織田出雲守	2万	丹波	柏原/カシハハラ	ト	浅草寺町	-	浅草砂利場	白毛中くらひ 	こん〔紺〕地ニ白ク 	信憑/のぶより
●	織田左衛門佐	1万	和州	芝/シハ村	ト	當時居屋敷麻布白金臺	-	-	白毛少々 	こん〔紺〕地ニキ京〔桔梗〕 	長宇/ながのき
ヲ	織田筑前守	1万	和州	柳本	ト	芝新堀端	-	渋谷・はね〔羽〕沢	金紙 	こん〔紺〕地白キ 	秀綿/ひでつら

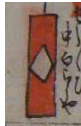
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	永井友吉	3万2千	美濃	加納	フ ■	〔虫損〕	はま〔浜〕丁	本所さるへ 〔猿江〕	白毛 	-	尚佐/なおすけ
ヲ	永井傳八郎	1万	和州	新庄	フ	かうし〔麴〕丁 壱丁目	-	こんた〔権 田〕原	白毛、少シ古 シ 	-	直方/なおかた
●	九鬼長門守	3万6千	摂州	三田	ト	霞ヶ關	-	式本松	猩々緋長、マ ハリト黒 	こん〔紺〕地ニ白キ 	隆国/たかくに
ヲ	関備前守	1万8千	備中	新見/ニ イミ	ト	増上寺前海手	-	三田・きよら ん〔魚籃〕	金 	白もめん〔木綿〕 	長輝/ながてる

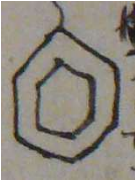
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	太田備中守	5万37余	遠州	掛川	フ ■	西ノ御丸下	木挽丁	駒込千駄木	白毛 	もめん〔木綿〕 白 	資愛/すけよし
● 少ヲ 有	津軽越中守	4万6千	奥州	弘前	ト ■	本所二ツ目	向柳わら 〔原〕	亀戸柳島・本 所大川はた 〔端〕	せふせふひ 〔猩々緋〕、 たんさく〔短 冊〕 	-	信寧/のぶやす
●	亀井能登守	4万3千	〔石 見〕	〔 津和 野〕	ト ■	外さくら〔桜〕 田	-	あさふ〔麻 布〕なんふ 〔南部〕坂	四ツ目金 	こん〔紺〕地ニ白ク 	矩貞/のりさだ
イ	永井日向守	3万6千	摂州	高槻/タ カツキ	フ ■	すきやはし〔数 寄屋橋〕内	かすみか〔霞 が〕関	こんたはら 〔権太原〕・ よ、〔代々〕 木	白毛 	-	直進/なおのぶ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	青山下野守	5万	丹波	笹山 〔篠山〕	フ ■	西御丸下	青山宿	本所・目白たい〔台〕		こん〔紺〕地ニ白キ山 	忠裕/ただやす
●	青山大膳亮	4万8千	濃州	八幡	フ ■	木挽丁つきぢ 〔築地〕	本所高はし 〔橋〕	青山宿	やり〔槍〕印 ニツどくろ手	-	幸完/よしさだ
●	秋田山城守	5万	奥州	三春	フ ■	あたこ〔愛宕〕 下	飯くら〔倉〕	よ、〔代々〕 木	金 	-	千季/ゆきすえ
イ	溝口出雲守	5万	越後	新發田	ト ■	大名小路	-	本所三ツ目、 外ニ壱ヶ所	せふせふひ 〔猩々緋〕、 中白らしや 〔羅紗〕 	-	直候/なおよし

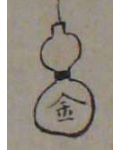
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	堀近江守	1万	越後	椎谷	ト 御定府	浅草すは〔諏訪〕丁	-	目くろ〔黒〕・本所中ノ口	金紙、切スキ 	こん〔紺〕地ニ白ク 	直起/なおのり
●	堀内蔵頭	1万53余	信州	須坂	ト	はま〔浜〕丁	-	本所・さるへ〔猿江〕・亀戸・川はた〔端〕	金、切アキ 	こん〔紺〕地ニ白ク 	直皓/なおてる
ヲ	堀又七郎	2万	信州	飯田	ト	ごふくはし〔呉服橋〕内	-	芝新堀はた〔端〕	赤 	-	親審/ちかしげ
ヲ	板倉内膳正	3万	奥州	福島	フ	浅草寺丁	-	本所・さるへ〔猿江〕	金かわ 	-	勝長/かつなが

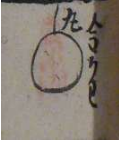
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	鳥居丹波守	3万	下野	壬生/みぶ	フ △ ■	三番丁角	永田丁	本所四ツメ〔目〕	せふせふひ〔猩々緋〕二枚、上少シ黒 	こん〔紺〕地ニ白ク 	忠熹/ただてる
●	稲垣信濃守	3万	志摩	鳥羽	フ ■	かうし〔麴〕丁八丁目	-	せきくち〔関口〕・小石川白山	せふせふひ〔猩々緋〕、長 	半分白、半分こん〔紺〕 	長続/ながつぐ
イ	稲垣若狭守	1万3043余	近江	山上	フ 御定府	麻布市兵衛丁	-	白かね〔金〕	さらし〔晒〕赤、下三ツ引 	禾、こん〔紺〕、あさぎ〔浅黄〕 	定敦/さだあつ
ヲ	堀左京亮	3万	越後	村松	ト	下谷廣小路	-	本所柳嶋		-	直方/なおかた

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	土岐山城守	3万5千	上州	沼田	フ ■	江戸見坂	-	ひちり〔聖〕 坂・赤坂今井	金紙内黒、少 まはり、きら す 	-	頼布/よりのぶ
ヲ	西尾隠岐守	3万5千	遠州	横須賀	フ ■	かじばし〔鍛冶 橋〕内	てつほうす 〔鉄砲洲〕	せんたか〔千 駄ヶ〕谷、元 午のくら	白毛 	-	忠移/ただゆき
イ	諏訪若狭〔因 幡〕守	3万50	信州	高島	フ ■	芝将監殿ばし 〔橋〕	-	しぶや〔渋 谷〕		-	忠肅/ただかた
イ	朽木近江守	3万2千	丹波	福知山	フ ■	外さくら〔桜〕 田	れいかん嶋 〔霊岸島〕	大久保	せふせふひ 〔猩々緋〕 	こんじ〔紺地〕と白 ク 	昌綱/まさつな

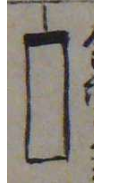
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	井上河内守	6万	遠州	濱松	フ ■	虎御門之内	六間ほり 〔堀〕	青山・ほんで ん〔本田〕	銀紙少やり 〔槍〕にまく 	白もめん〔木綿〕 	正甫/まさもと
ヲ	井上遠江守	1万	常州	下妻	フ	あたこ〔愛宕〕 の下	-	大久保四丁目	同〔銀〕三寸 三分銅かね 	-	正広/まさひろ
ヲ	井上壱岐守	1万	下総	高岡/タ カオカ	フ	下谷廣小路	-	かめいと〔亀 戸〕	金、黒らしゃ 〔羅紗〕、せ ふせふひ 〔猩々緋〕 	-	正紀/まさのり
イ	九鬼式部少輔	2万	丹波	綾部/ア ヤヘ	ト	北八丁堀	-	本所・さるへ 〔猿江〕	金色丸 	こん〔紺〕地二白キ 	隆郷/たかさと

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	京極吉岐守	1万	讃州	〔多〕 度津/ト ツ	ト	麻布六本木	-	白金新〔ほ り〕堀	白毛中 	こんし〔紺地〕白キ 	高賢/たかかた
ヲ	京極加賀守	1万5千	但州	豊岡	ト	かうし〔麴〕町 天神前	-	深川海辺新田	赤らしや〔羅 紗〕上□黒 	こん〔紺〕地ニ白キ 	高有/たかあり
●	京極備前守	1万1114余	丹後	峯山	ト	西御丸下	-	あさふ〔麻 布〕・二本榎	金 	白もめん〔木綿〕 	高久/たかひさ
●	仙谷越前守	5万8千余	但馬	出石	ト ■	にしのくほ〔西 久保〕	飯くら〔倉〕 二丁目	しふや〔渋谷〕	赤らしや〔羅 紗〕、上少 黒、中切レ 	白地、黒すじ〔筋〕 永、又こん〔紺〕地 も有 	久道/ひさみち

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	相馬因幡守	6万	奥州	中村	フ ■	外櫻田	あさふ〔麻布〕谷丁	角筥	白毛 	-	祥胤/よしたね
●	石川主殿守 〔頭〕	6万	勢州	亀山	フ ■	下谷大名小路	みのわ〔三ノ輪〕うら通	金杉二丁目	 白もめん〔木綿〕・ 紋くろ〔黒〕 	総師/ふさのり	
●	石川中務少輔	2万	常州	下館/シモタテ	フ ■	れいなん〔靈南〕坂	あさふ〔麻布〕市兵衛丁	三田新ほり〔堀〕	金 	-	総般/ふさつら
●	京極能登守	5万1512石余	讃州	丸亀	ト ■	新シ橋外	芝新ほり〔堀〕	-	金紙上少黒 	-	高中/たかなか

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	板倉周防守	5万	備中	松山	フ ■	外さくら田	木挽丁	市谷	白毛少シ、少シ古ク 	-	勝政/かつまさ
ヲ	板倉伊豫守	3万	上州	安中	フ	一ツ橋之外	神田佐久間丁	元鳥こへ〔越〕	こん〔紺〕、麻なわ〔縄〕、白毛、ゆい 	-	勝意/かつおき
イ	板倉主水佑	2万	備中	庭瀬	フ	下谷池のはた〔之端〕	-	千駄木	白毛 	こん〔紺〕地ニ白キ 	勝喜/かつよし
●	松浦豊後守	1万	肥前	平戸新田	ト	本所石原・椎木	-	亀戸	せうせうひ〔猩々緋〕 	-	矩/ただし

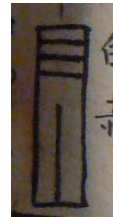
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	加藤遠江守	6万	伊豫	大洲/ ヲ、す	ト ■	下谷御徒士町	下谷竹門	浅草すハ〔諏訪〕丁	白毛 	こん〔紺〕地ニ白キ 	泰済/やすずみ
ヲ	加藤出雲守	1万	豫州	新谷、 大洲内 分	ト	浅草新堀末	-	みのわ	金、白毛 	白もめん〔木綿〕 	泰賢/やすまさ
●	加藤佐渡守	2万5千	江州	水口	フ ■	やぶかうし〔藪小路〕	あたこ〔愛宕〕の下・麻布ひろを〔広尾〕	南本所・高なわ〔輪〕	赤らしや、○ ぎりぬぎ、七 ツぎりぬぎ 	こん〔紺〕地ニ白キ 十 	明陳/あきのぶ
ヲ	間部若狭守	5万	越前	西鯖江/ サバエ	フ ■	三田小山	本芝一丁目	四ツ谷角は す・品川大井	金紙 	こん〔紺〕地ニ白三 ツ引さしつへ 	詮熙/あきひろ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	脇坂淡路守	5万1089	播州	龍野	△ フ ■	芝口壺丁目治手	つきじ〔築地〕	青山宿	白二赤一 	-	安董/やすただ
●	岡部美濃守	5万3千	浪州	岸和田	フ ■	山王右隣	今井谷	しふや〔渋谷〕	せふせふひ 〔猩々緋〕 	白もめん〔木綿〕 	長備/ながとも
ヲ	伊東左京亮	5万1080余	日向	飫肥/ヲ キ 〔ビ〕	ト ■	外さくら〔桜〕 田	-	千駄や〔千駄ヶ谷〕	赤らしや〔羅紗〕 	白もめん〔木綿〕、 ほし〔星〕黒 	祐鐘/すけあつ
●	伊東播摩〔磨〕守	1万300余	備中	岡田	ト	さるか〔猿楽〕丁	-	千駄木・うら さるか〔裏猿楽〕丁	せふせふひ 〔猩々緋〕、 上少々黒、ふ ち少々い、茶 ヲまく 	こん〔紺〕地二白キ 	長寛/ながとも

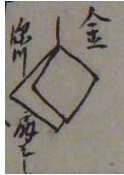
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	水野日向守	1万8千	下総	結城/ユウキ	フ ■	赤坂南部坂	-	本所四ツメ〔目〕		-	勝剛/かつかた
ヲ	水野出羽守	3万	駿州	沼津	フ ■	辰之口北角	-	はま〔浜〕 丁・山丈 〔伏〕井戸	金かみ〔紙〕 	あさき〔浅黄〕地ニ 白キ 	忠友/ただとも
ヲ	水野春岐守	1万5千	房州	北條	フ 御定府	かしはし〔鍛冶橋〕内	かきから〔蛎殻〕丁	すがも〔巢鴨〕	白・赤 	-	忠昭/ただてる
●	久世大和守	5万8千	総州	関宿	フ ■	ときわはし〔常盤橋〕内	-	北新ほり〔堀〕・小日向・深川		-	広嘗/ひろやす

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	松平周防守	6万400余	石州	濱田	フ ■	大名小路	木挽丁五丁め 〔目〕	濱丁	白毛、からの から 	こんし〔紺地〕に白 本蒿下一白 	康定/やすさだ
イ	松平遠江守	4万	摂津	尼崎	フ ■	てつほうす〔鉄 砲洲〕	-	深川元番所	白毛 	白もめん〔木綿〕 	忠告/ただつぐ
●	松平駿河守	3万2千	豊後	杵築	フ ■	外さくら〔桜〕 田	浅草寺丁	同所〔浅草〕 鳥こへ〔越〕	ふんとん黒、 赤らしや〔羅 紗〕 	-	親賢/ちかかた
ヲ	水野左近将監	6万	肥前	唐/から 津	フ ■	増上寺切通	-	深川・東坂・ やけん〔薬 研〕坂	白 	こん〔紺〕地二白永 	忠鼎/ただかね

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	松平伊賀守	5万3千	信州	上田	フ ■	昌平橋之内	深川扇はし 〔橋〕・青山 百人丁	小石川大塚	金 	-	忠済/ただまさ
ヲ	松平山城守	3万石	羽州	上ノ山	フ ■	三田新堀端	-	品川御殿山	白毛 	-	信愛/のぶざね
ヲ	松平紀伊守	5万石	丹波	亀山	フ ■	一ツはし〔一 橋〕外	-	きしはし〔雉 子橋〕外・三 田たい〔台〕	らしや〔羅 紗〕 	-	信彰/のぶかた
ヲ	松平丹後守	1万石	駿州	小島	フ	小石川富坂	-	本所一ツ目	あからしや 〔赤羅紗〕 	-	信義/のぶのり

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	戸沢富壽	6万8200	出羽	新庄	フ ■	芝飯倉森元丁	白金	しふや〔渋谷〕	白毛 	-	正胤/まさつぐ
●	安藤對馬守	5万	奥州	岩城平/ イワキ タイラ	フ ■	大名小路	かきから〔蛎 殻〕丁	大つか〔塚〕	せふせふひ 〔猩々緋〕、 中銀 	-	信成/のぶなり
●	松浦壹岐守	6万1700	肥前	平戸	ト ■	浅草鳥越	-	本所牛嶋	せふせふひ 〔猩々緋〕 	-	清/きよし
イ	松平能登守	3万	濃州	岩村	フ ■	かはしの内	-	はま〔浜〕丁	さらし〔晒〕 	-	乗保/のりやす

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	内藤豊前守	5万9000余	越後	村上	フ ■	永田馬場南行當	永田町	深川	赤 	-	信敦/のぶあつ
●	内藤山城守	2万	参州	拳母/コロモ	フ ■	半蔵御門之外	本所竹くら〔蔵〕うしろ	本所石原・本所本むら	せふせふひ〔猩々緋〕、紋金 	こん〔紺〕地白 	政峻/まさみち
イ	内藤大和守	3万3千	信州	高遠	フ ■	小川町	四谷内藤宿	しふや〔渋谷〕	白毛 	-	頼以/よりもち
●	内藤美濃守	1万5千	信州	岩村田	フ	神田神明下	するが〔駿河〕臺	本所石はら〔原〕	せふせふひ〔猩々緋〕 	-	正国/まさくに

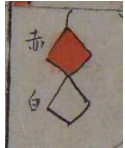
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	土井三郎	2万3000	参州	荻屋/カリヤ	フ ■	赤坂御門内	内藤新宿	すかも〔巢鴨〕御駕丁	せふせふひ 〔猩々緋〕 		利謙/としかた
ヲ	土井能登守	4万	越前	大野	フ ■	筋違橋之内	かきから〔蛎殻〕丁	大つか〔塚〕	せふせふひ 〔猩々緋〕 	こん〔紺〕地ニ白キ 水車 	利貞/としさだ
●	内藤能登守	7万	日向	延岡	フ ■	虎之御門内	-	麻布六本木・しふや〔渋谷〕	白さらし 〔晒〕 	もめん〔木綿〕白、 紋くろ〔黒〕 	政韶/まさつぐ
●	内藤主殿頭	1万5000	奥州	湯長谷	フ	麻布百姓町	-	麻布古川丁	白毛 	-	政偏/まさゆき

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	牧野備前守	7万4000余	越後	長岡	フ ■	西之窪	あたこ〔愛宕〕の下	はま〔浜〕 丁・西のくぼ 〔窪〕・しふ や〔渋谷〕	白毛 	白もめん〔木綿〕 	忠精/ただきよ
●	牧野内膳正	1万5000	信州	小諸	フ ■	水道橋外	-	本所	せふせふひ 〔猩々緋〕 	地花いろもん〔紋〕 白、足軽、中間同 	康儒/やすとも
●	牧野日向守 〔越中守〕	8万	常州	笠間	フ ■	日比谷御門之内	はま〔浜〕丁	小なき沢・深 川大和丁	上白、下紅 	花いろ、足軽、中間 同、家中〔虫損〕 	貞喜/さだはる
●	土井大炊頭	7万	下総	古河/コ ガ	フ ■	大名小路	かきから〔蛎 殻〕丁	いいせいかく ぼ	白らしや〔羅 紗〕ニせふせ ふひ〔猩々 緋〕 	-	利厚/としあつ

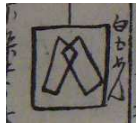
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	宗對馬守	10万石以上 之格	對州	府中	△ ■	向柳原	浅草黒松丁	みかわ〔三 河〕	せふせふひ 〔猩々緋〕、 白毛 	花いろ紋白、足輕中 間同 	義功/よしかつ
-	喜連川左兵衛 督	無高	下野	喜連川	ト 此夫り二 番	下谷池之端	-	-	白らしや〔羅 紗〕 	花いろきゑ紋白、足 輕中間同 	彭氏/ちかうじ
●	土屋但馬守	9万5000	常州	土浦	フ ■	小川町	-	深川高橋・芝 白銀〔金〕	赤、白 	-	英直/ひでなお
ヲ	松平右近将監	6万1000	上州	館林	フ ■	外さくら〔桜〕 田	関口目白臺	南八丁ほり 〔堀〕	せふせふひ 〔猩々緋〕ト 白 	-	武厚/たけあつ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	南部左衛門尉	2万	奥州	八戸/ハチヘ	ト	麻布市兵衛町	-	あさぶ〔麻布〕新丁・同所	せうせうひ〔猩々緋〕、金 	-	信真/のぶまさ
ヲ	堀田大蔵大輔〔相模守〕	11万	下総	佐倉	フ ■	すきやはし〔数寄屋橋〕の内	築地	すかも〔巢鴨〕・はま〔浜〕丁・渋谷	黄八丈、くろ〔黒〕 	足軽、花いろニもん〔紋〕白、中間地こん〔紺〕 	正順/まさなり
-	堀田摂津守	1万	江州	堅田	フ 御定府	大下馬後	-	麻布廣尾	花いろらしや〔色羅紗〕、せふせふひ〔猩々緋〕 	-	正敦/まさあつ
-	堀田豊前守	1万3000	江州	宮川	フ 御定府 ■	田安もちの木	浅草すわ〔諏訪〕丁・本所 巻ツ目	本所中の郷	あさき〔浅葱〕、一端黒 	こんじ〔紺地〕ニ白紋、足軽中間同 	正穀/まさざね

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	松平和泉守	6万	参州	西尾	フ ■	ごふくはし〔呉服橋〕内	白かね〔金〕	深川万年丁	あさ〔麻〕、白 	こん〔紺〕地ニ白キ丸、皆白 	乗寛/のりひろ
イ	松平長門守	2万1200	豊後	府内	フ ■	筋違ばし〔橋〕	本所石わら〔原〕	染井よ、〔代々〕木	白もめん〔木綿〕 	白もめん〔木綿〕 	近傭/ちかとも
イ	松平主水正	1万6000	参州	奥殿	フ	あさぶりうと〔麻布龍土〕	麻布三間坂	三田汐見坂	赤らしや〔羅紗〕、ほしくろ〔星黒〕 	こん〔紺〕地ニ白ク 	乗尹/のりただ
●	南部大膳大夫	10万	奥州	盛岡/モリヲカ	ト ■	外櫻田	木引〔挽〕丁つきち〔築地〕	麻布・おんてん〔隠田〕		-	利敬/としたか

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	松平備前守	2万	上総	大田喜	フ ■	駿河臺	小石川白山原	深川	白もめん〔木綿〕、すじくろ〔筋黒〕 	-	正升/まさのり
●	松平右京大夫〔亮〕	8万2000	上州	高崎	フ ■	日比谷御門内	こん弓丁	本所石わら〔原〕・海辺大工丁	金 	-	輝和/てるやす
●	松平主殿頭	7万	肥前	嶋原	フ ■	すきやはし〔数寄屋橋〕内	三田二丁目	目黒	赤らしや〔羅紗〕 	-	忠馮/ただより
イ	松平丹波守	6万	信州	松本	フ ■	ごふく〔呉服〕橋の内	あたこ〔愛宕〕の下	白かね森木谷・下ふか〔深〕川	せふせふひ〔猩々緋〕 	-	光年/みつづら

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	中川修理大夫	7万440余	豊後	岡	ト ■	芝一町目	増上寺うら 〔裏〕 門前	わくら〔和 倉〕、南八丁 ぼり〔堀〕	あさ〔麻〕、 白 	こん〔紺〕に白 	久貴/ひさたか
イ	松平伯耆守 〔大隅守〕	7万	丹後	宮津	フ ■	かぢはし〔鍛冶 橋〕の内	-	本所石原・大 久保	金 	-	宗允/むねただ
イ	本庄甲斐守	1万	濃州	高富	フ 御定府	小川丁	-	目白たい 〔台〕	金かわ 	-	道利/みちとし
●	松平伊豆守	7万	参州	吉田	フ ■	西の御丸下	-	深川蛤丁・谷 中・北新ほり 〔堀〕	朱ノ旁打	-	信明/のぶあきら

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	稲葉能登守	5万6000余	豊後	臼井 〔杵〕/ うスイ	ト ■	久保丁	-	かわらけ丁	もめん〔木綿〕三ツ引 	あさき〔浅葱〕トニ 白ク 	弘通/ひろみち
● ヲ	立花左近将監	11万9600余	筑後	柳河	ト ■	下谷御徒丁	浅草鳥越	門前末	アサ〔麻〕、 下黒、自分紋 	もめん〔木綿〕、自 分紋 	鑑寿/あきひさ
●	立花出雲守	1万	筑後	三池	ト	西ノ御丸下	本所五ツばし 〔橋〕	下谷二長丁	アサ〔麻〕 	もめん〔木綿〕 	種周/たねちか
●	牧野佐渡守	3万5000	丹後	田辺	フ ■	江戸橋向	はま〔浜〕丁	本所・さるへ 〔猿江〕	あさ〔麻〕、 白 	-	宣成/ふさしげ

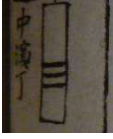
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
-	大久保帯刀	11万3129余	-	-	-	増上寺海手	-	-		-	不明
●	大久保山城守	3万	下野	烏山	フ ■	浅草寺町	-	すかも〔巢鴨〕	白革 	-	忠喜/ただよし
イ	稲葉丹後守	10万2000	大〔山〕城	淀	フ ■	小川町	木挽丁つきぢ〔築地〕	渋谷	とりけ〔鳥毛〕 	あさきじ〔麻生地〕 	正謹/まさのぶ
-	稲葉播磨守	1万	安房	館山/タテヤマ	フ	-	さるへ〔猿江〕	目白	-	-	正武/まさたけ

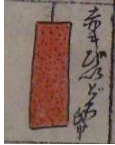
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	酒井大和守	1万2000	房州	勝山	フ	下谷廣小路	-	駒込・湯嶋天神	紋くろ〔黒〕、金 	-	忠和/ただより
●	酒井左衛門尉	14万余	羽州	庄内・鶴岡	フ ■	神田橋之内	柳原新橋通・浅草橋之外	すかも〔巢鴨〕	せうせうひ〔猩々緋〕 	こん〔紺〕地ニ白地もん〔紋〕付、地くろ〔黒〕も有、いろいろ、下へ手前紋 	忠徳/ただあり
●	酒井石見守〔大学頭〕	2万5000	羽州	松田〔山〕	フ	浅草七新丁	四ツ谷仲殿丁	千駄ヶや〔谷〕	子持すし〔筋〕白 	-	忠禮/ただのり
●	大久保安藝守	11万3129余	相州	小田原	フ ■	増〔上〕寺海手	麻布六本木	すかも〔巢鴨〕	赤らじや〔羅紗〕ニ丸白 	白もめん〔木綿〕 	忠真/ただざね

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
-	戸田因幡守 〔能登守〕	7万7850	下野	津宮 〔宇都宮〕	フ ■	筋違橋之内	-	千駄〔ヶ〕 谷・深川	白らしや〔羅紗〕、たんさく〔短冊〕 	-	忠翰/ただなか
-	戸田大炊頭 〔長門守〕	1万1000	下野	足利	フ	小川町	-	青山・おんてん〔隠田〕	金かわ、水の み 	-	忠喬/ただたか
ヲ	秋元但馬守	6万	羽州	山形	フ ■	呉服橋之内	濱丁	渋谷末つのはす〔角筈〕・池のはた〔之端〕・ふか〔深〕川		-	永朝/つねとも
●	酒井相模守 〔右京亮〕	1万	越前	敦賀	フ 御定府	外櫻田	-	芝高なわ〔輪〕	金、きんなわ とんぼり結 	-	忠薫/ただえ

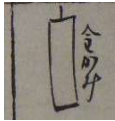
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	大久保帯刀	1万3000	相州	荻野山中	フ	小日向新坂	つきし〔築地〕	本所きく〔菊〕川丁	白地筋こん〔紺〕 	-	教孝/のりたか
●	安部摂津守	2万250余	武州	岡部	フ ■	永田馬場	-	下谷右馬殿丁	上赤らしや〔羅紗〕、下白二枚廿句 	あさき〔浅葱〕地二白キ角三ツ 	信亨/のぶみち
ヲ	戸田采女正	10万	濃州	大垣	フ ■	呉服橋之内	-	-	赤キびいどろ紙 	-	氏教/うじのり
ヲ	戸田左近将監	1万	濃州	大垣新田	フ 御定府	外さくら田	-	小日向	赤、白すし〔筋〕 	-	氏宥/うじのり

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	丹羽勘助 ・	1万	播州	三草/ミ クサ	フ 御定府	外櫻田	-	-		足輕、中間、地こん 〔紺〕、紋白、同前 	氏昭/うじてる
●	真田右京大夫 〔弾正大弼〕	10万	信州	松代	フ ■	麻布溜池	赤坂南部坂	赤坂なんぶ 〔南部〕坂・ 谷中三崎	黒らじや〔羅 紗〕 	-	幸専/ゆきたか
●	阿部豊後守 〔播磨守〕	10万	武州	忍/ヲシ	フ ■	山下御門之内	あさぶりうと 〔麻布龍土〕	あさぶ〔麻 布〕・百姓 丁・深川高は し〔橋〕	白毛 	こん〔紺〕地あさぎ 〔浅葱〕、白地も 有、下へ手前紋 	阿部正由/まさより
●	阿部伊勢守	10万	備後	福山	フ ■	小川丁	本郷丸山	本所石原・本 所十間川	青毛 	白もめん〔木綿〕 	正倫/まさとも

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	本多大和守	1万	播州	山崎	フ	濱町	-	本所林丁	金かみ 	同〔本多中務大輔に同じ〕 	忠居/ただをき
●	本多弾正大弼 〔河内守〕	2万	奥州	泉	フ	辰之口南角	赤坂氷川たい 〔台〕	つきち〔築地〕御門跡前		足軽、中間同、地こ ん〔紺〕紋白 	忠誠/ただしげ
イ	本多伯耆守	4万	駿州	田中	フ ■	すきやはし〔数寄屋橋〕内	三河たい 〔台〕	市谷新本村	銀三ツどう金 	白もめん〔木綿〕、 赤く本 	正温/まさはる
●	丹羽左京太夫	10万700	奥州	二本松	■	永田馬場	芝新あみ 〔網〕	青山長者丸	銀一枚かわ 	-	長祥/ながあき

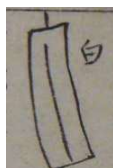
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	柳沢金蔵	1万	越後	黒川	フ 御定府	牛込横寺丁	-	本所割下水	金かわ〔皮〕 	中間白、足軽 	光被/みつひ
●	柳沢信濃守	1万	越後	三日市	フ 御定府	下谷三味線端	-	巢鴨/スかも	毛白ト黒 	足軽之紋は◇此逆付 ル、中間地□い■、 もん〔紋〕白 	里之/さとゆき
●	榊原式部大輔	15万	越後	高田	フ ■	一ツ橋之外	池之はた 〔端〕	-	せふぜふひ 〔猩々緋〕、 切さき 	足軽ハ紋白、地こん 〔紺〕紋白中間 	政敦/まさあつ
ヲ ●	本多中務大輔	5万石	参州	岡崎	フ ■	日比谷御門之内	浅草色町	本郷森川宿		こん〔紺〕地ニ白キ 三ツだんこ 	忠頭/ただあき

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	松平下総守	11万〔10万〕	勢州	桑名	フ ■	和田倉之内	木挽丁四丁め〔目〕	浅草鳥越	上金、下白毛 	もめん〔木綿〕 	忠和/ただとも
●	松平玄番頭/ 桑名御別家	1万〔2万〕	上州	小幡	フ	つきち〔築地〕	永田馬場	千駄ヶ谷	白さらし 	足軽、中間も同揃、 こん〔紺〕、すし〔筋〕白 	忠恵/ただしげ
●	奥平大膳大夫	10万	豊前	中津	フ ■	木挽丁汐留はし〔橋〕	てつほうす〔鉄砲洲〕	二本榎	黒らしや〔羅紗〕、一すじ〔筋〕白 	こんし〔紺地〕二白丸 	昌高/まさたか
●	松平甲斐守	15万1280	大和	郡山	フ ■	幸橋之内	浅草かや〔瓦〕丁	芝新ほり〔堀〕・駒込本所さるへ〔猿江〕	せふぜふひ〔猩々緋〕、紋白 	白もめん〔木綿〕、そは黒 	柳沢保光/やすみつ

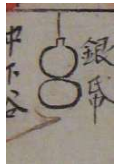
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	酒井左近将監	1万	〔播州〕	〔姫路新田〕 内證分	フ 御定府	かきから〔蛸殻〕丁	-	-	白らしや〔羅紗〕 	-	忠交/ただかた
●	酒井下野守	2万	上州	伊勢崎	フ	愛宕下	愛宕下	本所横網	白 	-	忠哲/ただあきら
●	酒井修理大夫	11万3508余	若州	小濱	フ ■	はま〔浜〕丁	はま〔浜〕丁	牛込	大判ニツ切、金 	白もめん〔木綿〕、 筋黒も在り、こん 〔紺〕地ニ白キも有 	忠貫/ただつら
●	松平中務少輔	1万2000	下総	多古	フ	小石川富坂町	大久保	小石川	せふぜふひ 〔猩々緋〕 	通りは竹、本処紋 白、足軽、中間同前 	勝升/かつゆき

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	小笠原信濃守	1万	播州	安志/アンシ	フ	小川丁富坂下	-	本所五つめ〔目〕	せふぜふひ〔猩々緋〕 	こんじ〔紺地〕ニ白キ小 	長禎/ながよし
●	小笠原佐渡守	6万	奥州	棚倉	フ ■	外桜田	上郷御弓丁	本所高輪	金かわ、すじくろ〔筋黒〕 	-	長堯/ながたか
イ	小笠原相模守	2万2077	越前	勝山	フ ■	神田橋之外	-	本所五ツ目	白 	-	長貴/ながたか
イ	酒井雅樂頭	15万	播州	姫路	フ ■	-	かきから〔蛎殻〕丁	大崎〔か〕・小川丁	白らじや〔羅紗〕 	白もめん〔木綿〕 	忠道/ただひろ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	本多伊豫守	1万5000	勢州	神戸/カンヘ	フ ■	新橋之内	-	高輪	金紙、地黒 	あさき〔浅葱〕地ニ 白キ本 	忠裔/ただひろ
●	本多豊後守	2万	信州	飯山/イ、ヤマ	フ ■	永〔高〕田馬場	永〔高〕田馬場	二本糸のき〔榎〕	白もめん〔木綿〕 	-	助受/すけつぐ
●	小倉/小笠原 右近将監	15万	豊前	小倉	フ ■	神田橋之内	下谷	市谷	銀紙 	こんじ〔紺地〕ニ白 キ 	忠苗/ただみつ
●	小笠原近江守	1万	豊前	新田	フ	鉄炮洲	-	深川	赤らしや〔羅紗〕ニもよき〔萌葱〕 	こんじ〔紺地〕ニ白 キ小 	貞温/さだあつ

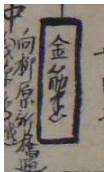
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	松平隠岐守	15〔万〕	伊豫	松山	フ ■	芝愛宕下	三田四國町	二本榎/糸のき	しよろ〔棕櫚〕のけ 〔毛〕のこと 〔如〕く 	白もめん〔木綿〕、 下自分もん〔紋〕 	定国/さだくに
●	松平越中守	11万	奥州	白川	フ ■	北八丁堀	巢鴨	木挽丁・つきじ〔築地〕	金 	足輕、中間同 	定信/さだのぶ
●	松平忝岐守	3万5000	伊豫	今治/イマハリ	フ ■	きしばし〔雉子橋〕通・小川丁	-	-	上少茶、赤、黒 	こんじ〔紺地〕ニ白 	定剛/さだよし
●	本多隠岐守	6万	江州	膳所	フ ■	南八丁堀	-	亀戸	赤、白 	こん〔紺〕地ニ白ク本 	康完/やすさだ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	佐竹亀丸/沓岐守様御事	2万	羽州	新田	ト	浅草鳥越	-	はま〔浜〕丁	赤、青 	-	義知/よしちか
ヲ	岩城左京亮〔伊予守〕	2万	出羽	亀田	ト	小石川御門内	-	大久保・本所五ツ目	赤 	足軽、地紺、紋白、中黒 	隆恕/たかのり
ヲ●	上杉弾正大弼	15万	羽州	米澤	ト ■	外桜田御堀通	あさ〔麻〕布	芝白金	金、銀 	中間  此足軽者紋 	治広/はるひろ
●	上杉駿河守〔淡路守〕	1万	羽州	米沢新田	ト	飯田丁	-	-	上黒色、せふぜふひ〔猩々緋〕ニツ間 	足軽・中間、地こん〔紺〕、もん〔紋〕白、同前 	勝定/かつさだ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	久留米	21万	筑後	久留米	△ ■	麻布古川町山内 〔2字判読不能〕	〔4字判読不能〕倉	高輪・千駄ヶ谷	黒赤らしや 〔羅紗〕 	てんでん	有馬頼貴/よりたか
●	有馬備後守	1万	上総	五井/コイ	-	幸橋之内	-	深川	金 	-	久保/ひさやす
ヲ	有馬左兵衛佐	5万	越前	丸岡	フ ■	幸橋之外	宇田川丁	目黒	せうせうひ 〔猩々緋〕、 家中之印下二 自分紋 	こん〔紺〕地二 	菅純/しげすみ
●	佐竹右京太夫	25万5000	出羽	久保田	ト ■	下谷七軒町	向柳原新橋 通・浅草鳥越	ふか〔深〕 川・日暮里	金筋黒 	-	義和/よしまさ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	藤堂和泉守	32万3950	勢州	津	△ ■	向柳原	下谷御徒士町	両国はし 〔橋〕詰・そ め〔染〕井	白ねり、家中 色々 	白もめん〔木綿〕、 黒 	高嶺/たかさど
イ	藤堂左近将監	5万3000	勢州	久居	ト ■	向柳原	向柳原	下谷七軒丁	赤 	-	高兌/たかさわ
ヲ	阿州	25万7900	阿州	徳島	△ ■	鍛冶橋之内	三田四國丁	白銀七町目・ 南八丁ほり 〔堀〕	黒らしや〔羅 紗〕長 	もめん〔木綿〕 	蜂須賀治昭/はるあき
ヲ	土州	24万2000	土佐	高智/タ カチ 〔高 知〕	△ ■	鍛冶橋之内・山 内村〔2字判読 不能〕寺	三田新網丁	品川	下二自分紋 有、上下黒と 赤と又中金、 赤も有、又ア イ〔藍〕も有 	もめん〔木綿〕、自 分紋 	山内豊策/とよかず

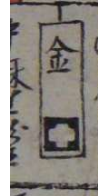
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	池田信濃守	2万5000	備前 〔中〕	新田 〔鴨 方〕	ト	浅草鳥越	-	-	赤 	-	政直/まさなお
ヲ	池田山城守	1万5000	備前 〔中〕	新田 〔生 坂〕	ト	芝愛宕下	麻布長坂	-	赤らしや〔羅 紗〕、ふちと り〔縁取り〕 外くろ〔黒〕 	こん〔紺〕地ニ白キ 	政恭/まさゆき
ヲ	井伊掃部頭	35万	江州	彦根	フ ■	櫻田御門外	赤坂	南八丁ほり 〔堀〕・千 駄ヶ谷	無之	-	直中/なおなか
●	井伊兵部少輔	2万	越後	與板/ヨ イタ	フ	数寄屋橋内西御 丸下	神田佐久間丁	-	せうぜうひ 〔猩々緋〕 	-	直朗/なおあきら

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	松平相模守	32万5000	因州	鳥取	△ ■	八代洲河岸	-	芝金杉・おんてん〔隠田〕・品川戸越村	二枚共金がみ〔紙〕、長 	白もめん〔木綿〕、中くろ〔黒〕 	池田斉邦/なりくに
ヲ	松平豊前守	3万	因州	新田〔鹿野〕	ト	本芝	-	廣尾	金紙、長、因州のごとく 	もめんし〔木綿地〕こん〔紺〕三ツ引白 	池田仲雅/なかまさ
● ヲ	松平縫殿頭	2万	因州	新田〔若桜〕	ト	鉄炮洲十間町	-	本所	金紙、長、因州の如し 	白、こきこん〔濃き紺〕と、もめん〔木綿〕 	池田定常/さだつね
ヲ	松平上総介	31万5200	備前	岡山	△ ■	大名小路	築地	大名小路・本所・大崎丁	てんでん 	殿衆、こん〔紺〕地ニ白ク、二印、家中てんでん無印 	池田斉政/なりまさ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	松平肥前守	35万7000余	肥前	佐賀	△ ■	山下御門之内	溜池の上	しぶや〔渋谷〕ないき〔内記〕坂	上金下黒 	-	鍋島治茂/はるしげ
●	鍋島紀伊守	7万3250余	肥前	小城	ト ■	幸橋之内	麻生〔布〕龍王〔土〕	本所	皆金 	-	直知/なおとも
イ	鍋島甲斐守	5万2600余	肥前	蓮池	ト	麻布龍土	-	二本糸のき〔榎〕	白か〔虫損〕らしや〔羅紗〕、赤らしや 	こん〔紺〕地ニ白キ 	直温/なおはる
●	鍋島和泉守	2万	肥前	かしま〔鹿島〕	ト	麻布龍土	-	白金	上金、下黒 	こんし〔紺地〕ニ白キ秋 	直宜/なおよし

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	毛利石見守 〔日向守〕	3万	周防	徳山	ト	赤坂今井	-	式本糸のき 〔二本榎〕	赤黒黄らしや 〔羅紗〕三枚 	こん〔紺〕地ニ白キ 三ツ 	広鎮/ひろしげ
イ	毛利直次郎	5万余	長州	府中	ト □	麻布日ヶ窪	-	白金甲道場	さらし 	-	元義/もとよし
ヲ	毛利讃岐守	1万	長州	清末	ト	芝切通シ	-	-	白毛 	こん〔紺〕地ニ白キ 	匡邦/まさくに
ヲ	毛利伊勢守	2万	豊後	佐伯/さいキ	ト ■	愛宕下佐久間小路	-	芝白金	白毛 	白もめん〔木綿〕、 黒、あさき〔浅葱〕 	高標/たかすえ

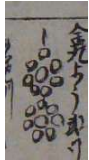
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
イ	黒田靄松	3万	上総	久留里	-	下谷廣小路	目白臺	本所石原	金 	-	長温/なおあつ
イ	松平安藝守	42万6000	藝州	廣嶋	△ ■	櫻田霞ヶ関	永田ばば〔馬場〕	赤坂臺・青山宿末・つき〔築〕地	もめん〔木綿〕三筋くろ〔黒〕、紋自分紋 	自分紋付 	浅野齊賢/なりかた
-	松平近江守	3万	右之内〔藝州〕	新田	御定府	青山おんてん〔隠田〕	-	-			浅野長員/ながかず
ヲ	松平大膳大夫	36万90余	長州	萩	△ ■	日比谷御門之内	外さくらた〔桜田〕	麻布	白毛 	こん〔紺〕地二白キ 	毛利齊房/なりふさ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	細川與松〔和泉守〕	3万	肥後	宇土	ト	永田町	あたこ〔愛宕〕の下・神保小路	白金猿丁		こんち〔紺地〕ニ白 二すし〔筋〕 	立之/たつゆき
● イ	細川長門守	1万6300余	常州	谷田部	-	元誓願寺前	-	本所中の郷	せうせうひ 〔猩々緋〕中 白 	-	興徳/おきのり
●	松平筑前守	52万余	筑州	福岡	△ ■	櫻田霞ヶ関	ためいけ〔溜池〕	芝白金臺・しぶや〔渋谷〕	無之	無之	斉清/なりきよ
イ	黒田甲斐守	5万	筑州	秋月	ト □	芝新堀	-	白銀	せうせうひ 〔猩々緋〕 	こんし〔紺地〕ニ白 キ秋 	長舒/ながのぶ

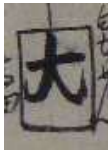
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	伊達遠江守	10万	伊豫	宇和嶋	ト ■	麻布〔龍〕土	木挽丁	白銀原	金かわ 〔皮〕、せう せうひ〔猩々 緋〕 	白もめん〔木綿〕、 紋あか〔赤〕 	村壽/むらなが ・
●	伊達若狭守	3万	伊豫	吉田	ト	南八丁堀	-	白金	赤らしや〔羅 紗〕ニくろ 〔黒〕、上金 少シ 	こんち〔紺地〕に白 キ九よう〔曜〕、絛 	村芳/むらよし
●	細川越中守	54万	肥後	熊本	■ △	大名小路	-	いさらこ〔伊 皿子〕臺・白 かね〔金〕	白毛 	元地ニ白キ2すし 〔筋〕、白ヌキもん 	斉茲/なりしげ
●	細川能登守	3万5000	右之内 〔肥 後〕	新田	御定府	鉄炮〔砲〕洲	鉄炮〔砲〕洲 舟松丁	本所中之郷	金九よう 〔曜〕式ツ付 	-	利庸/としつね

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	松平薩摩守	77万800	薩州	鹿児島	■ △	芝新馬場	幸はし〔橋〕 の内・芝新ほ り〔堀〕	品川・高なわ 〔輪〕	まわりきん 〔金〕、中朱 色、自分紋 	あさ〔麻〕 	島津齊宜/なりのぶ
●	嶋津淡路守	2万7070	日向	佐土原	ト ■	芝三田小山	芝新ほり 〔堀〕	白金	マハリ金二而 紋くろ 	もめん〔木綿〕白二 所、こん黒二所 	忠持/ただもち
ヲ	松平陸奥守	62万5600	奥州	仙臺	■ △	芝町三丁目海手	あたこ〔愛 宕〕の下	麻布・木挽 丁・ふか 〔深〕川・袖 かさき・品川	赤らしや〔羅 紗〕 	-	伊達周宗/ちかむね
ヲ	田村左〔右〕 京大夫	3万	奥州	一関	ト	愛宕下	あたこ〔愛 宕〕の下	青山百人町	銀 	-	宗頭/むねあき

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
無	松平播磨守	2万	常州	府中	御定府	小石川伝通院後	-	すかも〔巢鴨〕・小名木川		-	頼説/よりひさ
●	松平大炊頭	1万	常州	央戸	御定府	目白臺	-	高田・本所三ツ目	くり色なめし かわ角 	白もめん〔木綿〕 	頼救/よりすけ
●	松平越後守	5万	美作	津山	■	鍛冶橋御門内	-	高田・本所三ツ目	くり色なめし かわ角 	白もめん〔木綿〕 	康又/やすはる
● イ	前田大和守	1万14	上州	七日市	ト	半蔵御門外	-	本所小梅		-	利以/としもち

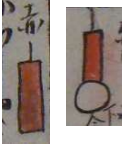
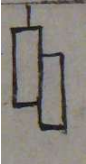
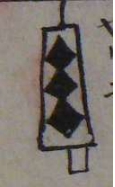
【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	松平佐兵衛督	1万	上野	矢田	御定府	赤坂薬研坂	-	千駄〔ヶ〕谷	金 	-	信充/のぶみつ
●	水戸中納言殿	35万	常陸	水戸	△ ■	小石川御門之外	本郷追分・目 白	永代新田・小 梅村	不定	-	徳川治保/はるもり
●	松平讃岐守	12万	讃州	高松	■	小石川御門之内	小石川御門 内・龍〔隆〕 慶橋	白金九丁目・ 小石川金杉	白地紋赤 	こん地高白 	頼儀/よりのり
-	松平大学頭	2万	奥州	守山	御定府	大塚吹上	關口	かや野	銀箔 	-	頼亮/よりあきら

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	尾張殿	61万9500	-	名古屋	△ ■	市谷御門之外	かうし〔麴〕 丁十丁目・四 谷御門外	大久保外山・ 木挽丁つきち 〔築地〕	猩々緋 	てんてん〔てんで ん〕	徳川斉朝/なりとも
ヲ	松平弾正大弼	3万	濃州	高須	-	四谷伊賀丁	-	-	赤 	-	勝当/かつまさ
●	紀伊殿	55万5000	-	和歌山	△ ■	麴町五丁目	赤坂くいちが い〔喰違〕 外・南八丁ほ り〔堀〕	しぶや〔渋谷〕・千だが や〔駄ヶ谷〕	無之 	印無	徳川治宝/はるとみ
●	松平左京太夫	3万	伊豫	西條	御定府	青山百人町末	-	しぶや〔渋谷〕	無之	-	頼啓/よりゆき

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
ヲ	保科越前守	2万	上総	飯野	フ	芝新堀向	-	品川	赤 赤らしや〔羅 紗〕下丸金 	-	正率/まさのり
●	加賀宰相殿	102万2700	加州	金沢	△ ■	本郷五丁目	染井	深川・板はし 〔橋〕		-	前田治脩/はるなが
●	松平出雲守	10万	越中	富山	ト ■	下谷池ノ端	-	ばんずゐいん 〔幡随院〕後		-	前田利謙/としのり
●	松平飛騨守	7万	加州	大聖寺	ト ■	下谷池ノ端	池ノ端	千駄木	地金左りまき 赤 	-	前田利考/としやす
※この箇所に「諸大名様方 鎗印・御屋敷付・荷印」とあり											

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	松平右近将監	1万	雲州	母里	御定府	青山久保丁	-	-	赤 	-	直方/なおかた
●	松平大和守	15万	武州	川越	■	赤坂溜池ノ臺	あさぶ〔麻布〕市兵へ〔衛〕丁	二本榎	金五歩すじ 	-	直恒/なおつね
●	松平左兵衛様	6万	播州	明石	■	半蔵御門ノ外	高なわ〔輪〕	-	ぎらしや〔黄羅紗〕 	-	直周/なおちか
●	松平肥後守	23万	奥州	會津	■	和田倉御門内	源助丁御内	三田うら〔浦〕丁・深川高はし	てんてん〔てんでん〕	-	容頌/かたのぶ

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」 本編 表

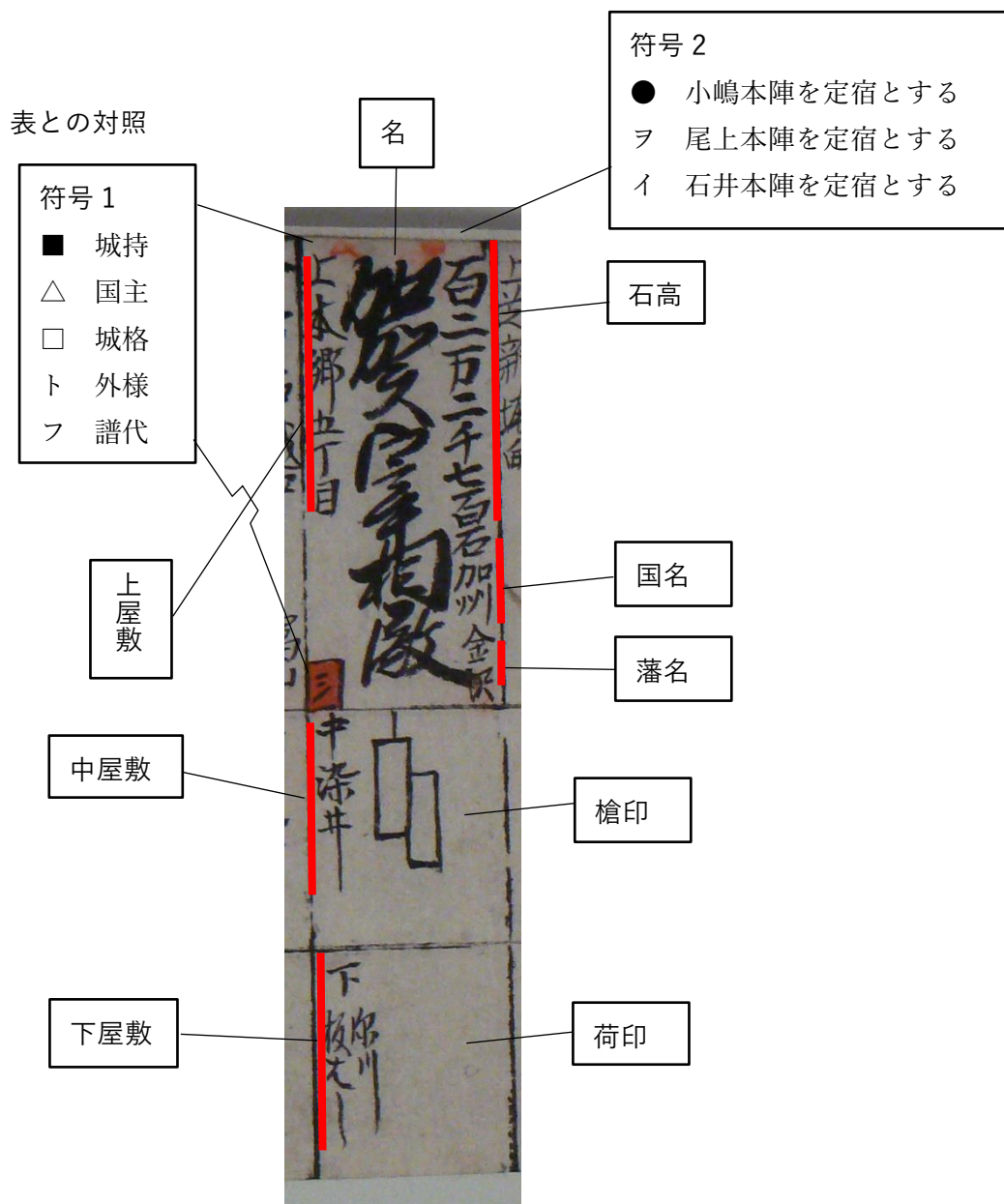
符号2	名	石高	国名	藩名	符号1	上屋敷	中屋敷	下屋敷	槍印	荷印	姓・諱
●	松平越前守	30万	越州	福井	■	常盤橋ノ内	れんかん嶋 〔靈巖島〕	すがも〔巢鴨〕	無之 女かさ 	無印	治好/はるよし
●	松平日向守	1万	越後	〔糸〕 魚川	御定府	赤坂溜池ノ上	-	青山	せうせうひ 〔猩々緋〕 	-	直紹/なおつぐ
イ	松平出羽守	18万6000	出雲	松江	■	赤坂御門ノ内	四谷中丁・ かうし〔麴〕 丁六丁目・ 赤坂御門外	あを〔青〕山 今井・はま 〔浜〕丁	黒らしや〔黒 羅紗〕 	-	治郷/はるさと
イ	松平上野介	3万	出雲	廣瀬	フ ■	四ツ谷御門外	-	大久保	赤 けいらん白し 	-	直義/なおよし

【表凡例】

- ・石高は算用数字に改めた。
- ・符号1には符号ではない表記もある。
- ・亀甲括弧〔〕は執筆者が付した内容。
- ・名の表記は原則としてそのままであり、実際には相続されている場合もある。
- ・-は空欄を示す。
- ・振り仮名がある場合は/の後に表記した。



写真 4丁表



此内七領カ
内、老領ハ八分ハ〔朱書〕●〔朱書ここまで〕なつ印

百四拾三領之内

奥御大名様方

六拾四領〔朱書〕●〔朱書ここまで〕

引ベ東海道被為 遊御通行候

御大名様方

七拾九領 御出入●

尤此内御定府之御方様も有之候

ヲ

七拾六領 御出入

内五領カ

七拾六領之内

奥御大名様方

式拾領

引ベ東海道被為 遊御通行候

御大名様方

ヲ

五拾六領 御出入

此内御定府も有之候

イ

三拾九領 御出入

内式領カ

三拾九領之内

奥御大名様方

拾三領

【三五丁裏・裏表紙】



大磯宿

御本陣

小嶋氏

三 本編の解読

四丁表から二四丁裏までが本編となる。体裁は写真の通りであり、本稿ではより内容を理解しやすくするため、後述する記載に従って表にまとめた。なお、表には参考として姓と諱を追加した。

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」(富田・荻野)

【三丁裏・凡例】



■ 城持之御方様

△ 国主御方様

□ 城格之御方様

ト 外様

フ 御譜代之御方様

● 御定宿

ヲ 尾上定宿

イ 石井定宿

※符号の色は写真参照。

【二六丁裏く二八丁裏・集計など】
相陽大磯宿

御本陣

小嶋才三郎周幹

書

同才三郎倅

小嶋悦蔵周政

引く 東海道御通過御通行候

御大名様方

イ

式拾六領 御出入

此内御定府も有之候

三軒

惣く 式百五拾八領

御本陣有之候

外六領ハ御本陣無之候

く 式百六拾四領

右寛政十二年

庚申六月ろ七月朔日

迄ニ書出申傳物也

...

御大名様方

都合式百六拾四領

内百四拾三領御出入 ●

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」

富田 三紗子(当館学芸員)

荻野 龍子(元古文書解読クラブ会員)

一 はじめに

大磯町郷土資料館(以下、当館)は、江戸期に大磯宿の本陣を務めた小嶋(1)本陣の古文書群を所蔵している。本稿では、その内、寛政一二年

(一八〇〇)の「記憶簿」(2)を紹介する。

この資料は、『大磯町史』にコラムとして紹介されている資料であり(3)、大磯宿に三軒あった本陣のいずれを、どの大名が定宿にしていたのかを示している。また、体裁が武鑑のようになっており、大きく大名の名称が書かれた両脇に、石高と藩名、江戸屋敷の所在地などを記し、槍印と荷印が絵入りで描かれている。

大磯宿小嶋本陣資料については、大磯町教育委員会によって、昭和四〇年(一九六五)から平成元年(一九八九)にかけて断続的に翻刻集が刊行されているが、寛政一二年の「記憶簿」については、その視覚的描写からか収録されていない。そのため、今回初めてその内容を活字化して公表することとなる。本資料は大磯宿の三本陣の力関係を示すだけでなく、同時に作成された「寛政武鑑」と比較することにより、大名研究にも資することができらるだろう。本資料が広く活用されれば幸いである。

注

(1)「小嶋」の表記には「小島」もあるが、本稿では原則として「小

嶋」を使用する。ただし、資料群名としては「小島」が採用されているため、資料群名を表記する際は「小島」を使用する。

(2) 大磯宿小嶋本陣資料六一、法量一七×一二センチメートル

(3) 大磯町編『大磯町史』6通史編古代・中世・近世、大磯町、二〇〇四年、三一二頁

二 表紙・凡例・集計・裏表紙の解読

「記憶簿」には、三丁裏に凡例が記され、本編の末尾(二六丁裏から二八丁裏)に作成者と集計が記されている。ここでは、表紙、裏表紙も含めて、それらの本編以外の解読文を掲載する。

【一丁表・表紙】



寛政(十二カ) 庚申年

記憶簿

夏六月吉日

大磯町郷土資料館年報

令和 6 年度

- ◇ 大磯町郷土資料館年報 第 37 号
- ◇ 令和 7 年（2025）9 月 15 日発行
- ◇ 編集・発行

大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446－1

TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660